

東御市文化芸術推進計画(素案)

芸術や伝統に親しみ、文化の薫るひと・まちづくり

芸術や伝統に親しみ、文化の薫るひと・まちづくり

市長あいさつ文

The diagram illustrates a 10x10 grid of small circles on the left and a larger square on the right, representing a 10x10 grid of larger circles. The small circles are arranged in a 10x10 grid, and the larger square is positioned to the right of the grid, with its side length equal to the side length of the 10x10 grid of small circles.

令和5(2023)年3月

東御市長（花岡利夫）

目次

本編

第1章 文化芸術推進計画策定にあたって.....	1
1 計画策定の背景.....	1
2 計画策定の趣旨と目的.....	3
3 計画の位置づけ.....	3
4 計画の期間.....	4
5 SDGs(持続可能な開発目標)の目標と解説.....	4
6 計画における「文化芸術」の範囲.....	6
第2章 計画の基本的な考え方.....	7
1 計画の基本理念.....	7
2 基本目標.....	7
3 計画の体系.....	8
第3章 文化振興のための具体的施策.....	9
《基本目標1》 歴史に彩られた文化財の保存・継承.....	9
《基本目標2》 多様な文化芸術に親しむ環境づくり.....	11
《基本目標3》 文化芸術に関わる人材の育成.....	14
《基本目標4》 文化芸術を活かした他分野との連携、地域づくりの展開.....	17
第4章 計画の推進にあたって.....	19
1 計画の推進と進捗管理.....	19
2 施策の推進体制と役割.....	20

資料編

東御市の指定文化財一覧.....	23
東御市の文化施設、社会教育施設一覧.....	29
文化芸術に関する市民アンケート調査.....	30
計画策定経過.....	89
東御市の文化芸術振興を考える有識者懇談会 委員.....	90

本編

第1章 文化芸術推進計画策定にあたって

1 計画策定の背景

(1) 社会状況の変化と課題

近年、少子高齢化・グローバル化の進展等社会の状況が著しく変化する中で、文化行政においても、観光やまちづくり、国際交流等幅広い関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術政策の展開が重要視されています。特に少子高齢化の影響により、地域コミュニティの衰退と文化芸術の担い手不足が指摘されており、文化芸術、町並み、地域の歴史等を地域資源として戦略的に活用し、地域の特色に応じた優れた取組を展開することで交流人口の増加や移住につなげるなど、地域の活性化を図る新しい動きを支援することが求められています。

我が国の文化芸術全般にわたる基本的な法律として「文化芸術振興基本法」が平成13年に成立し、「文化芸術の振興に関する基本的な方針」のもと、文化芸術立国の実現に向けた文化芸術の振興に関する取組が進められてきました。しかし、上記のように社会状況が著しく変化する中、文化芸術に求められる役割・期待も大きく変化しており、国等の動向を踏まえながら、自主的かつ主体的に地域に応じた施策等を策定し、実施する責務が課せられています。

(2) 国の動向

① 文化芸術基本法の施行

少子高齢化・グローバル化の進展等社会の状況が著しく変化する中で観光やまちづくり、国際交流等幅広い関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術施策の展開がより一層求められるようになってきたことから、平成29年に「文化芸術振興基本法」を改正し、「文化芸術基本法」が施行されました。この改正は文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の関連分野における施策を法律の範囲に取り込み、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用しようとするものです。例えば児童生徒に対する文化芸術に関する教育の重要性に鑑み、学校等、文化芸術団体、家庭及び地域における活動の連携が図られるよう配慮されなければならないことのほか、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承等に活用することが重要であることに鑑み、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならないこととする規定が追加されています。

文化芸術に関する基本的施策については、芸術、メディア芸術、伝統芸能の振興について、伝統芸能の例示に「組踊」を追加するとともに、必要な施策の例示に「物品の保存」、「展示」、「知識・技能の継承」、「芸術祭の開催」などへの支援を追加したほ

か、生活文化の例示に「食文化」を追加するとともに、生活文化の振興を図るとしていただきます。

②文化芸術推進基本計画の策定

文化庁は、文化芸術基本法の規定に基づき、文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成 30 年に「文化芸術推進基本計画－文化芸術の「多様な価値」を活かして、未来をつくる－（第 1 期）」を策定しました。文化芸術の本質的価値に加え、文化芸術が有する社会的、経済的価値を明確化し、文化芸術立国の実現に向けて、文化芸術により生み出される多様な価値を、文化芸術の更なる継承、発展、創造に活用するとしています。

（3）県の動向

長野県は、平成 21 年に「長野県文化芸術振興指針」を策定し、文化芸術振興に向けた施策を推進してきました。

この間、平成 23 年に発生した東日本大震災以降、文化芸術の果たす役割の重要性が改めて再認識されるとともに、経済成長だけでなく、成熟社会の実現に向けて、文化芸術を振興し、教育、福祉、まちづくり、観光・産業等、幅広い分野に文化芸術の力を波及させていくことが求められてきました。

人口減少の急速な進行等、文化芸術を取り巻く環境の変化を踏まえ、長野県の文化芸術振興の基本目標、施策の方向性等を定めるため、平成 30 年に「長野県文化芸術振興計画」を策定しました。

（4）東御市の動向

東御市では、昭和 62 年に海野宿を重要伝統的建造物群保存地区に決定し、歴史的な町並みの保存事業を推進してきました。平成 24 年には海野宿の歴史的建造物群における滞在を通して歴史及び文化に触れる機会を作り、あわせて地域の活性化及び観光振興に寄与するため、東御市海野宿滞在型交流施設を設置しました。平成 29 年には東御市公共施設等総合管理計画を策定、令和 2 年度に東御市文化施設の個別施設計画を策定し、令和 2 年度から令和 3 年度にかけ、文化会館や梅野記念絵画館の空調設備改修等の設備対策を実施しました。今後は文化施設の継続的な維持・管理や歴史的な文化資源の利活用、東御市独自の文化芸術環境のさらなる充実のため、中長期的な視野に立った施策を計画的に推進していく必要があります。

2 計画策定の趣旨と目的

少子高齢化・グローバル化の進展等社会の状況が著しく変化し、文化芸術の果たす役割の重要性が高まる中、文化施策を総合的かつ持続的に実施し、誰もが文化芸術を身近なものとして感じることができる文化のまちづくりを目指すため、「東御市文化芸術推進計画」を策定いたします。

東御市ではこれまで海野宿を代表する文化財の保存・継承、東御市文化会館や美術館を拠点とした文化芸術振興事業を推進してきました。今後はこれらの事業の持続的かつ計画的な実施に加え、次世代の子どもたちへの継承や文化芸術に触れる機会の創出のための教育普及事業を重点的に実施し、地域文化を活かした他分野との連携事業の推進等、文化芸術の振興から活用まで総合的な施策を展開していきます。

3 計画の位置づけ

本計画は、市政運営の基本となる総合計画である「第二次東御市総合計画」を踏まえ、文化芸術における中長期的な視点に立った基本理念や基本目標などを定めるとともに東御市が、関係主体との連携のもと、文化芸術活動の振興に関する個別具体的計画として位置づけます。また、本計画は文化芸術基本法第7条の2第1項に規定する「地方文化芸術推進基本計画」に位置づけられるものです。



4 計画の期間

令和5年度から令和10年度までの6年間を本計画の期間とします。

5 SDGs(持続可能な開発目標)の目標と解説

「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを原則とし、持続可能で多様性のある社会の実現のため、令和12(2030)年を年限とする17の国際目標が平成27(2015)年9月の国連サミットにて全会一致で採択されました。その中で文化芸術に係ることとして、「地方の文化振興」や「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。」等があります。本計画においてSDGsにおける主要目標を設定し、施策の推進により課題の解決を図り、SDGsの達成につなげていきます。

●本計画が取り組むSDGsの主要目標



すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

- 4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようになる。



すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する。

- 8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。



都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする。

11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。



陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止及び逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る。

15.5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020 年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。



6 計画における「文化芸術」の範囲

本計画が対象とする「文化芸術」の範囲は、文化芸術基本法との整合性を踏まえ、同法が対象とする次の範囲を基本としつつ、東御市の歴史・風土の中で培われた生活文化についても本計画の対象とします。

(1)	芸術	(文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踏等)
(2)	メディア芸術	(映画、漫画、アニメーション、コンピュータ等の電子機器を利用した芸術)
(3)	伝統芸能	(雅楽、能楽、文学、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸術)
(4)	芸能	(講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱等)
(5)	生活文化	(茶道、華道、書道、食文化等の生活に係る文化)
	国民娯楽	(囲碁、将棋等の国民的娯楽)
	出版物等	(出版物、レコード等)
(6)	文化財等	(有形・無形の文化財等とその保存技術)
(7)	地域における文化芸術	(各地域の文化芸術の公演、展示、芸術祭等、地域固有の伝統芸能、地域の人々による民族芸能)

第2章 計画の基本的な考え方

1 計画の基本理念

文化芸術基本法の前文では、「文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものである。」とされており、心豊かな国民生活や活力ある社会の形成にとって極めて重要な意義を持っています。

東御市では、人々が心豊かに生きる社会を築いていくため、先人からの伝統文化を引き継ぎ、優れた芸術から小さな表現活動まで、多様な文化芸術に触れる機会が充実し、誰もが文化芸術を身近なものとして感じることができる文化のひと・まちづくりをめざします。

芸術や伝統に親しみ、文化の薫るひと・まちづくり

2 基本目標

基本理念の実現に向けて、次に掲げる4つの事項を基本目標とします。

《基本目標1》

歴史に彩られた文化財の保存・継承

長い歴史を経て守り伝えられてきた地域の優れた自然、文化、史跡等の文化財の保存と継承を推進します。また、地域に根ざした文化の振興を支援し、次世代に継承します。

《基本目標2》

多様な文化芸術に親しむ環境づくり

優れた芸術から小さな表現活動まで、多様な文化芸術に市民が親しめる環境の充実を図るとともに、誰もが気軽に参加できるさまざまな文化芸術活動に取り組んでいる市民団体の活動を支援します。また、人々が文化芸術に参加しやすい環境づくりのために効果的な情報発信を進めます。

《基本目標3》

文化芸術に関わる人材の育成

文化資源を活用した経済・社会の活性化を実現するため、文化芸術振興を担う人材を育成するとともに、これからの時代を担う子どもたちが、多様な文化芸術に親しめる環境の充実を図ります。

《基本目標4》

文化芸術を活かした他分野との連携、地域づくりの展開

地域の文化財や多様な文化芸術活動を他分野施策と結びつけることにより、地域文化を生かした観光振興や地域課題解決事業を促進し、活気ある地域づくりを推進します。

3 計画の体系



第3章 文化振興のための具体的施策

《基本目標1》 歴史に彩られた文化財の保存・継承

現状と課題

地域が中心となって維持・管理してきた有形文化財、地域に伝わる民俗芸能や民俗慣習などの無形民俗文化財のなかには、少子高齢化や地域コミュニティの希薄化により担い手が減少し、その保存・継承が困難なものがあります。市民の貴重な共有財産である文化財を安定的に保護し、後世に継承していくためにも、保存事業の継続と市民の文化財への理解や機運を高める普及啓発活動の推進が必要です。

具体的施策1

文化財の保存と次世代への継承

市民の地域への愛着や誇りである史跡等の文化財や伝統芸能、歴史的景観を保存し、次世代に継承します。

個別施策

(1)文化財の保護と保存

・未指定の文化財の指定推進

地域の歴史、自然文化資源についての調査を継続し、必要に応じて文化財指定を進め、文化財保護を推進します。また、地域の文化資源保護のための計画的な資料収集を行います。

・指定文化財の調査・保存

東御市の指定文化財について、その価値をより明らかにするために継続的な研究を実施します。また、地域全体で文化財の保存に取り組み、市民を中心とした維持・管理ができる方法を検討します。

(2)伝統芸能や生活文化の継承と活動の促進

・地域の伝統芸能や生活文化の保存継承団体への支援

地域の伝統芸能や生活文化については、担い手が高齢化し、減少傾向にあります。地域の歴史や文化を途絶えさせることなく継承していくため、活動団体への支援を実施します。

・学校による地域の伝統芸能や生活文化の継承

学校の教育課程において地域独自の伝統芸能や生活文化の継承を推進します。



(旧和学校校舎)



(成立石器時代住居跡)



(アケボノゾウ化石の展示)

具体的施策2

文化財への理解の促進

文化財の保存や継承に対する機運を高めるため、普及啓発活動や情報発信を推進します。

個別施策

(1) 市民協働による文化財の啓発活動の推進

- ・文化財の保存・活用団体への支援

地域全体で文化財を保存・活用していく機運を高めるため、文化財の保存・継承等に取り組む団体の普及啓発活動を支援します。

(2) 文化財の情報発信

- ・文化財情報のデジタルアーカイブ化の推進

市内の文化財の価値や魅力をより多くの人に知ってもらうため、文化財情報をデジタルアーカイブ化し、地域で保存・継承に取り組む団体等の情報と共に公開します。また公開・活用のためのコンテンツの作成等について研究します。

- ・文化財情報発信媒体の整備

文化財史跡等を訪れた人にその魅力が伝わるように、案内媒体の整備を行います。



(山浦真雄宅跡)



(東町祢津歌舞伎)

《基本目標2》 多様な文化芸術に親しむ環境づくり

現状と課題

東御市には、東御市文化会館・東御市文書館・丸山晚霞記念館・梅野記念絵画館をはじめ、各公民館等様々な文化芸術に触れる場となる施設が整備されていますが、市民アンケートでは公演、展覧会、芸術祭などの文化芸術事業の充実や子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実を求める回答が多く挙げられており、事業のさらなる充実と継続が求められています。また、少子高齢化による文化芸術活動団体の減少や建設から多年が経過した文化施設の設備更新が見込まれており、ソフト・ハード両面における計画的な対策が必要です。

具体的施策1

文化施設の適切な維持・管理

文化会館や美術館、公民館が市民の文化活動の場、文化芸術活動の拠点として、より利用しやすく身近な施設となる取り組みを推進します。

個別施策

(1)文化施設の適切な維持・管理

・文化施設の適切な維持・管理

東御市の文化施設は、建築から20年以上、30年近く経過するものが多く、今後も定期的な点検等に基づく計画的な改修や地域の文化資源を適切に管理する環境の整備等を実施し、安全・安心・快適に利用できる施設運営を推進します。



(東御市文化会館)



(東御市文書館 古文書管理作業)

具体的施策2

文化芸術に触れる機会の充実

豊かな感性や想像力を育むとともに、生活の豊かさが実感できるよう、市民の関心や質の高い芸術家の展覧会やイベント、ホール事業を開催します。また、文化芸術に関する情報を市民がわかりやすく、利用しやすい情報発信を行います。

個別施策

(1)文化芸術に触れる機会の充実

・文化施設における鑑賞機会の充実

市内文化施設では、様々な企画によって優れた文化芸術に触れる機会を提供しています。今後も優れた文化芸術を鑑賞できる事業を継続するとともに、市民の意識やニーズを把握し、地域の人に身近な事業の展開を目指します。

・地域に根差した文化芸術事業の開催

地域の特性や歴史的背景を活かした文化芸術事業を開催し、誰もが気軽に文化芸術に触れることのできる機会の充実を図ります。

・アウトリーチ事業における鑑賞機会の提供

文化施設によるアウトリーチ事業を継続し、地域の演奏家による音楽体験等の機会、芸術家や専門家などによるワークショップや講座の機会を設けます。

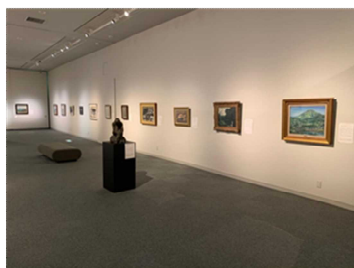
(2)文化芸術情報の効果的な発信

・文化施設ホームページの充実と効果的な情報発信

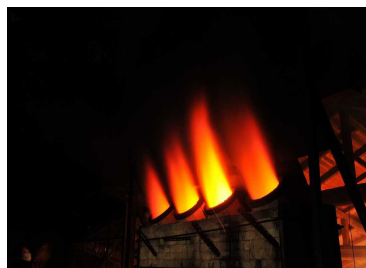
文化芸術に関する情報を入手しやすくするため、文化施設の情報サイトを充実させるとともに、若い世代への浸透を図るため、SNS等を活用した新しい情報発信を実施します。

・文化施設所蔵品のデジタルアーカイブ化の推進と発信

市内文化施設が所蔵する美術品等の価値や魅力をより多くの人に知ってもらうため、各施設の所蔵品情報をデジタルアーカイブ化し、公開します。さらに SNS や動画配信等を活用した積極的な情報発信を実施します。



(梅野記念絵画館企画展)



(火のアートフェスティバル 登り窯)



(柗津歴史散策)

具体的施策3

市民の自主的な文化芸術活動の活性化

市民の自主的な文化芸術活動の活性化を図るため、継続的に活動を行うことができる環境づくりを支援します。

個別施策

(1)文化芸術活動団体への支援

・文化芸術活動団体への支援

市内の各種団体の文化芸術活動の活性化を図るため、文化芸術活動団体への支援を実施します。

(2)発表機会の充実

・個人や団体の活動成果を発表する場の提供

多様な文化芸術の発表の場と機会を設け、市民の創作や表現活動の促進や交流を図ります。



(東御市生涯学習作品展)



(文化会館ホール 演奏発表)

《基本目標3》文化芸術に関わる人材の育成

現状と課題

地域における指導的立場にある人材の高齢化、専門家の不在等により、学校や地域において文化芸術に関する質の高い活動体験の機会、さらには地域文化そのものが失われつつあり、それら活動体験の機会の確保や文化の伝承に向けた体制の整備が求められております。

具体的施策1

文化芸術を支える人材の育成

芸術家や学芸員と連携してより幅広い充実した事業を展開し、文化芸術と地域社会をつなぐ結び手としてボランティアを育成し、協力体制を作ります。また、地域と積極的につながる文化芸術に関わる職員等を育成、充実させ、文化に対する普及啓発活動の取組みを促進します。

個別施策

(1)文化ボランティアの参加促進と育成

- ・市民の文化芸術活動に参加する機運を高める機会づくり

東御市の文化芸術を考える懇談会や講習会を開催し、市の文化芸術活動に参加する機運を高めます。

- ・文化ボランティアの参加促進のための仕組みづくり

地域ボランティア主体の事業を実施し、文化ボランティアとして活動するためのきっかけや地域部活動の展開を見据えた活動の機会づくりを促進します。

- ・文化ボランティアの育成

美術館における教育普及事業や文化財事業の普及活動に関わる地域ボランティアの方々に対し、専門講座等を開催し、その資質を高めます。

(2)文化芸術専門職の登用・育成・資質向上

- ・文化芸術専門職の登用

専門的知見を有する職員等を登用し、文化芸術の普及のための取組みを促進します。

- ・文化芸術専門職の育成・資質向上

文化芸術に関する専門的知見を有する職員等に対し、研修の充実を図り、職員の資質向上と活動の充実を図ります。

具体的施策2

子どもの文化芸術体験、活動の充実

次世代を担う子どもたちが、文化芸術活動に親しむ機会を充実させるため、地域や学校と連携した環境整備に取り組めます。

個別施策

(1)各文化施設、地域団体による教育普及事業

・文化施設による学校への教育普及事業

文化施設による教育普及事業を継続し、音楽や美術、文化財に関する専門的知見を有する職員等による地域資源を活かしたワークショップや講座の機会を設けます。

(2)官域学連携による学校への教育普及事業

・官学連携の教育普及事業

様々な機関と連携し、学習指導要領に基づいた教育普及事業のほか、既存の授業では実施しにくい文化芸術に関する事業の展開や教員向け講習会の開催等により、質の高い体験活動の機会の充実を図ります。

・地域と学校の連携による文化資源発掘事業

子どもたちが地域独自の文化資源を自ら発掘し、主体的に地域文化に関わる機会の創出を図ります。



(大学と連携した教育普及事業)



(スケッチ大会)



(対話鑑賞)

《基本目標4》 文化芸術を活かした他分野との連携、地域づくりの展開

現状と課題

多くの人が文化芸術に触れ、参加し、心豊かな生活、活力あるまちづくりを実現していくことができるよう、文化芸術関係団体にとどまらず、観光、地域づくり、その他の関連団体の連携が必要です。

具体的施策1

文化資源を活かした観光振興

長い歴史の中で育まれた文化財や歴史的景観については、地域の観光資源としての活用を視野に入れ、観光振興につなげます。

個別施策

(1)文化資源を活かした観光誘客推進事業

・「滞在・交流型」観光の推進

東御市では重要伝統的建造物群保存地区「海野宿」に代表される「文化資源」を活かした観光事業を地域の関係団体との連携を図り、推進しています。今後は事業の継続とともに、地域資源を活かした「滞在・交流型」観光を推進していきます。



(海野宿)

具体的施策2

文化資源を活かした地域課題解決

過疎化や少子高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に文化芸術に関わる人材が入り、文化芸術を活かした地域の課題解決や地域づくり活動を実施します。

個別施策

(1)文化資源を活かした地域づくり活動に対する団体への支援

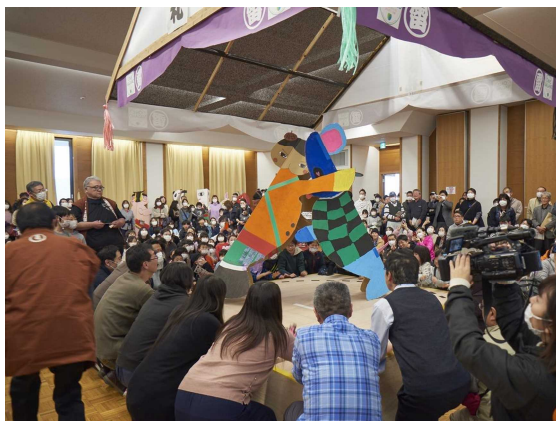
・地域づくり活動支援

地域の文化資源を活かした地域づくり団体への活動支援を実施します。

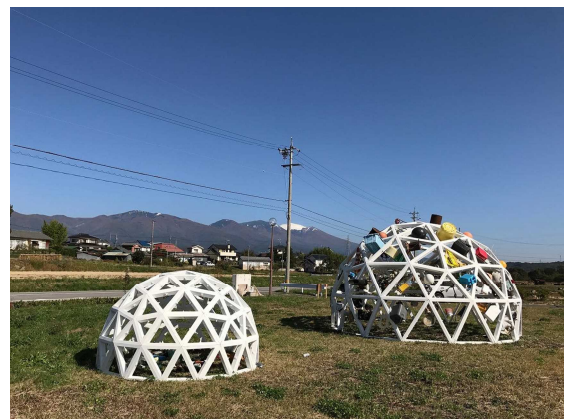
(2)アーティスト・イン・レジデンスの推進

・レジデンス事業による地域課題解決

レジデンスで訪れる芸術家と共に地域の文化芸術を再発見し、地域の魅力向上や地域課題の解決につなげます。



(どんどこ巨大紙相撲大会)



(域学連携事業 天空の芸術祭)

第4章 計画の推進にあたって

1 計画の推進と進捗管理

(1) 計画の推進と進捗管理

本計画の進捗管理は、各部局の事業評価や定期的実施するモニタリング、アンケート調査により数値目標の達成状況を確認し、事業の進捗管理や達成度の点検、成果の検証を行うとともに、必要に応じて計画や目標を見直す等、進捗状況に応じて、計画の改善を図ります。

(2) 計画における数値目標

項目	令和3年度実績値	令和10年度目標
市内指定文化財件数	69(件)	72(件)
人材バンク(仮称)の登録者数	0(人)	50(人)
文化施設利用者数(貸館利用者数)	18,299(人)	±10%
文化施設入場者数(催事参加者数)	17,137(人)	37,879(人)
市内の文化芸術団体の加入者数	948(人)	±10%
学校向け教育普及事業数	7(件)	14(件)
文化芸術専門職員在籍数	10(人)	15(人)
文化資源を活かした主要観光施設入込客数	20,900(人)	256,300(人)
地域づくり活動支援件数	5件	7件

2 施策の推進体制と役割

本計画は、東御市をはじめとして、市民や団体、文化施設をはじめ、それぞれをつなぐ NPO、学校等の教育機関、文化芸術活動を支援する事業者等多様な主体が協働することにより推進します。

(1)市民

文化芸術活動の主役は市民であり、市民一人ひとりが担い手です。自主的で創造的な文化芸術活動を盛んにするとともに、個々の持っている独創性を発揮して、地域文化を向上させることが望まれます。また、地域文化資源の保存・継承・発信等に努めることが期待されます。

(2)文化芸術団体・NPO等

文化芸術活動の担い手として、自主的に創造性を発揮し、文化芸術の継承や新たな地域文化を創造するとともに、市民へ文化芸術活動を提供する役割があります。また、市民が交流し、集い、協働する場となり、地域コミュニティを築くうえでも重要となります。それぞれの団体が、地域・世代などの枠を越えた文化交流に努めるとともに、市や事業者等と連携し、地域コミュニティの活性化や地域文化の向上に寄与することが望まれます。

(3)教育機関

次世代の文化芸術の担い手である子どもたちの育成やコミュニケーション能力の向上のため、学校等において文化芸術の鑑賞・体験活動を行うことが求められます。連携する大学には、専門的見地からの文化芸術の推進やまちづくりに対する貢献、人材育成等が期待されます。

(4)事業者

文化芸術に対する社会貢献や支援活動など、文化芸術活動を支援する役割が期待されます。また、文化芸術事業の実施や文化芸術情報の発信、観光分野等との連携が期待されます。

(5)文化施設等

優れた文化芸術の鑑賞の場や、市民の文化芸術活動の発表の場としての役割をはじめ、文化芸術活動を行う人々の交流の場や、人材育成の場としての機能が求められます。また、市民が気軽に参加できる文化芸術活動を行うことにより、市民の文化芸術活動の裾野を広げることが期待されます。

|(6)市

市民が主役であるという考え方に立ち、拠点となる文化施設等を適切に運営し、文化芸術活動の場の充実や積極的な情報発信を通じて、市民が活動しやすい環境づくりを進めます。市民、団体、NPO、事業者、学校等をつなぐ役割を担うとともに、地域における人材や情報等の様々な資源を活用し、地域の文化ネットワークを整備します。また、東御市の特徴ある文化芸術を広く発信し、東御市ならではの文化的特性の伸張を図るとともに、観光・まちづくり等他分野への文化芸術の活用を推進していくなど、様々な主体と協働し、文化芸術の振興と推進を計画的に進めていきます。

資料編

資料

東御市の指定文化財一覧

No	指定 区分	文化財の名称	種 別	所 在 地	指 定 年月日
1	国	戊戌石器時代住居跡	史 跡	滋野乙 3464-1	昭8. 2. 28
2	国	春原家住宅	重要文化財・建造物	和 7192-1	昭48. 6. 2
3	国	海野宿	重要伝統的建造物群保存地区	本海野一帯	昭62. 4. 28
4	国	児玉家住宅	登録有形文化財	和 7785	平12. 10. 11
5	県	山浦真雄宅跡	史 跡	滋野甲 1939	昭37. 7. 12
6	県	中曽根親王塚古墳	史 跡	和 1104	昭37. 7. 12
7	県	宮ノ入のカヤ	天然記念物	祢津 2358	昭40. 4. 30
8	県	石造竈	県 宝	下之城宮屋敷 169-1	昭50. 7. 21
9	県	木造阿弥陀三尊像	県 宝	大日向屋敷 258	昭51. 3. 29
10	県	旧和学校校舎	県 宝	海善寺 1244-1	昭53. 3. 22
11	県	西宮の歌舞伎舞台	有形民俗文化財	祢津 2253	昭57. 8. 16
12	県	東町の歌舞伎舞台	有形民俗文化財	祢津 1348-19	平2. 2. 19
13	県	宮入法廣	無形文化財	八重原 2-339	平23. 3. 28
14	県	東御市羽毛山・加沢産アケボノゾウ化石群	天然記念物	大日向 337	平29. 3. 16

No	指定 区分	文化財の名称	種 別	所 在 地	指定 年月日
15	市	廃海善寺石塔基礎	有形文化財・建造物	和 1557	昭42. 3. 27
16	市	百体観音石造町石	石造文化財	新張一帯	昭42. 3. 27
17	市	力士雷電生家	史 跡	滋野乙 1981-2	昭42. 3. 27
18	市	鍋蓋砦跡	史 跡	八重原鍋蓋 2264-3	昭42. 12. 11
19	市	八重原堰・黒沢嘉兵衛関連史跡	史 跡	八重原全域	昭42. 12. 11
20	市	外山城跡	史 跡	八重原横山 3166	昭42. 12. 11
21	市	玉の井霊泉	史 跡	下之城清水 1341	昭42. 12. 11
22	市	野馬除跡	史 跡	御牧原 238 他	昭42. 12. 11
23	市	黒槐の木	天然記念物	島川原 154	昭42. 12. 11
24	市	布岩	名 勝	布下	昭42. 12. 11
25	市	塚穴古墳	史 跡	滋野乙 191	昭43. 3. 29
26	市	金井の火まつり	無形民俗文化財	鞍掛・金井地区	昭44. 3. 27
27	市	児玉山古墳群	史 跡	和・東上田	昭47. 3. 20
28	市	祢津城山	史 跡	祢津 3020-2 他	昭49. 2. 5
29	市	君塚古墳跡	史 跡	八重原大土手下 106-1	昭52. 11. 10
30	市	下之城跡	史 跡	下之城 458-3 他	昭52. 11. 10

No	指定 区分	文化財の名称	種 別	所 在 地	指定 年月日
31	市	御小嬢穴	史 跡	下之城梨の木林 1414-1	昭52. 11. 10
32	市	四ツ京塚	史 跡	御牧原四ツ京塚 609	昭52. 11. 10
33	市	立野萱沢入窯跡	史 跡	御牧原 742-1	昭52. 11. 10
34	市	縁切地蔵	有形文化財	島川原下久祢 85- 1	昭52. 11. 10
35	市	二子塚古墳	史 跡	海善寺 346	昭53. 2. 28
36	市	王墳古墳	史 跡	和・曾根 2107	昭55. 3. 21
37	市	有津倉のお念仏	無形民俗文化財	滋野・大石地区	昭55. 3. 28
38	市	拈笑宗英禅師頂相	有形文化財・絵 画	祢津・西宮 1732	昭55. 8. 30
39	市	白鳥神社社叢	天然記念物	本海野 1204-1	昭56. 5. 14
40	市	石尊さまの納め刀	有形民俗文化財	祢津・東町 1347	昭59. 3. 8
41	市	祢津お姫様巨石	有形民俗文化財	祢津・西宮 2455	昭59. 3. 8
42	市	常田の剣持道祖神	石造文化財	常田 711	昭59. 3. 8
43	市	田中の石造仁王像	石造文化財	田中 75	昭59. 3. 8
44	市	片羽八幡水	天然記念物	滋野・片羽 2984	昭59. 3. 8
45	市	宮嶽山陵神社水石	有形民俗文化財	祢津・西宮 2355-3	昭59. 3. 8
46	市	横山西の塚古墳	史 跡	和・寺坂 8333-32	昭59. 3. 8

No	指定 区分	文化財の名称	種 別	所 在 地	指定 年月日
47	市	姫子沢の宝篋印塔	石造文化財	祢津・姫子沢 2904-2	昭62. 2. 18
48	市	西町の市神	石造文化財	祢津・西宮 2144-1	昭62. 2. 18
49	市	祢津陣屋	有形文化財・建 造物	祢津・西宮 2227	昭62. 2. 18
50	市	狐山古墳	史 跡	祢津 151-1	昭62. 2. 18
51	市	木造百体観音像	有形文化財・彫 刻	祢津・東町 1347	昭62. 2. 18
52	市	杏葉等	有形文化財・考 古資料	海善寺・西原出土	昭62. 2. 18
53	市	桜坂偃月刀橋及び碑	名 勝	和・東上田 7101-5	平2. 4. 27
54	市	姫子沢の延命地藏尊	石造文化財	祢津・姫子沢	平2. 4. 27
55	市	田中の勝軍地藏	石造文化財	田中	平2. 4. 27
56	市	八間石	天然記念物	祢津・東町 347-1	平2. 4. 27
57	市	針ノ木沢湧水	天然記念物	県 182	平2. 4. 27
58	市	八幡木逆修塔	史 跡	下之城中村 526	平4. 7. 25
59	市	大日堂	有形文化財・建 造物	祢津・東町 1714	平6. 1. 24
60	市	大日堂の算額	有形文化財・書 跡	祢津・東町	平6. 1. 24
61	市	加沢の念仏講	無形民俗文化財	加沢	平6. 1. 24
62	市	新屋の十王石像	石造文化財	新屋 16-2	平7. 5. 26

No	指定 区分	文化財の名称	種 別	所 在 地	指定 年月日
63	市	桜井神社本殿彫刻	有形文化財・彫 刻	滋野・桜井 1044-2	平7. 5. 26
64	市	東町歌舞伎保存会	無形民俗文化財	祢津・東町	平8. 6. 25
65	市	滋野(片羽)稲荷神社 の皂莢	天然記念物	滋野・片羽 3034	平9. 7. 25
66	市	大石沢の目鏡橋	有形文化財・建 造物	滋野・片羽～赤岩 間	平10. 2. 26
67	市	西峰古窯	有形文化財・窯 跡	八重原 1801-1	平12. 2. 25
68	市	親経塚	史 跡	御牧原北部 4005- 2 他	平16. 3. 25
69	市	アケボノゾウ化石	天然記念物	大日向 337	平16. 3. 25
70	市	両羽神社太刀	有形文化財・金 工品	下之城宮屋敷 169-1	平17. 12. 1
71	市	両羽神社経筒	有形文化財・考 古遺物	下之城宮屋敷 169-1	平17. 12. 1
72	市	オオルリシジミ	天然記念物・動 物	東御市内一帯	平17. 12. 1
73	市	両羽神社神像	有形文化財	下之城宮屋敷 169-1	平24. 10. 17
74	市	両羽神社太鼓	有形文化財	下之城宮屋敷 169-1	平24. 10. 17
75	市	旧桜井村茶屋本陣	史 跡	滋野乙 629	平24. 10. 17
76	市	白鳥神社本殿	有形文化財・建 造物	本海野 1204-1	平24. 10. 17
77	市	新海神社本殿	有形文化財・建 造物	本海野 1204-1	平24. 10. 17
78	市	トキ剥製	天然記念物・動 物	海善寺 1244-1 (東御市立和小学校)	平25. 7. 1

No	指定 区分	文化財の名称	種 別	所 在 地	指定 年月日
79	市	新屋遺跡の仮面土偶	有形文化財・考古資料	県 71-2 (東御市田中資料館)	平25. 7. 1
80	市	古屋敷遺跡の筒形土偶	有形文化財・考古資料	県 71-2 (東御市田中資料館)	平25. 7. 1
81	市	大神宮の大桜	天然記念物	加沢 1409-105	平28. 2. 10
82	市	大川遺跡第 14 号住居址 出土縄文土器	有形文化財・考古資料	和 2628 (和コミュニティセンター)	平29. 2. 17
83	市	久保在家遺跡第 18 号住居址出土縄文土器・土偶	有形文化財・考古資料	県 71-2 (東御市田中資料館)	平29. 2. 17

資料

東御市の文化施設、社会教育施設一覧

種 別	施 設 名	所 在 地
ホール施設	東御市文化会館	東御市常田 505-1
博物館・美術館 施設	東御市文書館	東御市大日向 337
	東御市丸山晚霞記念館	東御市常田 505-1
	東御市梅野記念絵画館・ふれあい館	東御市八重原 935-1
	東御市田中資料館	東御市県 71-2
	海野宿資料館	東御市本海野 1098
	東御市和記念館	東御市海善寺 1244-1
	力士雷電の生家	東御市滋野乙 1981-2
	海野宿玩具館	東御市本海野 855-1
学習施設	東御市立図書館	東御市県 281-2
公民館施設	東御市中央公民館	東御市県 288-4
	滋野コミュニティセンター	東御市滋野 2962
	祢津公民館	東御市東町 917-4
	和コミュニティセンター	東御市和 4651
	北御牧公民館	東御市大日向 337

文化芸術に関する市民アンケート調査

1 目的

このアンケート調査は、「東御市文化芸術推進計画」策定のための基礎資料として、市民の文化芸術に対する関心、意識、活動状況及び課題等の市民ニーズを把握することを目的として令和2年度に実施しました。

2 対象・方法

(1) 個人向け

調査対象 東御市在住の満16歳以上の男女個人(令和2年10月1日現在)

調査方法 無作為抽出(地域別、年代別(10、20、30、40、50、60以上の別)で抽出)

調査人数 2,000人(市民の6.67%)

調査方法 郵送法、オンライン調査法の併用(調査票を郵送し、回答を返信用封筒にて郵送又はオンラインで回収(専用フォーム(QRコード、URL)での回答)

回収状況

	配布数	回収数	回答率
回答結果	2,000	733	36.65%

(2) 関連団体向け

調査対象 東御市内の文化芸術関連団体

抽出方法 東御市文化協会及び地域で活動する文化芸術団

抽出人数 256団体 ※文化協会加盟の各部会及び生涯学習講座実施団体を抽出

調査方法 郵送法(調査票を郵送し、回答を返信用封筒にて郵送で回収)

回収状況

	配布数	回収数	回答率
回答結果	256	163	63.67%

(3) 期日 令和2年10月28日(水)から令和2年11月30日(月)まで

3 結果の見方

・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から一つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100%にならない場合があります。

・複数回答(複数の選択肢から二つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。

・図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。

・図表中の「N」は、集計対象総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。

《個人向け》

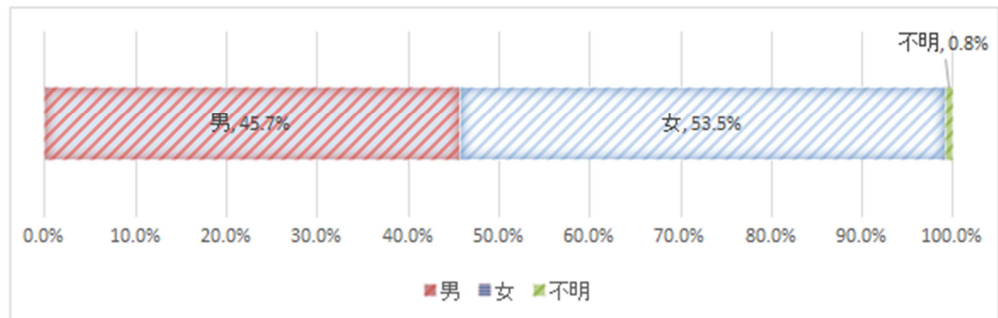
1 回答者のことについて

問1・問2 性別と年齢について

全体的にも女性の回答者の方が多く、回答者の年齢を見ると「60代」が21.8%、「70代」が20.9%と60代以上が半数を占めている。性別では、女性の方が「20代」「30代」「40代」の割合が多い回答となった。

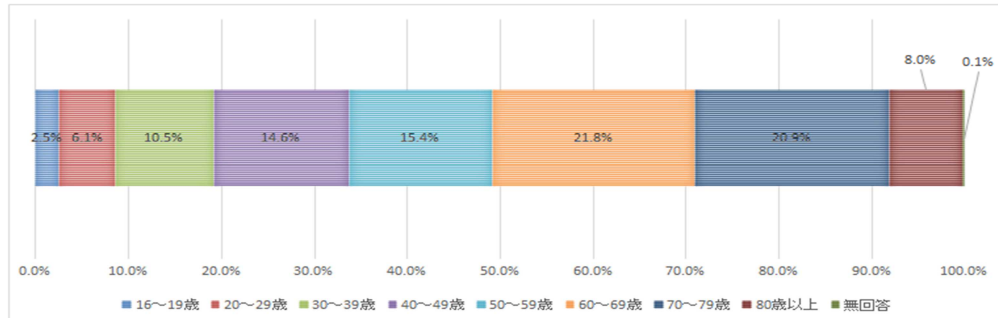
性別

全体(N=733)

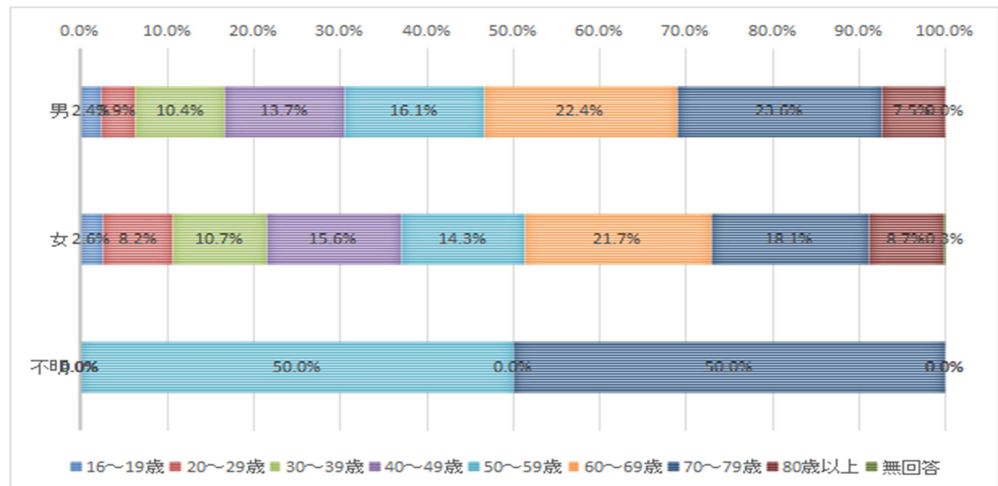


年齢

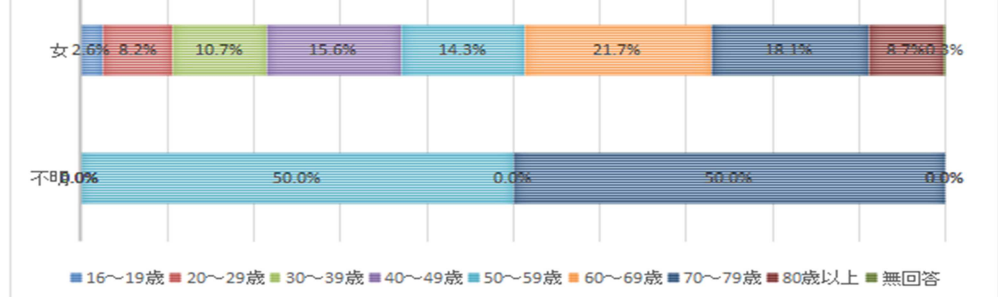
全体(N=733)



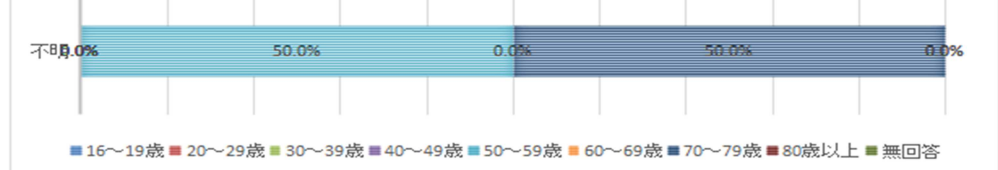
男性(N=335)



女性(N=392)



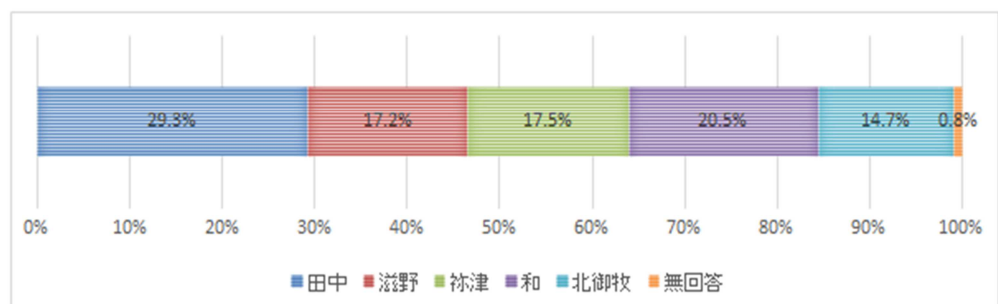
不明(N=6)



問3 居住地はどこか

回答者の居住地区は田中が29.3%と一番多く、北御牧が14.7%で一番少ない回答となった。

全体(N=733)

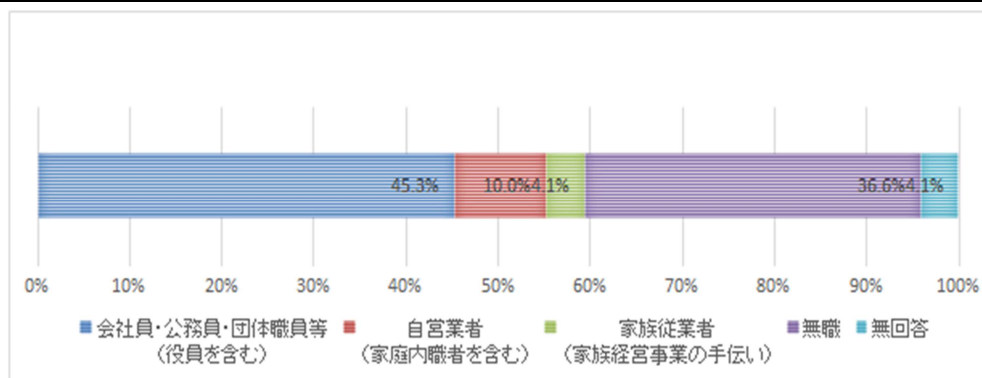


問4 お仕事とその内容について

回答者の職業、内容を合わせて見ると、会社員・公務員・団体職員と無職（学生、主婦・主夫及びその他の無職）が多く、自宅にいる時間の長短に左右されず回答されたことが分かる。

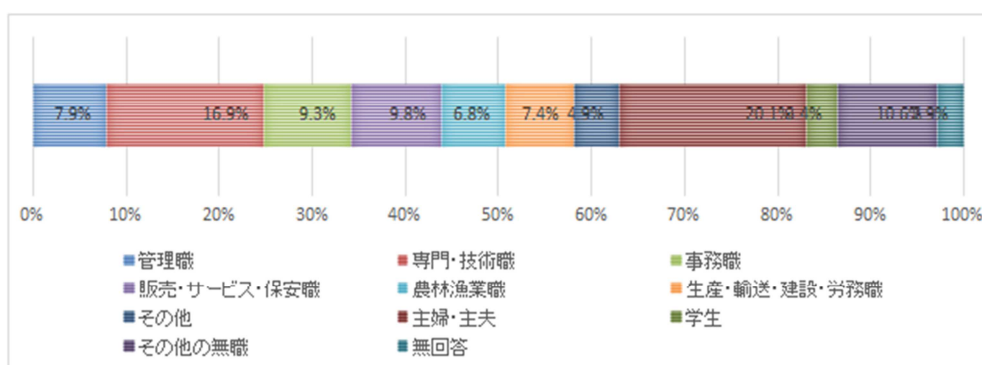
職業

全体(N=733)



内容

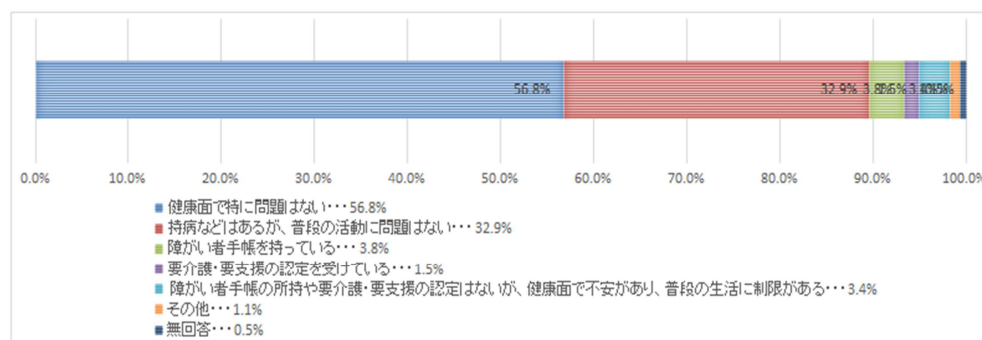
全体(N=733)



問5 健康状態について

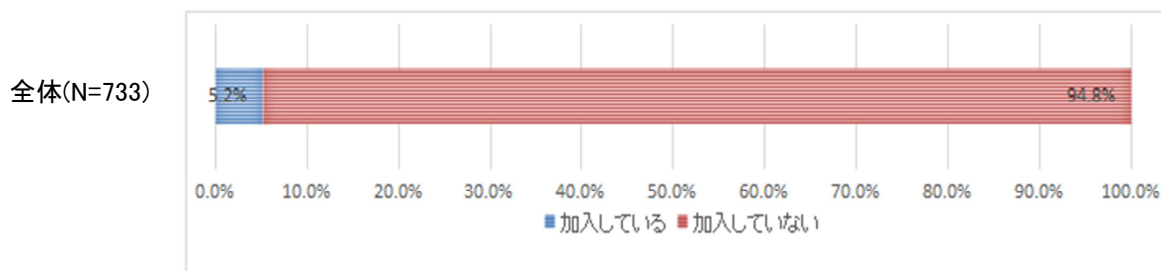
健康に対する自己評価をたずねたところ、全体では「健康面で問題はない」が 56.8%、「普段の活動に問題はない」が 32.9%と合わせて約 9 割が「健康である」と感じている。

全体(N=733)



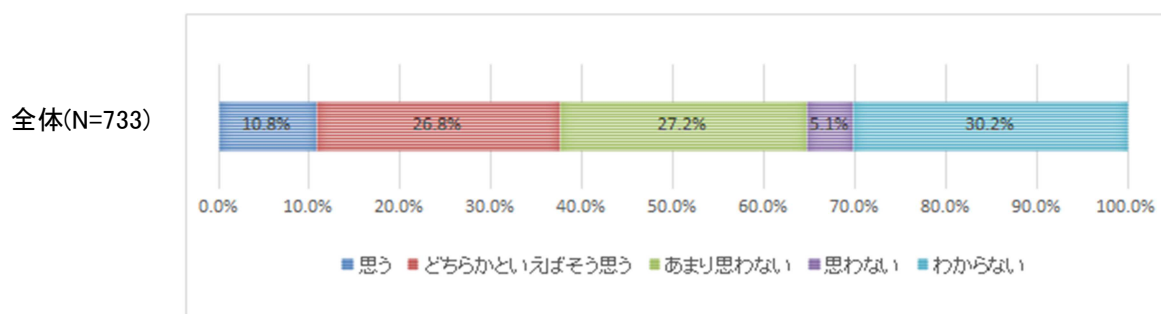
問6 市内の文化芸術団体に加入しているか

文化芸術団体に加入している回答者は5%であるが、文化協会に所属している市民が全体の4パーセントに満たないことを考えると、文化芸術団体に所属している市民の多くが回答者として抽出されたこと分かる。



問7 東御市を『文化芸術活動が盛んなまち』だと思うか

「思う」「どちらかといえばそう思う」で37.6%となり、「あまり思わない」「思わない」の32.3%を上回っているがわからないとの回答も同程度あることから、市民に「文化芸術活動が盛んなまち」として定着しているとは言い難い。

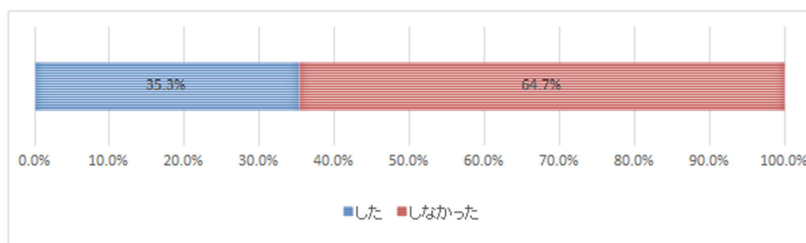


問8 昨年度、文化芸術を鑑賞(体験)しましたか

全体としては、「しなかった」が65%程おり、「した」を大きく上回った。特に働き盛り世代の「20代」から「50代」、さらには「60代」では「しなかった」が「した」人を大きく上回っている。

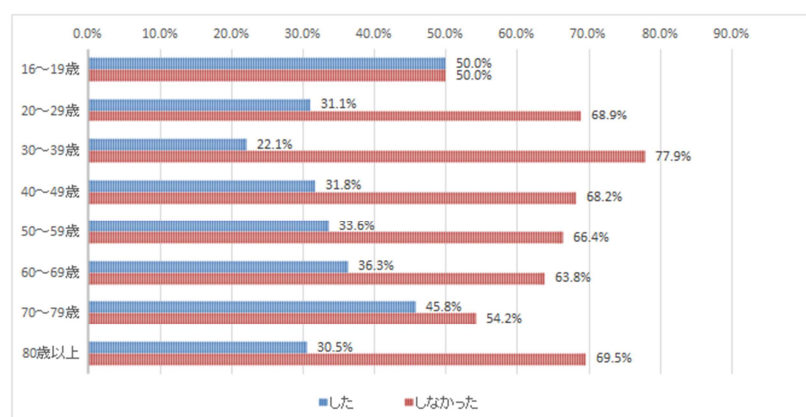
全体

全体



年代

全体

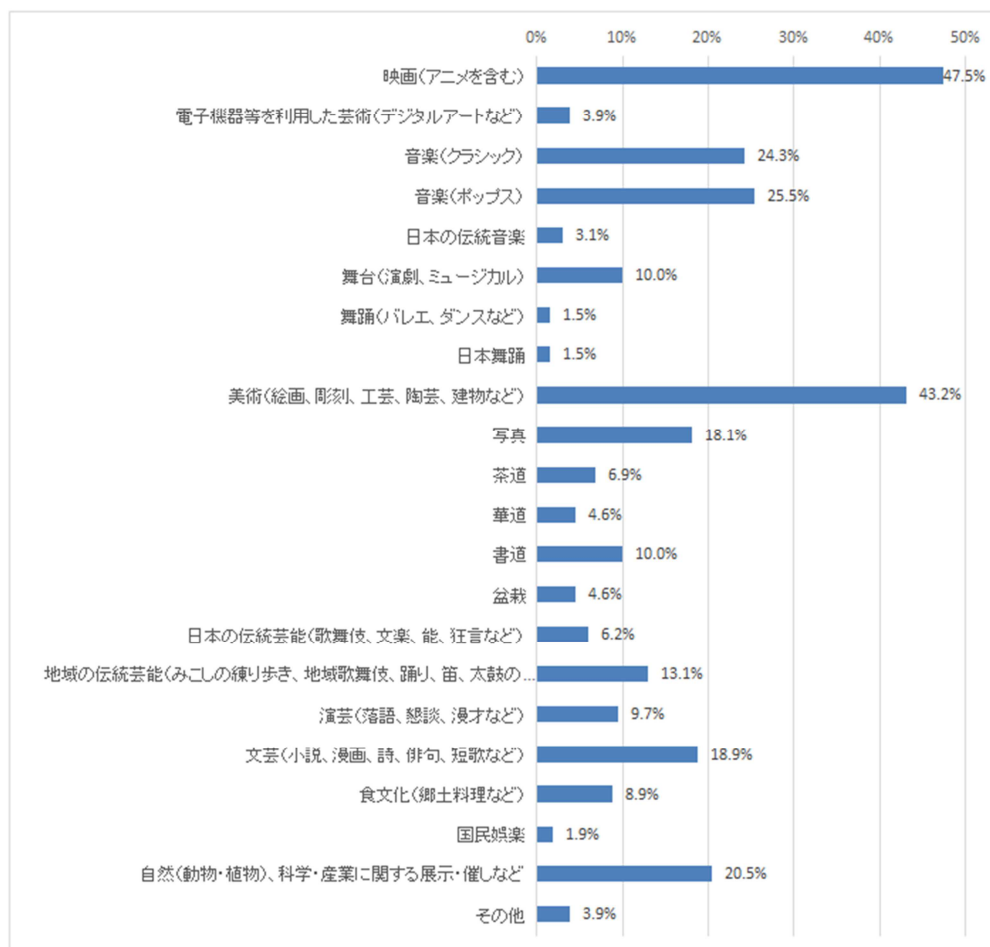


問9 昨年度、鑑賞(体験)した文化芸術はどれか

※ 問8で「した」と回答した方のみを対象とした設問です。

映画(アニメ含む)と美術の鑑賞(体験)が多い傾向であり、外出せずとも鑑賞(体験)できる文化芸術であることや、市営美術館が2館あることも理由の一つだと考えられる。

全体(N=259)



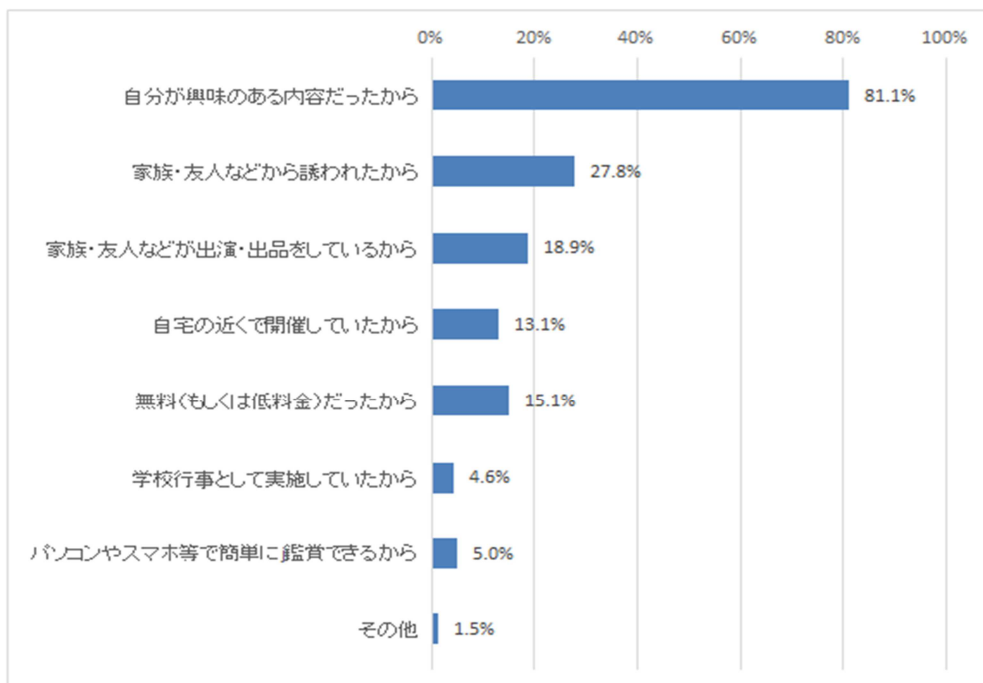
2 文化芸術活動に対する関心について

問 10 昨年度、文化芸術を鑑賞(体験)した理由は何か

※ 問8で「した」と回答した方のみを対象とした設問です。

鑑賞(体験)した理由としては、自らの興味があるものが高い割合を占めた。次いで、家族や交友関係による要因であり、人的な文化芸術環境も鑑賞(体験)に影響を与えている。

全体(N=259)

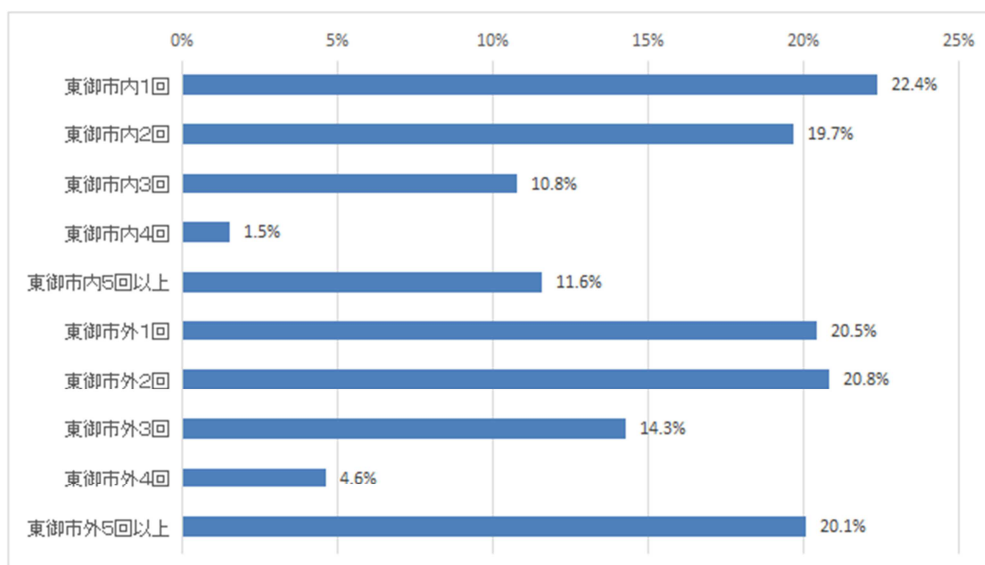


問 11 昨年度、文化芸術をどこで、どの位鑑賞(体験)したか

※ 問8で「した」と回答した方のみを対象とした設問です。

多くの回答者は市内外で1～2回、鑑賞(体験)をしたと答えた。年齢層の若い10代、20代については、市外での鑑賞(体験)も多く、5回以上の高い数値となっている。

全体(N=259)



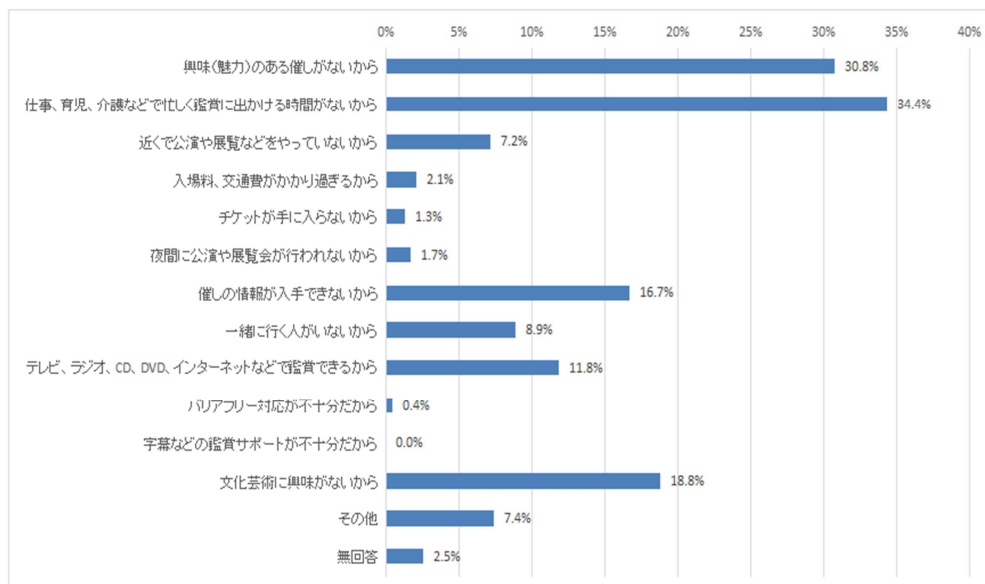
	回答なし	東御市内 1回	東御市内 2回	東御市内 3回	東御市内 4回	東御市内 5回以上	東御市外 1回	東御市外 2回	東御市外 3回	東御市外 4回	東御市外 5回以上	回答 者数	回答数 (個)
男	228	27%	29%	9%	1%	8%	25%	21%	11%	5%	18%	100%	165
女	243	19%	13%	11%	2%	14%	17%	21%	16%	5%	22%	100%	209
不明	3	33%	33%	33%	0%	0%	0%	33%	33%	0%	0%	100%	5
計	474	22%	20%	11%	2%	12%	20%	21%	14%	5%	20%	100%	379
16～19歳	9	22%	0%	11%	0%	44%	22%	0%	0%	0%	67%	100%	15
20～29歳	31	7%	7%	0%	0%	7%	7%	14%	21%	7%	36%	100%	15
30～39歳	60	18%	12%	12%	0%	0%	24%	12%	12%	24%	12%	100%	21
40～49歳	73	29%	9%	0%	0%	12%	24%	26%	12%	3%	18%	100%	45
50～59歳	75	21%	13%	5%	3%	5%	26%	21%	16%	0%	32%	100%	54
60～69歳	102	31%	19%	7%	2%	14%	14%	26%	10%	5%	28%	100%	90
70～79歳	83	17%	33%	19%	3%	14%	23%	21%	20%	4%	6%	100%	112
80歳以上	41	22%	33%	33%	0%	6%	22%	11%	11%	0%	6%	100%	26
無回答	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	1
計	474	22%	20%	11%	2%	12%	20%	21%	14%	5%	20%	100%	379

問 12 昨年度、文化芸術を鑑賞(体験)しなかった理由は何か

※ 問8で「しなかった」と回答した方のみを対象とした設問です。

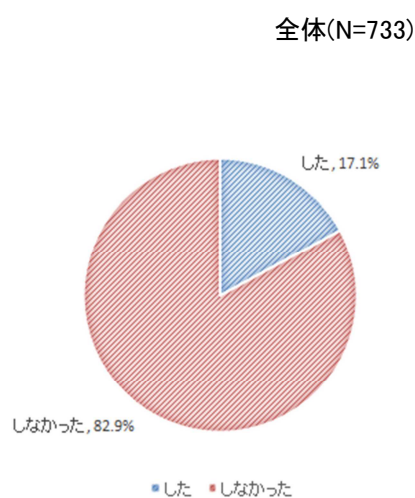
興味(魅力)のある催しがないこと、忙しく時間がないことが主な要因であった。そもそも文化芸術に興味がないとの理由も高い数値であった。一方で、催しの情報が入手できないために文化芸術を鑑賞(体験)しなかった(できなかった)と答えた回答者も多い。

全体(N=474)



問 13 昨年度、文化芸術に関わる活動をしたか

「した」が最も多かった年齢層は 10 代だったが、クラブ活動、授業を含む学校での取り組みも含まれているものと推察する。その他の年齢層については、働き盛り世代は「しなかった」が 90%を上回り、70 代になると文化芸術活動の実施率は上がる傾向となった。



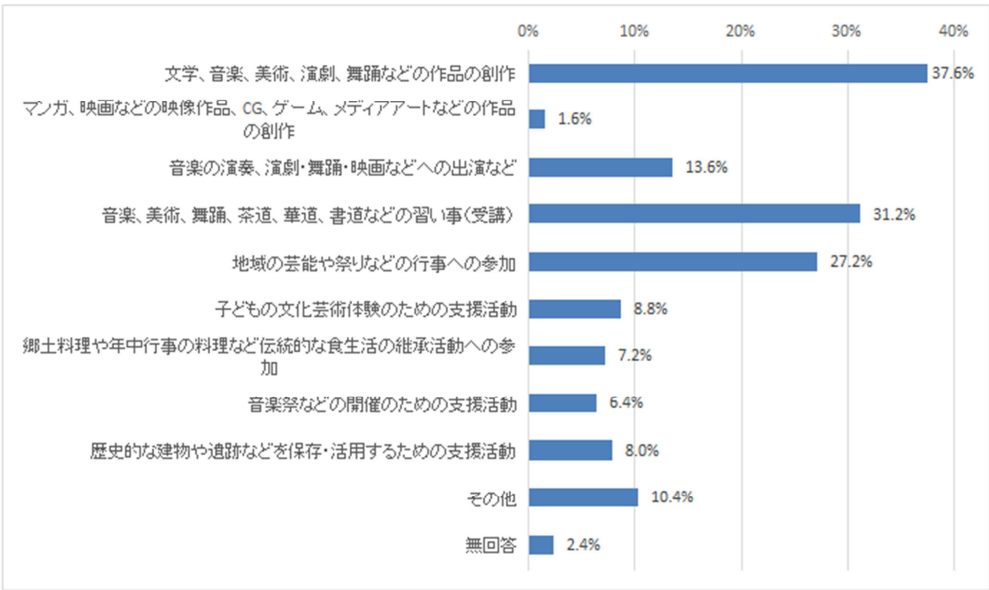
	した	しなかった	計
男	14.9%	85.1%	100%
女	18.9%	81.1%	100%
不明	16.7%	83.3%	100%
計	17.1%	82.9%	100%
16～19歳	33.3%	66.7%	100%
20～29歳	8.9%	91.1%	100%
30～39歳	7.8%	92.2%	100%
40～49歳	8.4%	91.6%	100%
50～59歳	14.2%	85.8%	100%
60～69歳	16.9%	83.1%	100%
70～79歳	30.1%	69.9%	100%
80歳以上	18.6%	81.4%	100%
計	17.1%	82.9%	100%

問 14 昨年度、どのような文化芸術に関わる活動をしたか

※ 問 13 で「した」と回答した方のみを対象とした設問です。

「文学、音楽、美術、演劇、舞踊などの作品の創作」が最も多く、習い事や地域の祭りも高い値であった。20 代では「習い事」の回答が 0 であり、金銭的、時間的、精神的余裕が比較的小さいためと思われる。

全体(N=125)



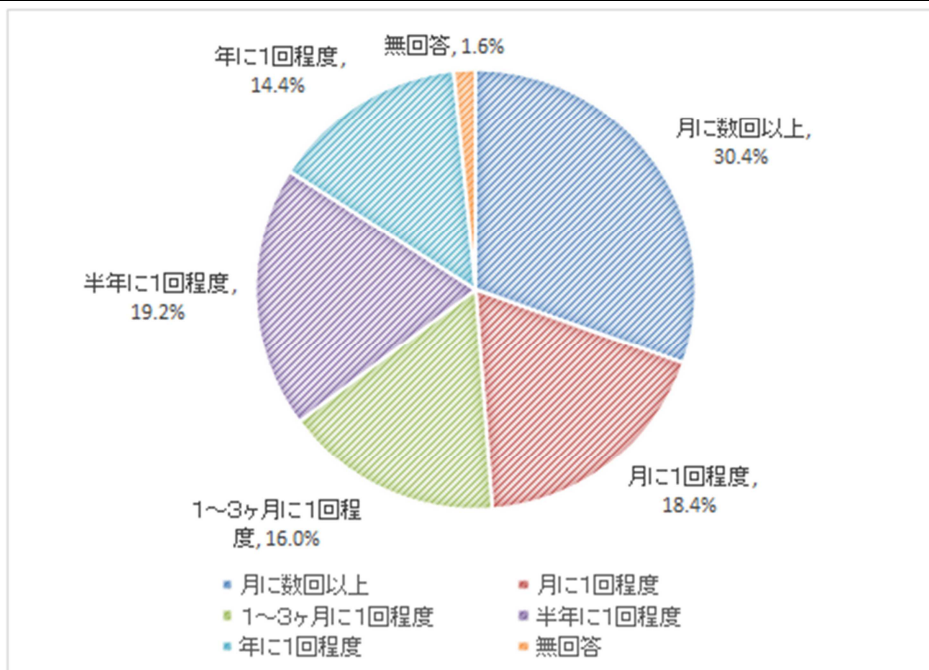
	回答なし	文学、音楽、美術、演劇、舞踊などの作品の創作	マンガ、映画などの映像作品、CG、ゲーム、メディアアートなどの作品の創作	音楽の演奏、演劇・舞踊・映画などへの出演など	音楽、美術、舞踊、茶道、華道、書道などの習い事(受講)	地域の芸能や祭りなどの行事への参加	子どもの文化芸術体験のための支援活動	郷土料理や年中行事の料理など伝統的な食生活の継承活動への参加	音楽祭などの開催のための支援活動	歴史的な建物や遺跡などを保存・活用するための支援活動	その他	無回答	回答者数	回答数(個)
男	285	40%	2%	10%	14%	36%	16%	4%	10%	12%	8%	4%	100%	78
女	318	36%	1%	16%	43%	22%	4%	9%	4%	5%	11%	1%	100%	114
不明	5	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%	1
計	608	38%	2%	14%	31%	27%	9%	7%	6%	8%	10%	2%	100%	193
16～19歳	12	67%	0%	17%	67%	50%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	100%	19
20～29歳	41	75%	25%	0%	0%	25%	50%	25%	0%	25%	0%	0%	100%	13
30～39歳	71	33%	0%	0%	17%	50%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	100%	13
40～49歳	98	56%	0%	22%	11%	22%	33%	0%	11%	0%	11%	0%	100%	24
50～59歳	97	25%	6%	25%	50%	13%	13%	0%	6%	6%	0%	6%	100%	40
60～69歳	133	52%	0%	11%	37%	30%	7%	4%	11%	7%	11%	0%	100%	73
70～79歳	107	26%	0%	15%	24%	28%	4%	13%	7%	7%	11%	2%	100%	109
80歳以上	48	27%	0%	0%	36%	18%	0%	9%	0%	27%	18%	9%	100%	27
無回答	1	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
計	608	38%	2%	14%	31%	27%	9%	7%	6%	8%	10%	2%	100%	318

問 15 昨年度、創作や出演、習い事、地域の芸能や祭りなどへの参加をどの程度したか[複数回答可]

※ 問 13 で「した」と回答した方のみを対象とした設問です。

文化芸術活動に頻度について、「月に数回以上」が最も多く、約半数が月に1回以上は活動をしている。20・30代で頻度が減り、40代以降には頻度が増えることがわかる。

全体(N=125)



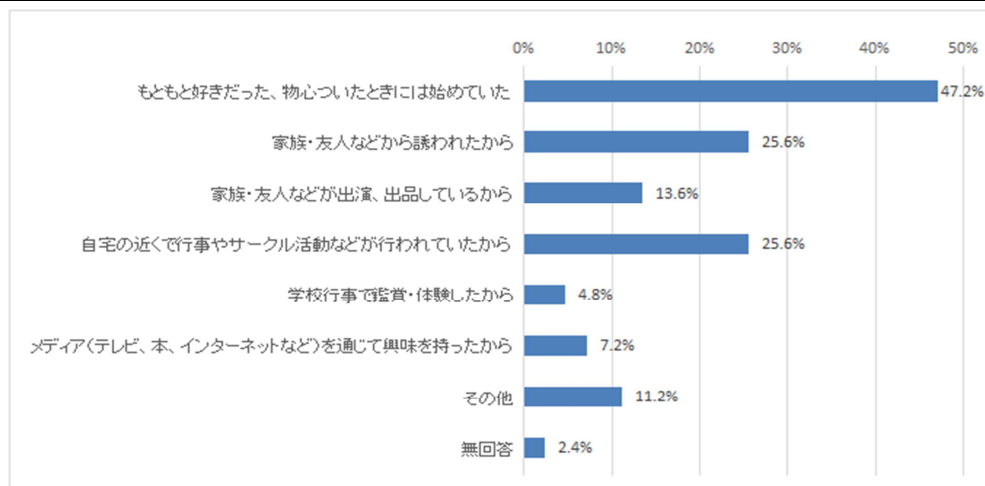
	月に数回以上	月に1回程度	1〜3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	無回答	計
男	16.0%	16.0%	20.0%	28.0%	18.0%	2.0%	100%
女	39.2%	20.3%	13.5%	13.5%	12.2%	1.4%	100%
不明	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
計	30.4%	18.4%	16.0%	19.2%	14.4%	1.6%	100%
16〜19歳	66.7%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	100%
20〜29歳	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100%
30〜39歳	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100%
40〜49歳	33.3%	11.1%	11.1%	11.1%	33.3%	0.0%	100%
50〜59歳	50.0%	6.3%	25.0%	6.3%	6.3%	6.3%	100%
60〜69歳	37.0%	11.1%	22.2%	18.5%	11.1%	0.0%	100%
70〜79歳	21.7%	32.6%	4.3%	26.1%	13.0%	2.2%	100%
80歳以上	27.3%	27.3%	18.2%	18.2%	9.1%	0.0%	100%
計	30.4%	18.4%	16.0%	19.2%	14.4%	1.6%	100%

問 16 文化芸術に関わる活動を始めた理由は何か〔複数回答可〕

※ 問 13 で「した」と回答した方のみを対象とした設問です。

文化芸術の鑑賞（体験）の理由と同じく、自らの興味や交友関係による理由が高い。自宅の近所で行われていることも興味につながり、活動を始める理由となっている。

全体(N=125)

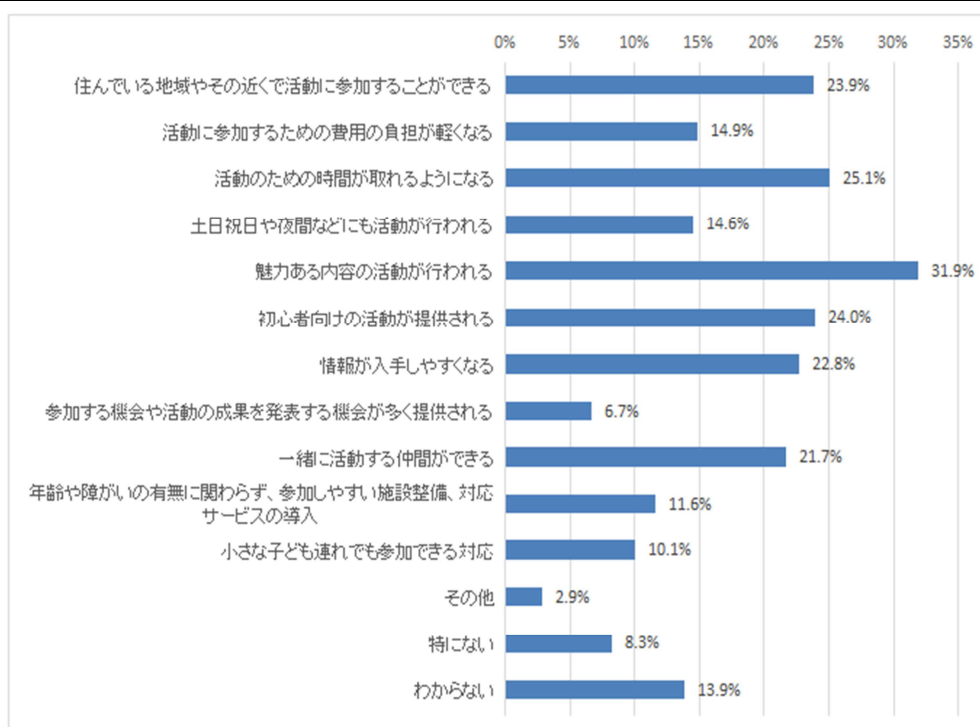


	回答なし	もともと好きだった、物心ついたときには始めていた	家族・友人などから誘われたから	家族・友人などが出演、出品しているから	自宅の近くで行事やサークル活動などが行われていたから	学校行事で鑑賞・体験したから	メディア(テレビ、本、インターネットなど)を通じて興味を持ったから	その他	無回答	回答者数	回答数(個)
男	285	54%	18%	20%	20%	8%	6%	14%	2%	100%	71
女	318	43%	30%	9%	30%	3%	8%	9%	3%	100%	100
不明	5	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	1
計	608	47%	26%	14%	26%	5%	7%	11%	2%	100%	172
16～19歳	12	67%	17%	0%	17%	33%	17%	17%	0%	100%	16
20～29歳	41	50%	75%	0%	25%	0%	25%	0%	0%	100%	11
30～39歳	71	17%	50%	17%	17%	0%	17%	0%	0%	100%	13
40～49歳	98	56%	22%	22%	0%	0%	11%	0%	0%	100%	19
50～59歳	97	56%	25%	0%	38%	0%	6%	0%	6%	100%	37
60～69歳	133	52%	19%	11%	26%	0%	11%	26%	0%	100%	66
70～79歳	107	43%	22%	20%	28%	9%	2%	13%	0%	100%	109
80歳以上	48	36%	36%	18%	27%	0%	0%	0%	18%	100%	26
無回答	1	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
計	608	47%	26%	14%	26%	5%	7%	11%	2%	100%	297

問 17 どうすれば作品鑑賞以外の文化芸術に関わる活動にもっと参加しやすくなるか〔複数回答可〕

作品鑑賞以外の文化芸術を広めるためには内容の魅力を上げる必要があり、同時に、会場や開催時間、情報の周知なども改善する必要がありそうだ。

全体(N=733)



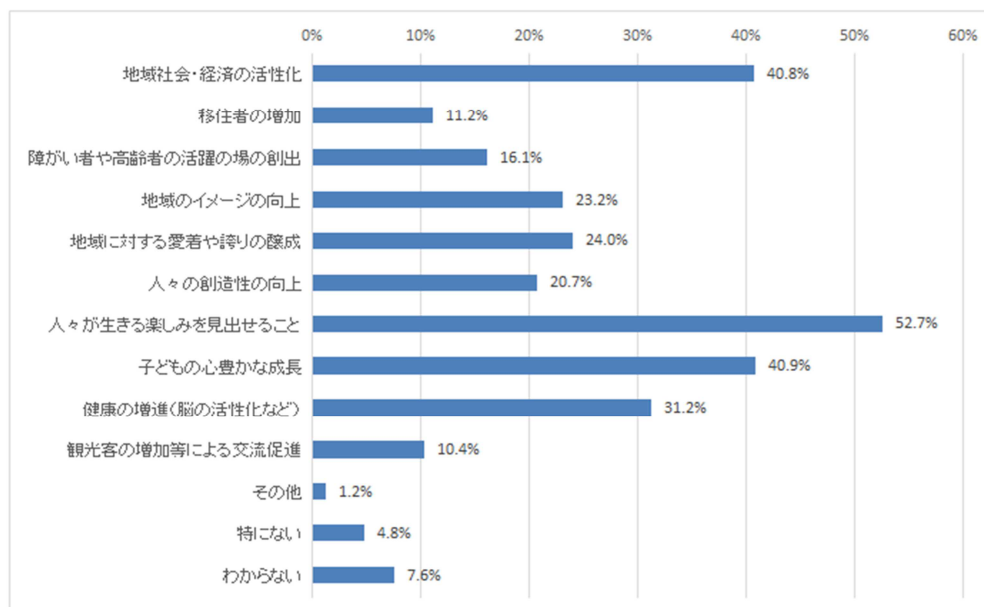
	住んでいる地域やその近くで活動に参加することができる	活動に参加するための費用の負担が軽くなる	活動のための時間が取れるようになる	土日祝日や夜間などにも活動が行われる	魅力ある内容の活動が行われる	初心者向けの活動が提供される	情報が入手しやすくなる	参加する機会や活動の成果を発表する機会が多く提供される	一緒に活動する仲間ができる	年齢や障がいの有無に関わらず、参加しやすい施設整備、対応サービスの導入	小さな子ども連れでも参加できる対応	その他	特になし	わからない	回答者数	回答数(個)
男	19%	12%	26%	15%	33%	21%	22%	7%	19%	13%	8%	3%	10%	15%	100%	747
女	28%	18%	25%	14%	31%	27%	23%	7%	24%	10%	12%	3%	7%	13%	100%	945
不明	0%	17%	0%	17%	17%	17%	0%	0%	0%	50%	17%	0%	0%	50%	100%	11
計	24%	15%	25%	15%	32%	24%	23%	7%	22%	12%	10%	3%	8%	14%	100%	1703
16～19歳	28%	39%	33%	28%	50%	44%	39%	11%	50%	17%	22%	11%	6%	0%	100%	68
20～29歳	27%	29%	27%	11%	29%	40%	40%	4%	24%	7%	20%	0%	7%	9%	100%	123
30～39歳	19%	17%	29%	22%	47%	31%	34%	4%	22%	9%	40%	3%	5%	6%	100%	222
40～49歳	22%	16%	38%	21%	32%	21%	28%	4%	18%	11%	12%	1%	6%	9%	100%	257
50～59歳	21%	14%	35%	25%	35%	18%	28%	6%	23%	10%	5%	4%	8%	12%	100%	277
60～69歳	28%	15%	28%	11%	33%	26%	20%	7%	21%	11%	5%	4%	12%	11%	100%	368
70～79歳	25%	12%	11%	5%	29%	25%	12%	12%	24%	14%	1%	0%	8%	18%	100%	303
80歳以上	20%	2%	3%	5%	7%	5%	5%	3%	12%	19%	0%	10%	10%	39%	100%	83
無回答	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	2
計	24%	15%	25%	15%	32%	24%	23%	7%	22%	12%	10%	3%	8%	14%	100%	1703

3 文化芸術の振興と効果について

問 18 文化芸術の振興を図ることにより社会にもたらされる効果として期待することは何か〔複数回答可〕

半数以上の回答者が、文化芸術の振興は「生きる楽しみ」につながると答えた。「生きる楽しみ」が増えることにより精神的な余裕が生まれ、社会・経済の活性化にもつながると答えた。

全体(N=733)

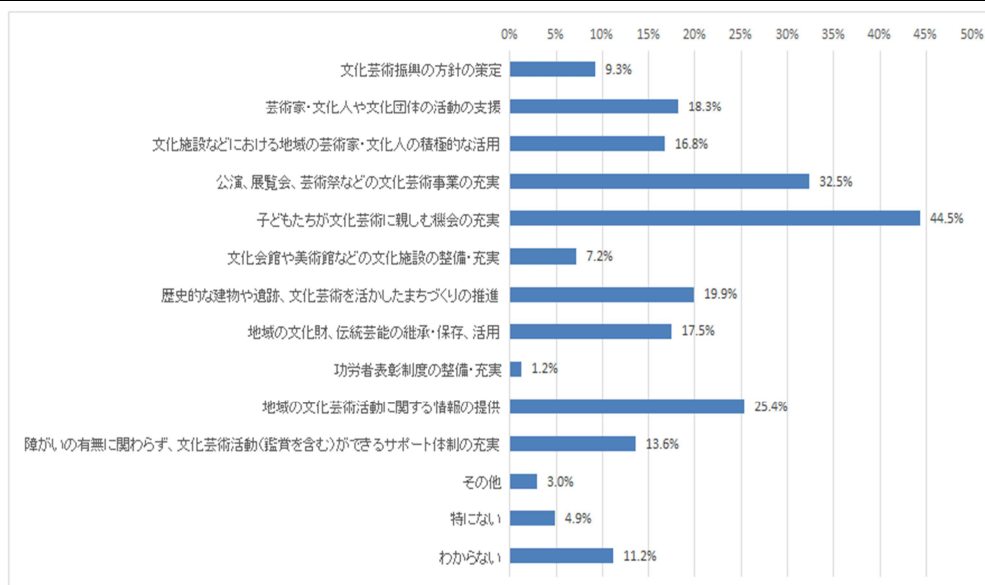


	地域社会・経済の活性化	移住者の増加	障がい者や高齢者の活躍の場の創出	地域のイメージの向上	地域に対する愛着や誇りの醸成	人々の創造性の向上	人々が生きる楽しみを見出せること	子どもの心豊かな成長	健康の増進(脳の活性化など)	観光客の増加等による交流促進	その他	特になし	わからない	回答者数	回答数(個)
男	44%	14%	14%	25%	28%	22%	46%	39%	28%	12%	1%	6%	8%	100%	963
女	38%	9%	18%	22%	21%	19%	58%	42%	33%	9%	1%	4%	7%	100%	1104
不明	33%	0%	50%	17%	17%	67%	50%	50%	50%	0%	0%	0%	17%	100%	21
計	41%	11%	16%	23%	24%	21%	53%	41%	31%	10%	1%	5%	8%	100%	2088
16～19歳	56%	6%	28%	61%	22%	17%	39%	44%	17%	17%	0%	0%	17%	100%	58
20～29歳	42%	9%	11%	24%	27%	27%	38%	47%	27%	22%	2%	4%	9%	100%	130
30～39歳	60%	10%	12%	26%	26%	25%	51%	60%	22%	9%	1%	1%	9%	100%	240
40～49歳	43%	10%	12%	22%	21%	17%	53%	49%	24%	10%	0%	3%	4%	100%	287
50～59歳	41%	14%	14%	30%	25%	24%	58%	42%	28%	14%	1%	6%	8%	100%	346
60～69歳	39%	14%	20%	19%	26%	25%	59%	36%	33%	11%	2%	6%	4%	100%	469
70～79歳	36%	10%	17%	20%	28%	18%	60%	35%	44%	5%	1%	3%	8%	100%	438
80歳以上	25%	7%	20%	17%	10%	8%	22%	25%	31%	5%	2%	14%	15%	100%	119
無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	1
計	41%	11%	16%	23%	24%	21%	53%	41%	31%	10%	1%	5%	8%	100%	2088

問 19 市民の文化芸術活動がもっと盛んになるために、市が積極的に取り組むべき分野は何か
[3つまで回答可]

文化芸術振興において最も求められているのは「子どもたちが文化芸術に親しむ機会」であり、子どもの頃から文化芸術に親しむことで、その後の人生や文化芸術活動に大きく影響を与えられと考える。

全体(N=733)

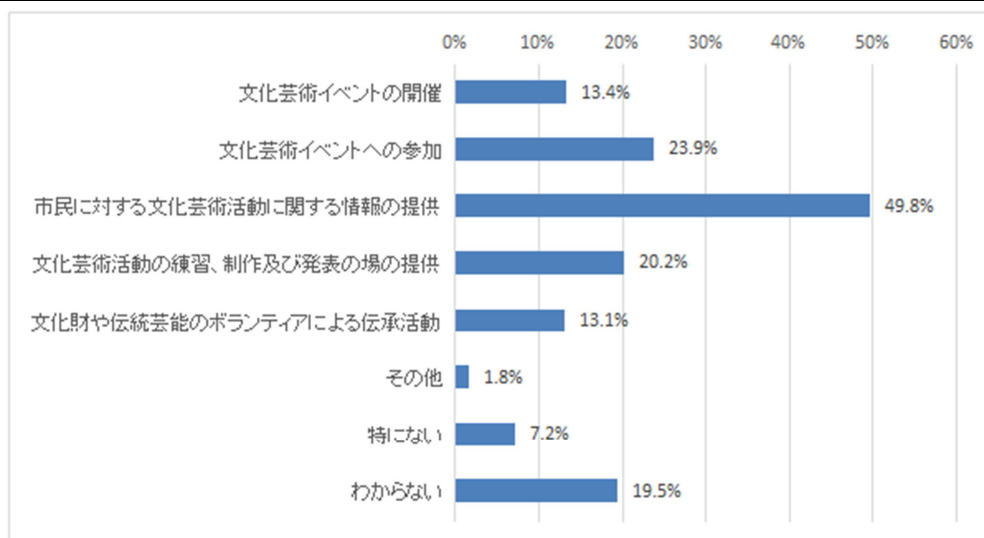


	文化芸術振興の方針の策定	芸術家・文化人や文化団体の活動の支援	文化施設などにおける地域の芸術家・文化人の積極的な活用	公演、展覧会、芸術祭などの文化芸術事業の充実	子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実	文化会館や美術館などの文化施設の整備・充実	歴史的な建物や遺跡、文化芸術を活かしたまちづくりの推進	地域の文化財、伝統芸能の継承・保存、活用	功労者表彰制度の整備・充実	地域の文化芸術活動に関する情報の提供	障がいのある有無に関わらず、文化芸術活動(鑑賞を含む)ができるサポート体制の充実	その他	特になし	わからない	回答者数	回答数(個)
男	9%	19%	16%	31%	41%	8%	22%	22%	1%	22%	12%	4%	6%	10%	100%	750
女	9%	18%	17%	34%	47%	7%	19%	13%	1%	28%	15%	3%	4%	11%	100%	888
不明	0%	0%	0%	17%	67%	0%	0%	33%	0%	33%	33%	0%	0%	33%	100%	13
計	9%	18%	17%	32%	44%	7%	20%	17%	1%	25%	14%	3%	5%	11%	100%	1651
16～19歳	6%	28%	11%	28%	50%	6%	17%	17%	0%	17%	6%	6%	0%	17%	100%	37
20～29歳	16%	11%	9%	20%	67%	4%	27%	18%	0%	29%	9%	2%	4%	7%	100%	100
30～39歳	10%	19%	12%	35%	65%	10%	18%	12%	3%	25%	12%	1%	1%	12%	100%	181
40～49歳	8%	20%	16%	29%	61%	6%	19%	8%	2%	27%	18%	4%	4%	8%	100%	245
50～59歳	9%	19%	21%	34%	38%	8%	23%	21%	1%	32%	14%	4%	4%	10%	100%	270
60～69歳	9%	18%	21%	34%	33%	7%	23%	19%	1%	24%	11%	3%	8%	11%	100%	353
70～79歳	11%	22%	16%	35%	39%	8%	20%	23%	1%	24%	14%	3%	5%	12%	100%	354
80歳以上	2%	8%	14%	34%	25%	5%	8%	17%	2%	17%	20%	3%	8%	19%	100%	108
無回答	0%	0%	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	3
計	9%	18%	17%	32%	44%	7%	20%	17%	1%	25%	14%	3%	5%	11%	100%	1654

問 20 市民の文化芸術活動がもっと盛んになるために、市民や文化芸術団体などが行うものとして何が必要だと思うか[2つまで回答可]

文化芸術団体に対して、情報提供が不足していると約半数の回答者が感じている。会員のみでの活動で終わらずに、より多くに影響を与える活動やその周知が求められている。

全体(N=733)

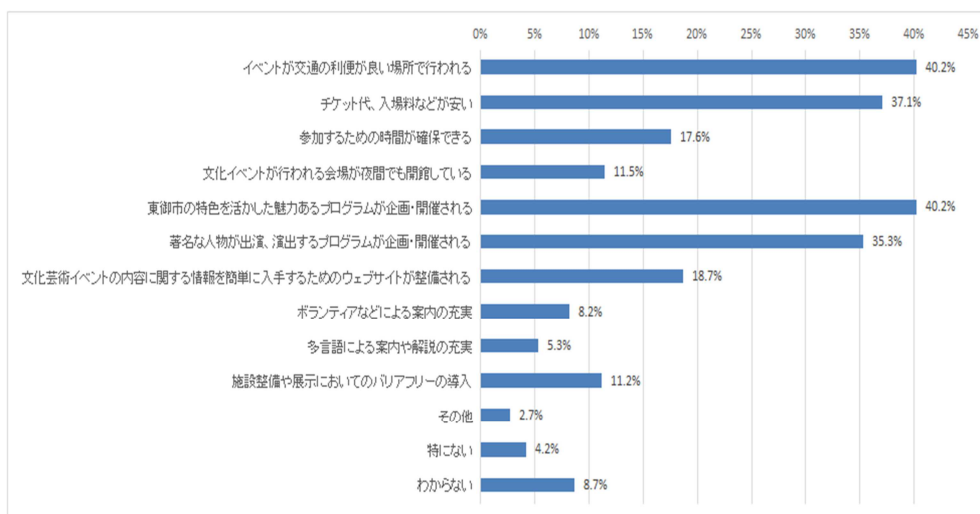


	文化芸術イベントの開催	文化芸術イベントへの参加	市民に対する文化芸術活動に関する情報の提供	文化芸術活動の練習、制作及び発表の場の提供	文化財や伝統芸能のボランティアによる伝承活動	その他	特になし	わからない	回答者数	回答数(個)
男	15%	21%	45%	22%	16%	2%	10%	17%	100%	498
女	12%	27%	54%	19%	11%	1%	5%	21%	100%	586
不明	0%	0%	33%	17%	0%	0%	0%	67%	100%	7
計	13%	24%	50%	20%	13%	2%	7%	20%	100%	1091
16～19歳	11%	33%	6%	11%	17%	0%	6%	50%	100%	24
20～29歳	18%	24%	42%	20%	20%	0%	4%	33%	100%	73
30～39歳	18%	36%	57%	19%	8%	1%	4%	19%	100%	126
40～49歳	14%	28%	56%	21%	7%	4%	5%	16%	100%	161
50～59歳	13%	24%	55%	20%	8%	2%	6%	18%	100%	165
60～69歳	12%	21%	50%	20%	18%	3%	8%	16%	100%	236
70～79歳	12%	18%	56%	24%	14%	1%	10%	13%	100%	225
80歳以上	10%	19%	22%	15%	19%	0%	14%	37%	100%	80
無回答	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	1
計	13%	24%	50%	20%	13%	2%	7%	20%	100%	1091

問 21 市が開催する文化芸術イベントに市内外から多くの人々が参加するために、どのような環境が必要だと思うか〔複数回答可〕

文化芸術イベントの集客について、東御市らしいプログラムが求められていることがわかる。また、主要道路は東西に通っているのに市域は南北に長い、交通の便が悪くなりがちなのも集客に影響しているようだ。

全体(N=733)



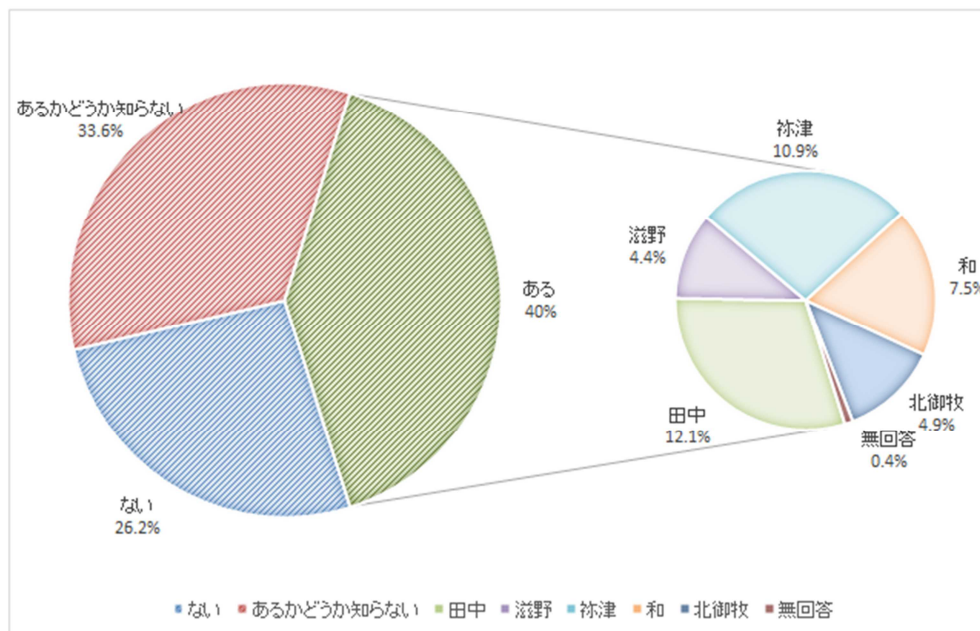
	イベントが交通の利便が良い場所で行われる	チケット代、入場料などが安い	参加するための時間が確保できる	文化イベントが行われる会場が夜間でも開館している	東御市の特色を活かした魅力あるプログラムが企画・開催される	著名な人物が出演、演出するプログラムが企画・開催される	文化芸術イベントの内容に関する情報を簡単に入手するためのウェブサイトが整備される	ボランティアなどによる案内の充実	多言語による案内や解説の充実	施設整備や展示についてのバリアフリーの導入	その他	特になし	わからない	回答者数	回答数(個)
男	32%	33%	19%	13%	37%	36%	17%	8%	4%	8%	4%	5%	9%	100%	755
女	47%	41%	16%	10%	43%	35%	20%	9%	6%	13%	2%	4%	8%	100%	1000
不明	17%	0%	0%	17%	17%	17%	17%	0%	17%	50%	0%	0%	50%	100%	12
計	40%	37%	18%	11%	40%	35%	19%	8%	5%	11%	3%	4%	9%	100%	1767
16～19歳	61%	50%	28%	17%	39%	39%	28%	28%	28%	17%	0%	0%	6%	100%	61
20～29歳	56%	40%	20%	4%	40%	38%	24%	18%	20%	18%	0%	4%	4%	100%	129
30～39歳	45%	51%	30%	12%	26%	39%	26%	1%	5%	9%	1%	0%	14%	100%	200
40～49歳	45%	39%	21%	16%	44%	47%	18%	8%	7%	10%	3%	1%	4%	100%	281
50～59歳	33%	31%	28%	20%	41%	39%	23%	5%	4%	12%	4%	4%	6%	100%	283
60～69歳	35%	33%	16%	10%	42%	33%	21%	7%	3%	10%	6%	6%	7%	100%	363
70～79歳	39%	42%	8%	7%	48%	34%	14%	7%	3%	11%	1%	6%	9%	100%	349
80歳以上	41%	19%	0%	5%	29%	12%	3%	17%	2%	12%	0%	7%	24%	100%	100
無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	1
計	40%	37%	18%	11%	40%	35%	19%	8%	5%	11%	3%	4%	9%	100%	1767

4 地域文化の創造と文化芸術活動について

問 22 居住地域では、継承されている祭り、踊り、笛・太鼓の音楽等の伝統芸能があるか

地域に伝統芸能が「ある」と答えた 40%のうち、最も多いのは 12.1%の田中だが、地区別人口の割に少なく、多いのは柵津の 10.9%である。柵津地区内では区ごとの祭りや儀式が大切にされていることが理由だと考えられ、「ない」や「あるかどうか分からない」の割合は五地区中で最も少ない。

全体(N=733)



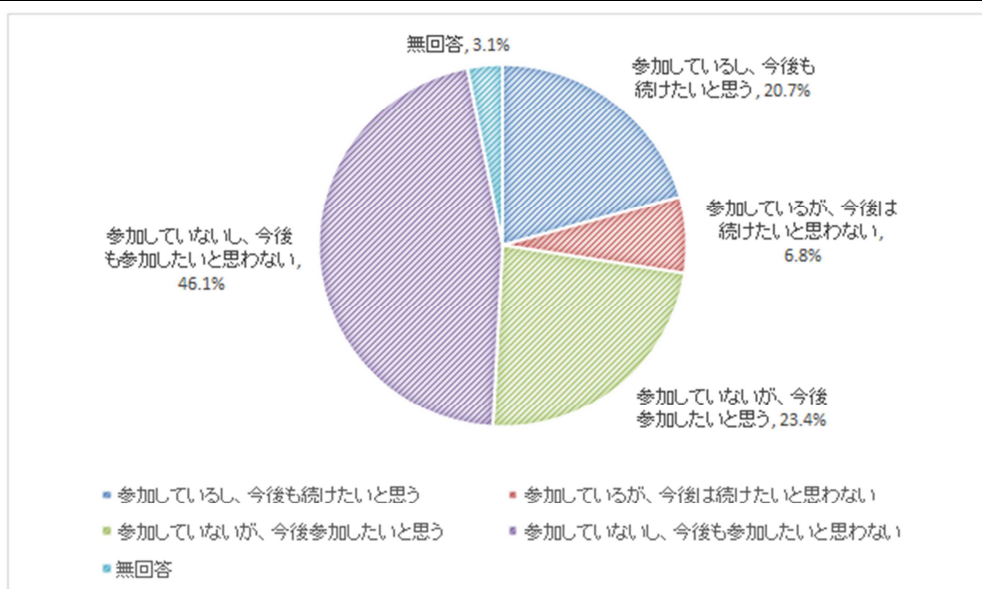
	ある	ない	あるかどうか知らない	計
男	38.5%	31.9%	29.6%	100%
女	41.6%	21.2%	37.2%	100%
不明	50.0%	33.3%	16.7%	100%
計	40.2%	26.2%	33.6%	100%
16～19歳	22.2%	11.1%	66.7%	100%
20～29歳	35.6%	13.3%	51.1%	100%
30～39歳	26.0%	16.9%	57.1%	100%
40～49歳	45.8%	15.0%	39.3%	100%
50～59歳	31.9%	26.5%	41.6%	100%
60～69歳	45.0%	30.6%	24.4%	100%
70～79歳	44.4%	37.9%	17.6%	100%
80歳以上	49.2%	30.5%	20.3%	100%
計	40.2%	26.2%	33.6%	100%
田中	41%	17%	41%	100%
滋野	25%	35%	40%	100%
柵津	63%	15%	23%	100%
和	37%	33%	30%	100%
北御牧	33%	38%	29%	100%
無回答	50%	17%	33%	100%
計	40%	26%	34%	100%

問 23 居住地域の伝統芸能に担い手として参加しているか。または参加したいと思うか

※ 問 22 で「ある」と回答した方のみを対象とした設問です。

「地域の伝統芸能に参加しているし、今後も続けたいと思う」割合も柵津地区が最も高かった。しかし、全体を見ると約半数が「参加していないし、今後も参加したいと思わない」と回答している。

全体(N=295)



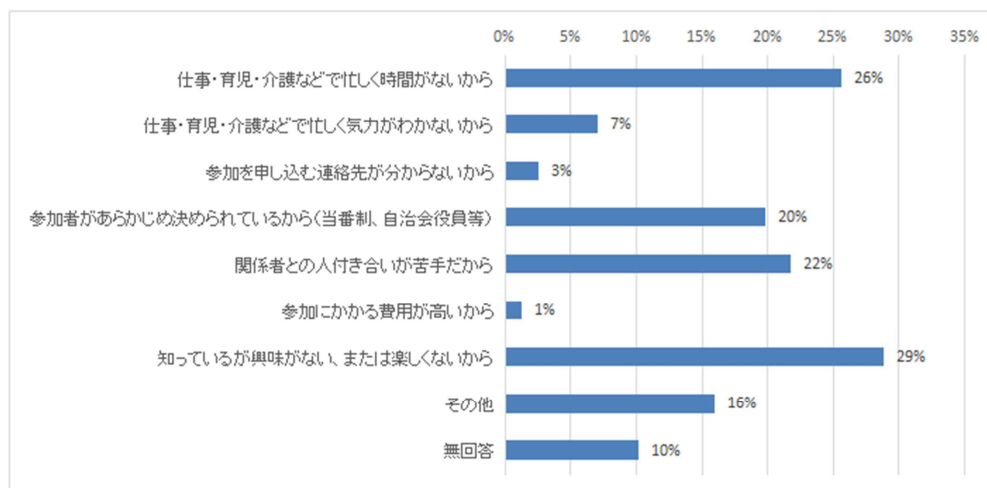
	参加しているし、今後も続けたいと思う	参加しているが、今後は続けたいと思わない	参加していないが、今後参加したいと思う	参加していないし、今後も参加したいと思わない	無回答	計
男	28.7%	10.1%	19.4%	39.5%	2.3%	100%
女	14.7%	4.3%	26.4%	52.1%	2.5%	100%
不明	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	100%
計	20.7%	6.8%	23.4%	46.1%	3.1%	100%
16～19歳	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100%
20～29歳	12.5%	0.0%	37.5%	50.0%	0.0%	100%
30～39歳	10.0%	10.0%	25.0%	55.0%	0.0%	100%
40～49歳	4.1%	6.1%	28.6%	61.2%	0.0%	100%
50～59歳	30.6%	8.3%	25.0%	33.3%	2.8%	100%
60～69歳	26.4%	6.9%	26.4%	37.5%	2.8%	100%
70～79歳	26.5%	7.4%	13.2%	47.1%	5.9%	100%
80歳以上	24.1%	6.9%	17.2%	44.8%	6.9%	100%
計	20.7%	6.8%	23.4%	46.1%	3.1%	100%
田中	19%	6%	22%	51%	2%	100%
滋野	25%	6%	38%	25%	6%	100%
柵津	26%	13%	16%	41%	4%	100%
和	16%	4%	22%	56%	2%	100%
北御牧	11%	3%	33%	50%	3%	100%
無回答	67%	0%	0%	33%	0%	100%
計	21%	7%	23%	46%	3%	100%

問 24 担い手として参加を続けたいと思わない、または参加したいと思わない理由は何か

※ 問 23 で「参加しているが、今後は続けたいと思わない」「参加していないし、今後も参加したいと思わない」のいずれかに回答した方のみを対象とした設問です。

地域の伝統芸能に参加したくない理由として、「興味がない、楽しくない」が多かった。「時間がない」も多く、気力はあっても時間がなくて参加出来ない現状がわかる。

全体(N=156)

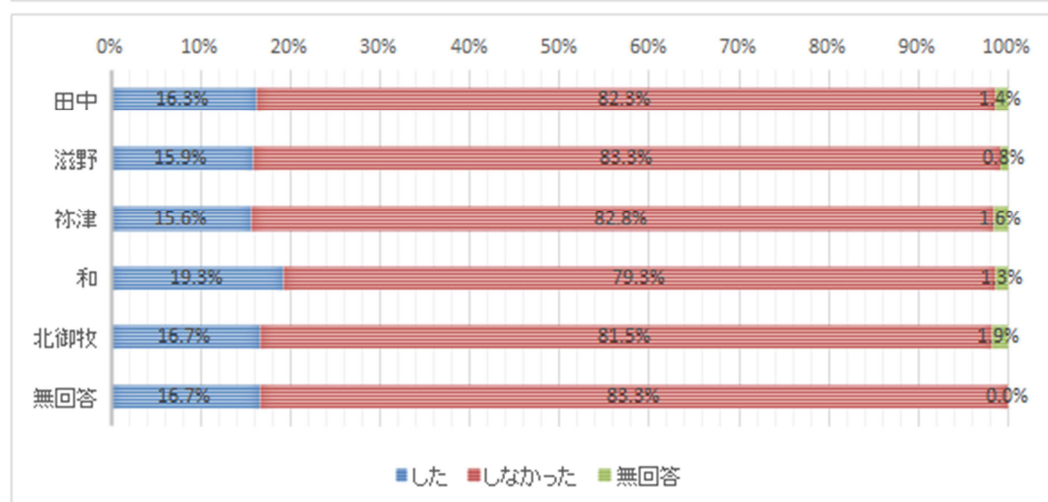
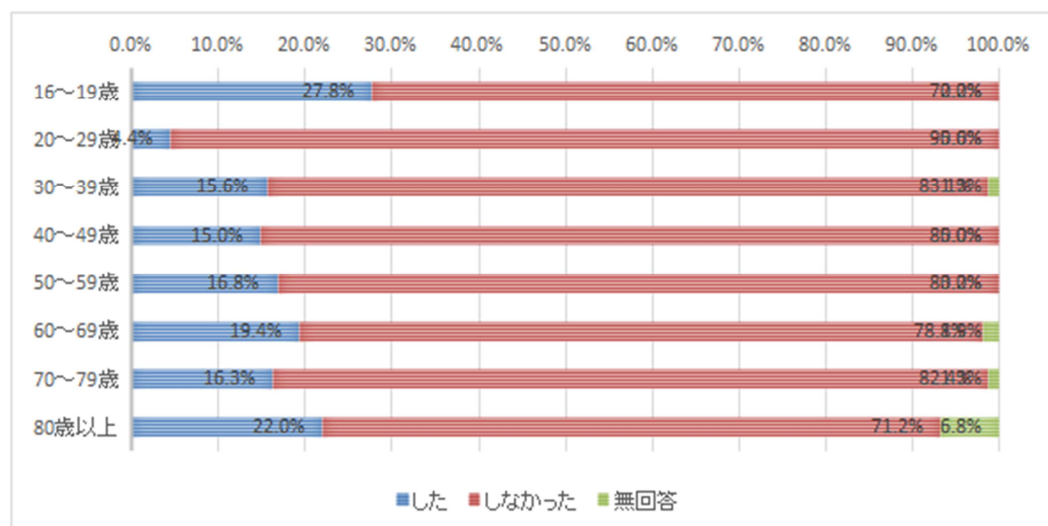
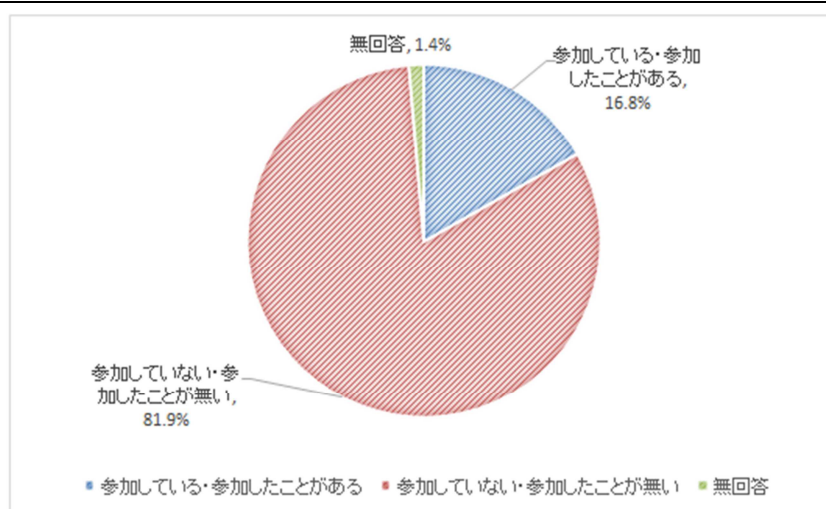


	回答なし	仕事・育児・介護などで忙しく時間がないから	仕事・育児・介護などで忙しく気力がわかないから	参加を申し込む連絡先が分からないから	参加者があらかじめ決められているから(当番制、自治会役員等)	関係者との人付き合いが苦手だから	参加にかかる費用が高いから	知っているが興味がない、または楽しくないから	その他	無回答	回答者数	回答数(個)
男	271	30%	9%	2%	16%	23%	3%	28%	14%	8%	100%	85
女	300	23%	5%	3%	23%	21%	0%	29%	17%	12%	100%	123
不明	6	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0
計	577	26%	7%	3%	20%	22%	1%	29%	16%	10%	100%	208
16～19歳	16	50%	0%	0%	0%	50%	0%	100%	0%	0%	100%	4
20～29歳	37	38%	0%	0%	25%	13%	0%	25%	0%	13%	100%	9
30～39歳	64	38%	8%	0%	15%	31%	0%	23%	8%	8%	100%	17
40～49歳	74	48%	18%	6%	21%	33%	3%	27%	0%	3%	100%	53
50～59歳	98	27%	7%	0%	13%	33%	0%	33%	7%	13%	100%	20
60～69歳	128	25%	6%	6%	28%	16%	3%	34%	9%	9%	100%	44
70～79歳	116	8%	3%	0%	22%	16%	0%	24%	32%	14%	100%	44
80歳以上	44	0%	0%	0%	7%	7%	0%	20%	53%	20%	100%	16
無回答	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	1
計	577	26%	7%	3%	20%	22%	1%	29%	16%	10%	100%	208

問 25 居住地域以外の伝統芸能に担い手として参加している、または参加したことがあるか

10代の27.8%が居住地域外の伝統芸能への参加経験があると答えた。年齢別でも地区別でも、居住地域外の伝統芸能には参加しない傾向がみられる。

全体(N=733)

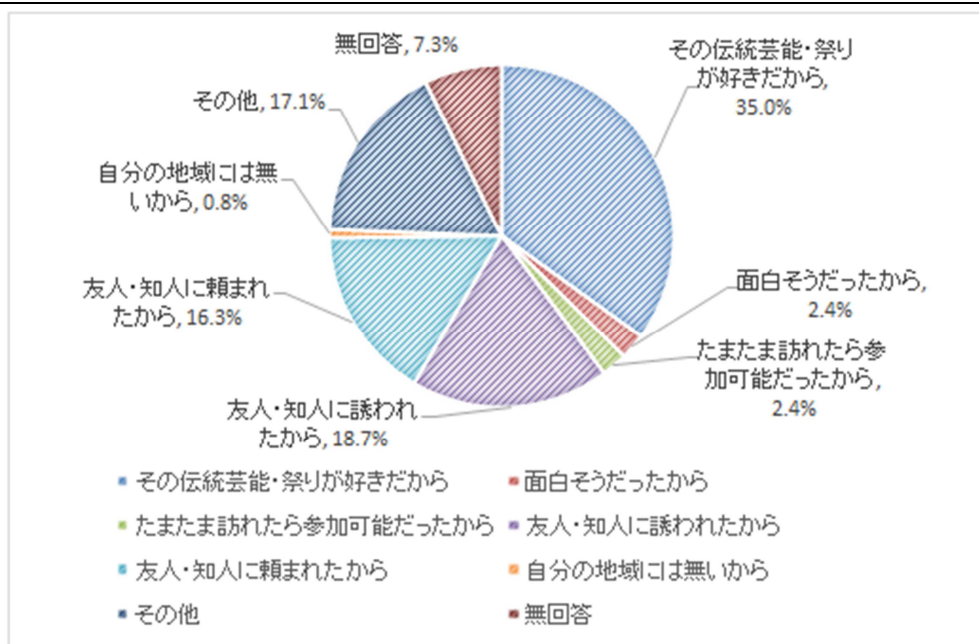


問 26 参加している(参加した)理由は何か

※ 問 25 で「参加している・参加したことがある」に回答した方を対象とした設問です。

居住地域外の伝統芸能への参加理由は、「その伝統芸能・祭りが好きだから」、「友人・知人に誘われたから」が挙げた。役員として強制的に参加する場合もあるらしい。

全体(N=125)

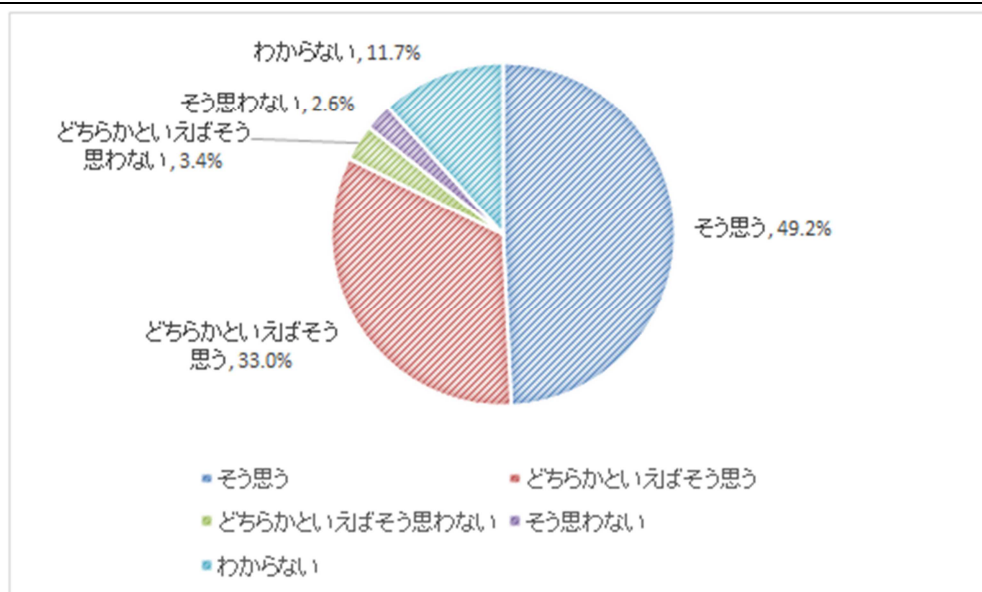


	その伝統芸能・祭りが好きだから	面白そうだったから	たまたま訪れたら参加可能だったから	友人・知人に誘われたから	友人・知人に頼まれたから	自分の地域には無いから	その他	無回答	計
男	33.8%	0.0%	4.1%	23.0%	13.5%	1.4%	17.6%	6.8%	100%
女	37.5%	6.3%	0.0%	12.5%	20.8%	0.0%	14.6%	8.3%	100%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%
計	35.0%	2.4%	2.4%	18.7%	16.3%	0.8%	17.1%	7.3%	100%
16～19歳	20.0%	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
20～29歳	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100%
30～39歳	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	100%
40～49歳	6.3%	0.0%	6.3%	18.8%	25.0%	0.0%	37.5%	6.3%	100%
50～59歳	26.3%	0.0%	5.3%	31.6%	10.5%	0.0%	15.8%	10.5%	100%
60～69歳	51.6%	3.2%	0.0%	3.2%	16.1%	0.0%	22.6%	3.2%	100%
70～79歳	44.0%	4.0%	0.0%	8.0%	20.0%	4.0%	12.0%	8.0%	100%
80歳以上	38.5%	7.7%	7.7%	15.4%	15.4%	0.0%	0.0%	15.4%	100%
計	35.0%	2.4%	2.4%	18.7%	16.3%	0.8%	17.1%	7.3%	100%

問 27 伝統的な祭りや歴史的な建物などの存在が、その地域の人々にとって地域への愛着や誇りとなるとの考え方をどう思うか

「そう思う」が 49.2%、「どちらかといえばそう思う」が 33%であり、他の設問に比べて、よりはっきりと「そう思う」と回答した割合は高い。

全体(N=733)

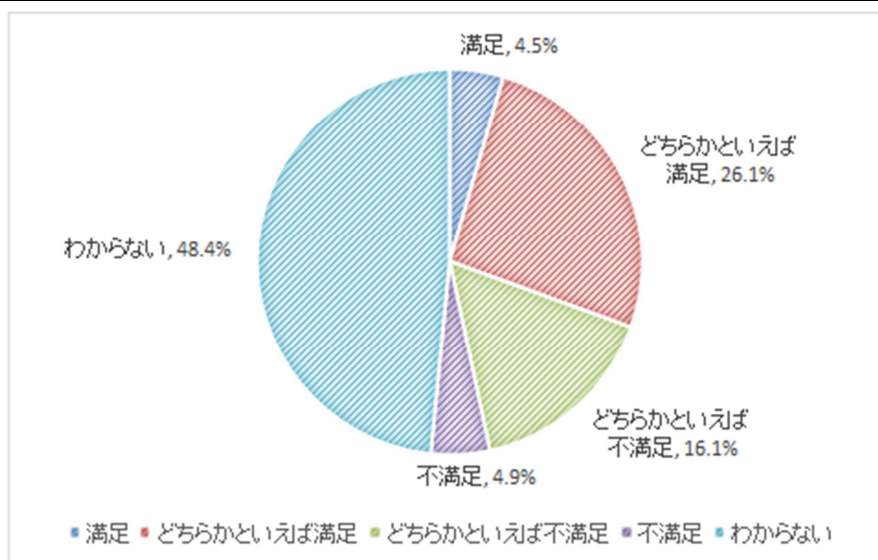


	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	わからない	計
男	50.4%	31.3%	4.5%	4.5%	9.3%	100%
女	48.7%	33.9%	2.6%	1.0%	13.8%	100%
不明	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%	16.7%	100%
計	49.2%	33.0%	3.4%	2.6%	11.7%	100%
16～19歳	38.9%	38.9%	5.6%	0.0%	16.7%	100%
20～29歳	37.8%	44.4%	2.2%	8.9%	6.7%	100%
30～39歳	41.6%	36.4%	3.9%	1.3%	16.9%	100%
40～49歳	36.4%	44.9%	3.7%	3.7%	11.2%	100%
50～59歳	52.2%	31.9%	4.4%	0.9%	10.6%	100%
60～69歳	56.3%	29.4%	5.6%	2.5%	6.3%	100%
70～79歳	52.9%	32.0%	1.3%	3.3%	10.5%	100%
80歳以上	59.3%	11.9%	0.0%	0.0%	28.8%	100%
計	49.2%	33.0%	3.4%	2.6%	11.7%	100%

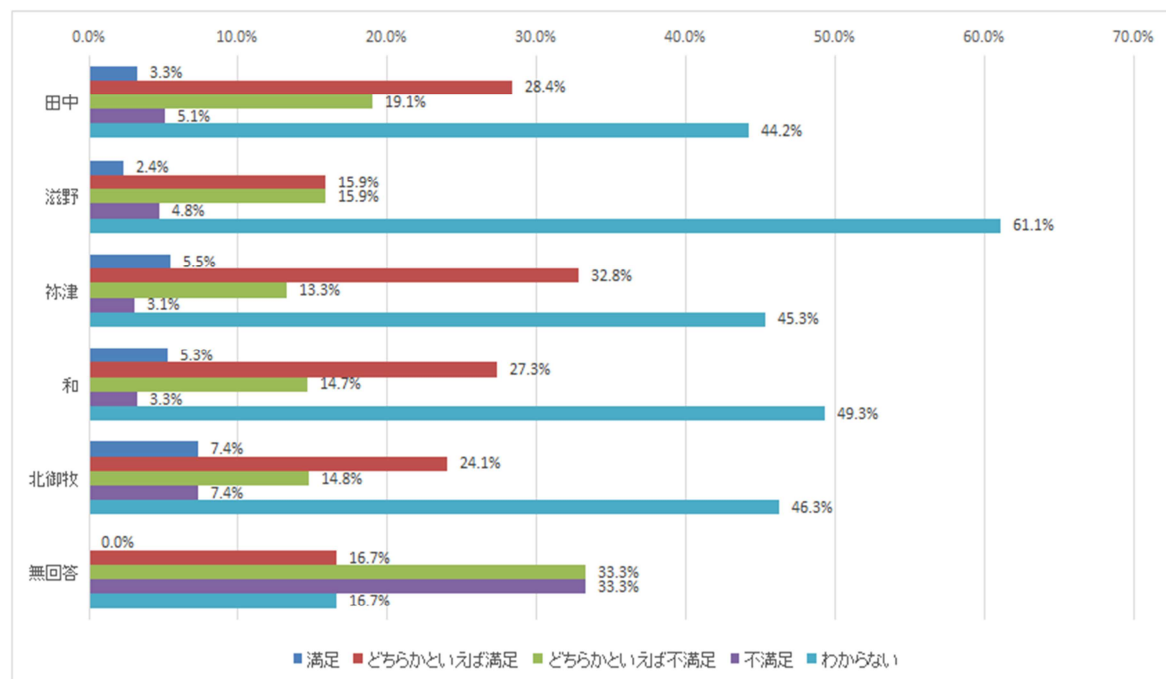
問 28 文化芸術を鑑賞したり習い事をする機会や文化財・伝統的まちなみの保存・整備など、居住地域での文化的な環境に満足しているか

文化的な環境について、「満足」は 4.5%と低く、「わからない」が約半数を占める。特に滋野地区では「満足」が 2.4%で「わからない」が 61.1%であり、五地区の中で最も値が悪い。

全体(N=733)



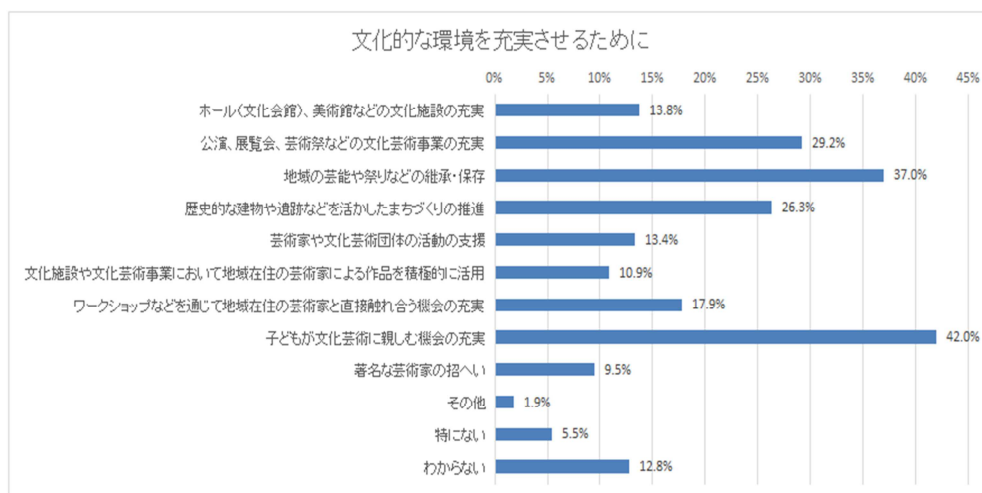
文化芸術活動をした方	満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満足	不満足	わからない	計
計	15	95	50	17	82	259
文化芸術活動をしなかった方	満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満足	不満足	わからない	計
計	18	96	68	19	273	474



問 29 居住地域の文化的な環境を充実させるために、何が必要だと思うか〔複数回答可〕

文化的な環境の充実には「子どもの機会の充実」が必要だと多くが答えていて、特に 30・40 代の半数以上がそう回答している。また、5.5%は「特にない」と考えている。

全体(N=733)



	ホール(文化会館)、美術館などの文化施設の充実	公演、展覧会、芸術祭などの文化芸術事業の充実	地域の芸能や祭りなどの継承・保存	歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進	芸術家や文化芸術団体の活動の支援	文化施設や文化芸術事業において地域在住の芸術家による作品を積極的に活用	ワークショップなどを通じて地域在住の芸術家と直接触れ合う機会の充実	子どもが文化芸術に親しむ機会の充実	著名な芸術家の招へい	その他	特にない	わからない	回答者数	回答数(個)
男	14%	28%	37%	29%	13%	12%	16%	41%	10%	2%	7%	11%	100%	735
女	14%	31%	38%	23%	14%	10%	20%	43%	9%	2%	4%	14%	100%	868
不明	0%	0%	0%	67%	0%	17%	0%	50%	17%	0%	17%	17%	100%	11
計	14%	29%	37%	26%	13%	11%	18%	42%	10%	2%	5%	13%	100%	1614
16～19歳	33%	33%	39%	33%	11%	6%	11%	33%	17%	0%	0%	17%	100%	42
20～29歳	29%	27%	53%	31%	18%	11%	22%	38%	4%	0%	4%	7%	100%	110
30～39歳	3%	18%	32%	21%	6%	10%	30%	52%	5%	4%	4%	16%	100%	155
40～49歳	15%	31%	33%	21%	12%	7%	26%	54%	14%	1%	5%	6%	100%	239
50～59歳	17%	35%	32%	26%	18%	14%	17%	37%	15%	3%	4%	13%	100%	260
60～69歳	13%	27%	40%	26%	13%	13%	17%	36%	9%	2%	9%	14%	100%	345
70～79歳	10%	32%	42%	33%	17%	11%	13%	44%	6%	3%	5%	12%	100%	349
80歳以上	15%	29%	27%	25%	7%	8%	2%	32%	10%	0%	8%	24%	100%	111
無回答	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	100%	3
計	14%	29%	37%	26%	13%	11%	18%	42%	10%	2%	5%	13%	100%	1614

問 30 文化芸術振興に関する意見・要望(自由意見)

- ・若い時は忙しく、今は入退院の繰り返し。今は文化芸術を考える事がない。
- ・広報誌等による市民への積極的な周知と情報発信。
- ・現状の施設で充分。その施設はもちろん、野外でも出来るものはアイデアでやれると思うので市民に公募でやってもらうのもひとつの案だと思う。
- ・文化芸術振興以前に教育にお金をかけて欲しい。
- ・仕事が多忙で時間が取れない。
- ・小さな企画等で良いので身近な所から気軽に参加出来るイベントを数多くやること。子供・老人・障害者等が必ずその輪の中に入れる事を第一に考え進めてほしい。
- ・観客 300 人程度のホールがない。サンテラスのホールは大きすぎる。レッスン室リハーサル室は小さすぎる。中央公民館広さはちょうどいいが音響・施設の設備が整っておらず開催しようとする魅力がない。
- ・イベント等で後期高齢者割引等があれば行ってみようかなと思う。
- ・力士雷電を誇りに思うなら、なぜ中学校に小学校に土俵を作り相撲部を部活を作り子供達に興味を持たせないのですか！サッカーだけがスポーツではない！長い目で子供を育てるのが教育ではないでしょうか。雷電を幻の人にならない様にしてください。
- ・市報とうみに歴史的建物や遺跡、地域の芸術や祭り、文化施設の公演・展示、ワークショップ、文化芸術団体の活動のくわしい記事を割引ポイント券つけて載せてほしい。
- ・文化会館の利用を多くしてもらいたい。
- ・地域の伝統的な祭りや行事を守っていくのは大変で難しいことです。若い人はあまり興味もなく、役員になるのを嫌がり出来れば逃げていたくて、守っていくのは大変な事だと思う。
- ・市外で働いているため、休日・夜間しか市内にいない。情報が少なく時間帯も合わないの、勤労者が参加できるような仕組み(休日・夜間の催しや情報(ネットなど))があると嬉しい。
- ・文化芸術は年配が楽しむものとの印象があるが子供の文化芸術体験は大切なこと。今興味が無くても大人になって行く末に興味が出ると思う。
- ・地域文化財の公示。駐車スペースが足りない。
- ・色々やるより市の赤字・借金を減らす方が先。
- ・広報では、スポーツのお知らせ・案内は見るが文化芸術に関しては情報がない様に思う。もっと情報を集えば集客が増え市の振興につながると思う。また、子ども達が興味を持つ様な文化芸術を考えた提案も必要。
- ・文化事業の振興は地域の活力を生み出し、発展に貢献すると思う。
- ・行政として文化芸術振興を大切な事業として行っているイメージはない。地域で立ち上げている事業を横で見ていて企画者に任せきりがほとんどです。(梅野記念館他) 市として費用を計画的に負担しながら東御市らしい文化芸術振興に力を入れて欲しい。
- ・子ども達が東御で育ち東御を愛し東御で一生生活したいと思えるまち作りを期待します。優秀な子ども達が都心に流れていくのは交通の便や生活の便利さがあるだけでなく、東御市に愛着や人とのつながりができないからではないでしょうか。昔のように学校もクラス替え担任替えがあり同級生や仲間意識も薄れ同級会などもなくなりふるさとに思いを寄せる機会もなくなっていると思います。そんな現状に将来をまかせていかれるような仕組みを作ることが必要。文化事業にもその一部を期待します。
- ・そんな事に費用を使うならもっと子供達のために考えて欲しい。大人は自分で自由に趣味を考えていけば良い。今の東御市に不満です。市職も皆忖度の人ばかりでとてもイヤな街です。

- ・芸術振興を考えるなら地域の産業（ワイン等）のコラボを考えた方が良い。今はとにかく事業が単独で行われているが、例えば地区の自治会で音楽を聞く事業はあるか？ワインをトライする場所・機会が有るか？同じ市の事業なのに何か他人様の様に感じる。
- ・将来の子供達のために文化芸術が身近に感じられる街になるよう希望します。
- ・成立遺跡の再調査。
- ・ピアノだけでなくフルートやチェロ等のコンサートが開かれれば嬉しいです。
- ・有名な音楽の公演を増してほしい。
- ・旧北御牧で行われている天空の芸術祭は見るにたえないものが多く”中止”にしたほうが良いと思う。また、会期が終わってから市内の公共の場などに展示・設置するのは見ぐるしいのでやめてほしい。だんだん地域が汚くなるので問題だと思う。特に旧北御牧村。
- ・何かしらの文化芸術振興があることによって、人とのつながりやふれあいが生まれるので大切なものだと思う。
- ・文化芸術は人にとってとても大切で重要だとは思いますが、20代～30代は特に生活が忙しい時期、気持ちに余裕がありません。でも、この時期が以降の生活を左右したかなと思います。どうにかして時間を作り出して参加していける気持ちを持つような状況、環境があるとうれしい。
- ・創作の場をもっと作ってほしい。
- ・「サイトウキネン」もホットワインの提供などしている。
- ・文化芸術というものはもっと敷居の低いものでなければならないと思う。
- ・私は太平洋戦争が始まった年に生まれ戦中戦後を生きることによって一生懸命でした。時に芸術、公演等もありませんでした。今になってあゝ中学、高校の時あれを習っておけばよかったなあ…と思うことがしばしばあります。（テレビ等を見ていて）今の子供達は多感で親しむ機会に非常にめぐまれているのではないのでしょうか。子供や孫達が趣味を持ち遠い将来を豊かに暮らす為に平和な国であって欲しいです。と同時にこれから先（食糧難、世界経済の変化）に対応できる生きていく力を身につけることを進めていって欲しいです。物を大切に、人の痛みがわかることも芸術文化を発展させていくのではないのでしょうか。少子高齢化でこれから先が思いやられます。
- ・太鼓、笛などはとても好きなので学びたいと思う。ですが、どこで学べるかどこでやっているか分からないので情報をもっと開示してもらいたい。
- ・小中学校ではかなり普及していると思うが本当に楽しいか？社会人になってから興味がなくなる。（仕事が忙しいうから？楽しさを知らない）（習い事は時間とお金がかかる）人生で趣味なしで終わる人が多い。少子化時代若い人が参加しなかったら終る。年寄だけになる。文化芸術は楽しい事。習い事の講師は無報酬で次世代を育てる喜びを。小中高生には経験者が技術・経験を報酬なしで伝授する場に。発表会でホール等を使うが料金が高すぎる。
- ・自分は音楽に興味がありバンドを組んでみたいと思っています。そこでいつどこでどんなイベントをやっているのかどんな団体があってどんな活動をしているのか情報がほとんど入ってこないで情報がほしい。演奏する仲間ができたらいイベントにも出てみたい。音楽のみではなくこんなことやってる！こんな団体もあるのか！とわかればやってみたくなる人は多いと思います。
- ・どんな芸術家が市内にいるのか知らない又知る機会が少ない。
- ・文化芸術は時代や国境を超える人類の遺産である。自然災害、戦争、様々の予期せぬ事が、私達を襲ってきた。人々が生み出した文化芸術を大切に次世代に伝えていくことが人の営みの最も大切な行為であると考えたい。そこに文化芸術振興の意味があると思う。
- ・文化芸術は心を豊かにするととても大切なものだと思うので多くの文化芸術が広まることを願います。

- ・自分は文化芸術に全く興味がないのでどうしてそういうところに税金が使われるのかわかりません。でも、他の市民の皆さんが文化芸術を充実させることにより、より幸福な生活を送れるのでしたらぜひ推進させてください。公民館活動や生涯教育など一体型で推進させた方がよいと思います。
- ・文化施設についての内容ですが、以前中央公民館に申し込みをしようとしたが、料金的な事もあり利用することができませんでした。その時は上田市の創造館を利用させて頂きましたが東御市で利用することができるのと有難く思います。東御市でも創造館のようなもっと幅広い年代の方々が気軽に集うことができる場、色々なイベントが開催されたり、利用する時も低料金だともっと利用しやすくなるのではと思いました。
- ・映画はサンテラスで観る事は出来ないのですか。
- ・地域振興のため、地域の伝統芸能を受け継ぐことの重要性は理解できるが地域にこだわりすぎるとそれ以上に育たないのではないかと思う。広い世の中の芸術の担い手たちの作品や発表にも触れた方がよいと思う。(他県出身で愛着なさすぎかも知れないが)
- ・子どもを対象としたイベントを多く取り入れる。将来につながると思う。
- ・文化芸術振興にはあまり関わる事がなかったので機会があったら体験したい。
- ・文化芸術に興味はないが、多くの家庭では子育てするのに精一杯で文化芸術までお金をかけられる人は少ないのでは？まずは子育て支援で家計を助けることが振興につながると思う。若い人が参加しないと老人会のようにになってしまい、余計に若い人は参加しない。若い人が参加できる環境作りが必要。
- ・これ以上の新規施設はいらない。
- ・コロナ禍で多くのイベントが中止になっているため様子を知る機会なく過ごしている。
- ・市の文化施設の使用料金を無料をお願いします。
- ・海野宿のことばかりだと思う。
- ・時間が無く参加していないがこれからは時間を作り参加してみたい。
- ・東御市は様々な取り組みや活動が行われていると思う。子どもは学校での行事を修得しやすいので、音楽鑑賞や落語鑑賞なども楽しく興味を持つきっかけになるのではないのでしょうか。家庭でもいろいろ体験させたいが、個々の予定がありなかなか経験させるのは難しい。学校でならありがたいです。
- ・有名人による公演を企画してほしい(若者から高齢者向けに)
- ・雷電まつりは理解できるが、TOMITOMIの音楽にあわせて踊ることが理解不能。
- ・自分が何に向いているかに気付くきっかけが必要。例えばどんな活動があるのか詳細案内の類いの配布。
- ・人材投資に期待する。子供の頃の東御市は良い故郷だったなあと思える市にしてほしいです。7ヶ所の市に住んできたので、それぞれ同じ活動があり、地域に根付いた文化があるところが魅力があった様に思う。住民の為の文化事業を…。市外や県外の方用の施設や文化会館は…。
- ・芸術振興すべてに対応することはムリ。身近にするにはやはり学校活動を通じて子供達が積極的に参加出来る環境が必要。地域を巻き込む。
- ・展覧会等の公募数充実。
- ・柵津の歌舞伎舞台は演劇人にとって魅力ある場です。バブル期に6年間イベントを行いました。その後高校生がこの舞台を使って芝居ができるように保存会の皆さんにもご協力頂いて5年間続けてきました。(市教育委員会にも名義後援していただいています)県外から人を呼びじわりと広げてゆきたいのですが時間がかかります。経済効率だけで(或は利用率とか集客率といった数字)判断して下さらないよう。種が育ち一人前になるまで長く見つめ少しの肥料(金銭支援)を願えれば幸いと考えています。
- ・今年はコロナで文化的芸術的な事柄に触れることはほとんど失くなってしまった。来年はコロナが終息し例年通りの催しが充実することを望みます。

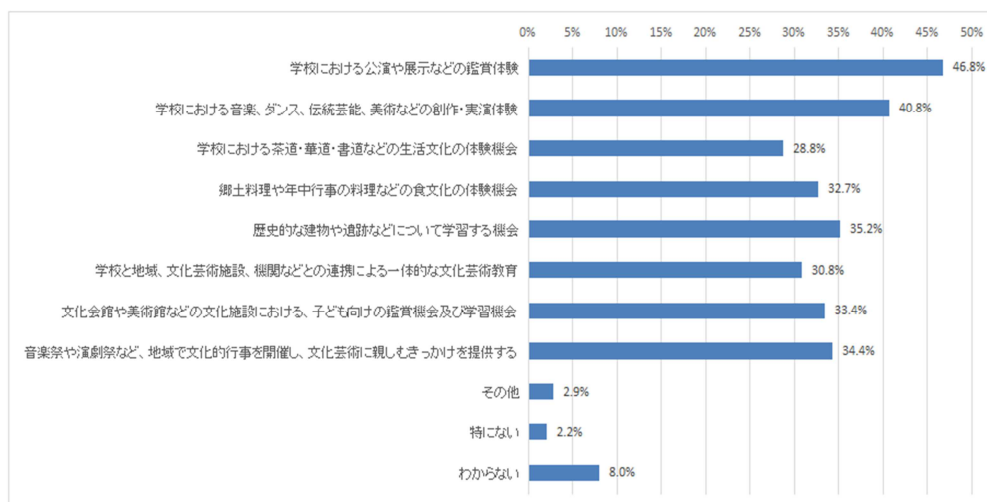
- ・一流の文化芸術はつくるのも育てるのも難しい。第三者と時代が結果を出すまで人々が耐えられるかどうか重要。
- ・市民のために東御市のお金を使ってほしい。市民の健康増進に役立つよう東御市のお金を使ってほしい。近隣市町村には東御市が真似できない政策が見受けられます。もっと積極的に県内外の活動を知るべく交流や研修を行い、東御市民に提案してほしい。オリンピック選手を育てるのは財産の貧しい東御市ではない。何とか市民として誇れる市政にしてほしい。
- ・イベント等ボランティア活動したいと思うが一部での盛り上がりでしかない様に思う。もう少し内輪だけでなく皆が関われる様仕向ける事も必要かと思う。「一部」ではなく「地域」で作り上げれる力をつける。
- ・市内にある昭和レトロな建物紹介、歩いて建物めぐり、それぞれの建物でお茶したり、簡単なものを作ったりできたら良いと思う。東御新発見、こんな場所があるなんて！と思えるようなドキドキ感を味わいたい。海野宿は町並みが保存されていますが、探せば市内に趣のある場所も点在するのではないかと期待がある。
- ・①文化に関する情報の提供 ②自治体による講演・展覧会などの文化事業・行事の実施 ③芸術団体・サークル等の育成援助や公演活動での文化創造活動の支援 ④指導者の育成・派遣 などの事業を進め、文化施設の整備・充実等は上記①～④の事業の進行状況により判断する。
- ・小中高などの学校との連携。平日に街ぐるみで実施する。
- ・御柱や歌舞伎舞台など地域以外の人々が参加することを拒まれた記憶がある。子供の時に楽しく文化に触れ合うことや興味を持ってくれた子供たちを快く受け入れる体制ができれば文化の振興や継承もできるのではないかなと思う。
- ・文化芸術と言われると、地元に伝わるものや歴史的なものが挙がるが多く、大切にしていかなければならないものであることはわかっているが、興味が湧かない。デジタルや二次元など新しいもの、首都圏へ出向かないと触れられないものなど、広い視点を持って振興してもらいたい。他の地域と同じ様なことをしていても埋没してしまうし、刺激や新しい発見がない。
- ・長野県には松本市、長野市、小布施町など文化芸術を大切に街づくりでイメージアップしてきた街が多くある。そのような街を参考にして街づくりをして欲しい。文化芸術を大切にしている街は必ずファンやリピーターを増やします。
- ・東御市はたくさんの魅力で溢れている街であるが、それをさらに活かしていくためには市民の意見を取り入れていくことが重要であると考えている。
- ・子ども歌舞伎の維持管理の補助金等の充実。

5 子どもの文化芸術体験について

問 31 子どもの文化芸術体験について、何が必要だと思うか〔複数回答可〕

子どもの文化芸術体験について、「学校における鑑賞体験や創作・実演体験」を多くの回答者は必要だと考えている。教育現場における文化芸術の期待度の高さがうかがえる。特に「公演や展示」など、子ども自身が動くよりも、子どもの環境に文化芸術を取り入れることを望んでいることがわかる。

全体(N=733)

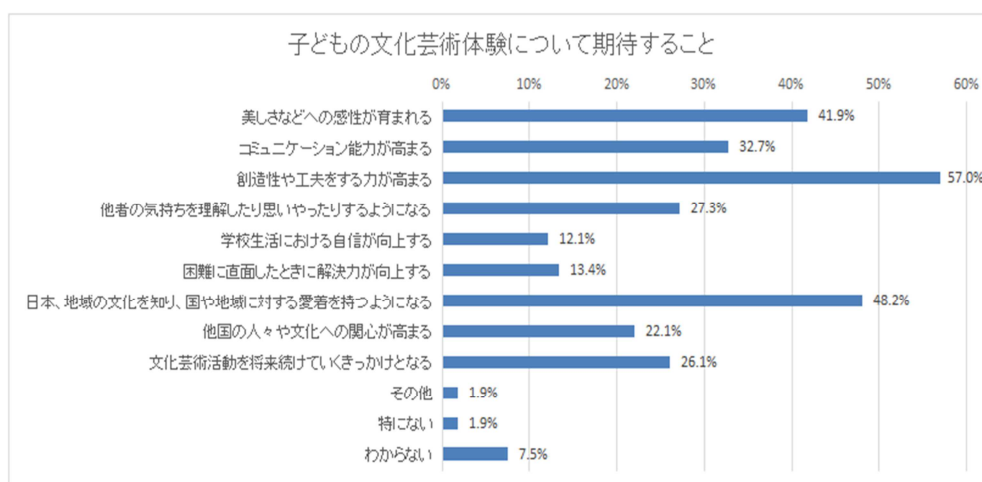


	学校における公演や展示などの鑑賞体験	学校における音楽、ダンス、伝統芸能、美術などの創作・実演体験	学校における茶道・華道・書道などの生活文化の体験機会	郷土料理や年中行事の料理などの食文化の体験機会	歴史的な建物や遺跡などについて学習する機会	学校と地域、文化芸術施設、機関などとの連携による一体的な文化芸術教育	文化会館や美術館などの文化施設における、子ども向けの鑑賞機会及び学習機会	音楽祭や演劇祭など、地域で文化的行事を開催し、文化芸術に親しむきっかけを提供する	その他	特になし	わからない	回答者数	回答数(個)
男	44%	39%	27%	27%	37%	30%	28%	31%	5%	4%	9%	100%	943
女	49%	42%	30%	38%	34%	32%	38%	38%	1%	1%	7%	100%	1211
不明	50%	33%	33%	17%	33%	17%	50%	17%	0%	0%	17%	100%	16
計	47%	41%	29%	33%	35%	31%	33%	34%	3%	2%	8%	100%	2170
16～19歳	50%	50%	39%	44%	33%	17%	28%	39%	6%	0%	6%	100%	56
20～29歳	71%	31%	33%	31%	36%	40%	22%	36%	0%	2%	2%	100%	137
30～39歳	56%	56%	51%	48%	35%	30%	27%	34%	1%	0%	6%	100%	265
40～49歳	49%	49%	37%	34%	37%	25%	35%	38%	1%	2%	5%	100%	333
50～59歳	48%	39%	24%	35%	36%	41%	38%	35%	4%	2%	7%	100%	349
60～69歳	45%	41%	25%	33%	32%	31%	35%	29%	4%	4%	8%	100%	459
70～79歳	40%	37%	20%	26%	37%	30%	39%	39%	2%	2%	9%	100%	428
80歳以上	34%	25%	20%	22%	34%	22%	24%	27%	3%	3%	22%	100%	140
無回答	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	3
計	47%	41%	29%	33%	35%	31%	33%	34%	3%	2%	8%	100%	2170

問 32 子どもの文化芸術体験について、期待する効果は何か〔複数回答可〕

子どもの教育環境に文化芸術体験の機会を増やすことで、「創造性や工夫の力」や「国や地域に対する愛着」を身に付けて欲しいと約半数が回答している。また、直接的な効果ではなく、きっかけ作りの期待もある。

全体(N=733)

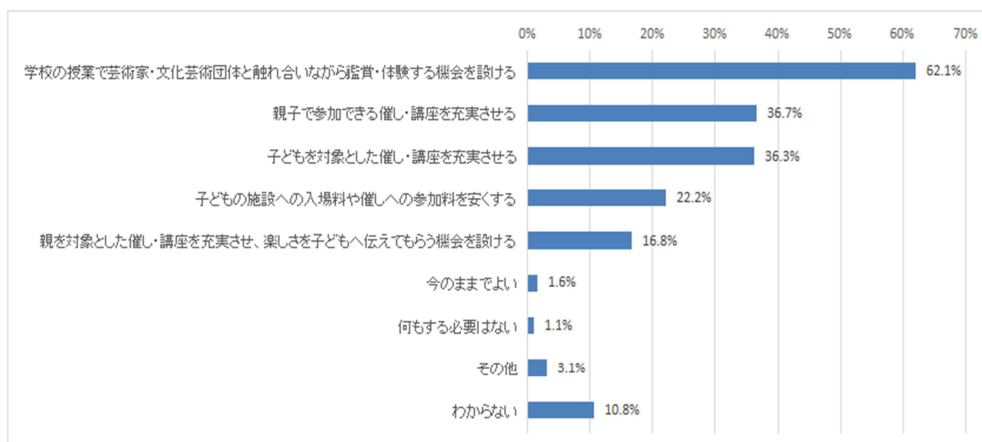


	美しさなどへの感性が育まれる	コミュニケーション能力が高まる	創造性や工夫をする力が高まる	他者の気持ちを理解したり思いやりったりできるようになる	学校生活における自信が向上する	困難に直面したときに解決力が向上する	日本、地域の文化を知り、国や地域に対する愛着を持つようになる	他国の人々や文化への関心が高まる	文化芸術活動を将来続けていくきっかけとなる	その他	特にない	わからない	回答者数	回答数(個)
男	41%	37%	53%	27%	14%	13%	43%	20%	25%	3%	3%	7%	100%	951
女	43%	29%	60%	27%	11%	14%	53%	24%	27%	1%	1%	8%	100%	1172
不明	33%	33%	67%	50%	0%	0%	33%	33%	33%	0%	0%	17%	100%	18
計	42%	33%	57%	27%	12%	13%	48%	22%	26%	2%	2%	8%	100%	2141
16～19歳	22%	44%	44%	17%	11%	28%	44%	33%	39%	0%	0%	11%	100%	53
20～29歳	44%	51%	67%	24%	11%	9%	49%	33%	29%	0%	2%	2%	100%	145
30～39歳	45%	34%	70%	31%	17%	17%	52%	35%	26%	1%	1%	5%	100%	258
40～49歳	41%	25%	71%	23%	7%	11%	50%	21%	24%	0%	1%	5%	100%	300
50～59歳	43%	38%	55%	23%	11%	14%	50%	21%	25%	5%	3%	7%	100%	333
60～69歳	45%	34%	53%	28%	11%	10%	50%	19%	28%	3%	3%	7%	100%	464
70～79歳	41%	29%	54%	33%	14%	16%	46%	20%	29%	1%	1%	7%	100%	447
80歳以上	36%	24%	34%	25%	15%	14%	41%	10%	14%	0%	3%	22%	100%	140
無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	1
計	42%	33%	57%	27%	12%	13%	48%	22%	26%	2%	2%	8%	100%	2141

問 33 子どもが文化芸術に親しむために、市が何をすべきか[複数回答可]

62.1%が教育現場での鑑賞・体験機会を市に対して求めている。10代(67%)と20代(76%)の割合も高いことから、親の期待だけでなく当事者の期待とも合致していることがわかる。

全体(N=733)

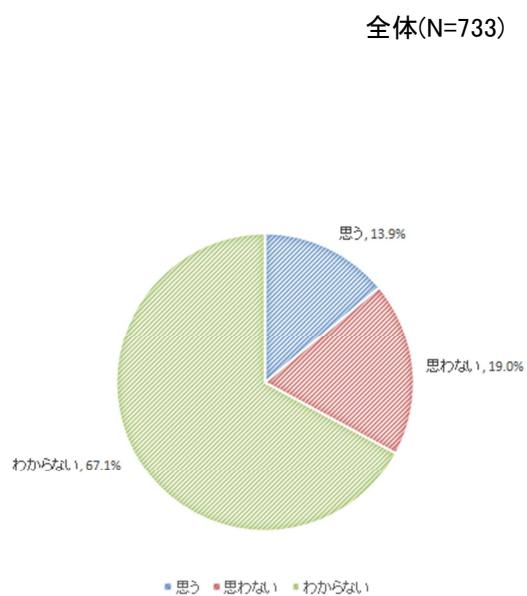


	学校の授業で芸術家・文化芸術団体と触れ合いながら鑑賞・体験する機会を設ける	親子で参加できる催し・講座を充実させる	子どもを対象とした催し・講座を充実させる	子どもの施設への入場料や催しへの参加料を安くする	親を対象とした催し・講座を充実させ、楽しさを子どもへ伝えてもらう機会を設ける	今のままでよい	何もする必要はない	その他	わからない	回答者数	回答数(個)
男	54%	38%	36%	21%	20%	2%	2%	5%	12%	100%	634
女	69%	36%	37%	23%	14%	2%	0%	2%	10%	100%	756
不明	33%	33%	0%	17%	33%	0%	0%	0%	17%	100%	8
計	62%	37%	36%	22%	17%	2%	1%	3%	11%	100%	1398
16～19歳	67%	17%	39%	22%	17%	6%	0%	0%	17%	100%	33
20～29歳	76%	40%	24%	22%	20%	2%	0%	0%	7%	100%	86
30～39歳	69%	53%	48%	26%	18%	0%	0%	1%	9%	100%	173
40～49歳	64%	33%	39%	24%	14%	3%	4%	3%	5%	100%	201
50～59歳	58%	35%	41%	21%	15%	0%	1%	4%	10%	100%	208
60～69歳	62%	33%	31%	24%	18%	2%	1%	7%	11%	100%	298
70～79歳	60%	41%	40%	22%	18%	3%	1%	1%	10%	100%	300
80歳以上	53%	29%	22%	12%	17%	0%	0%	2%	29%	100%	96
無回答	100%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	0%	100%	3
計	62%	37%	36%	22%	17%	2%	1%	3%	11%	100%	1398

6 障がいのある方の文化芸術活動について

問 34 市内で障がいのある方の文化芸術活動の鑑賞・参加の機会は十分だと思うか〔複数回答可〕

十分だと「思う」が 13.9%、「思わない」が 19%、「わからない」が 67.1%であった。回答者の約1割が「健康である」以外健康状態であるため、「思わない」の 19%は高い値だと言える。

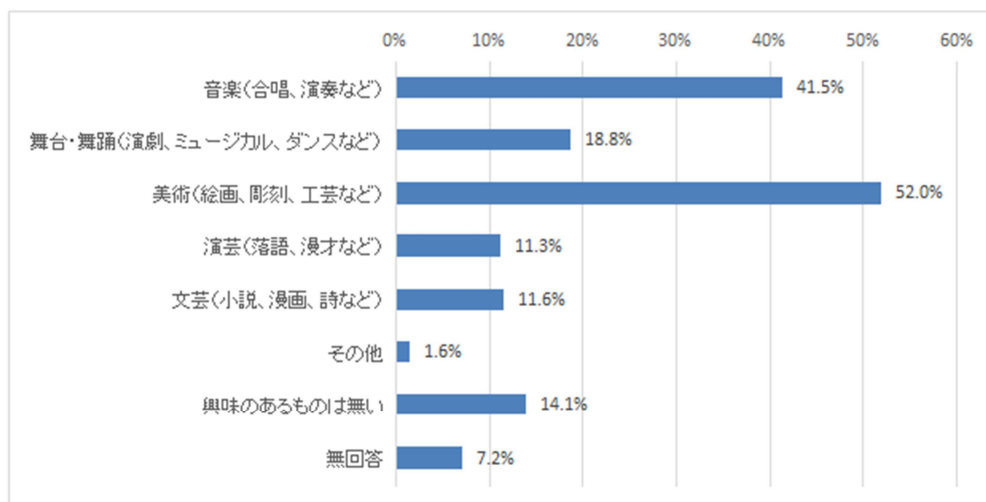


	思う	思わない	わからない	計
男	13.4%	21.2%	65.4%	100%
女	14.0%	17.3%	68.6%	100%
不明	33.3%	0.0%	66.7%	100%
計	13.9%	19.0%	67.1%	100%
16～19歳	16.7%	0.0%	83.3%	100%
20～29歳	33.3%	13.3%	53.3%	100%
30～39歳	11.7%	14.3%	74.0%	100%
40～49歳	12.1%	15.9%	72.0%	100%
50～59歳	15.9%	14.2%	69.9%	100%
60～69歳	10.6%	25.0%	64.4%	100%
70～79歳	9.8%	25.5%	64.7%	100%
80歳以上	20.3%	15.3%	64.4%	100%
計	13.9%	19.0%	67.1%	100%

問 35 障がいのある方の文化芸術活動のうち、興味があるものはあるか〔複数回答可〕

障がいのある方の文化芸術活動のうち「美術（絵画、彫刻、工芸など）」に興味が多く集まり、「音楽（合唱、演奏など）」が続く。これらの分野は表現者や団体が多く、鑑賞の機会が多いからだと考えられる。

全体(N=733)

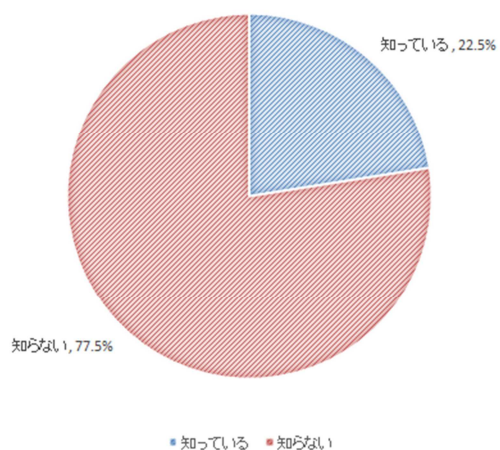


	音楽（合唱、演奏など）	舞台・舞踊（演劇、ミュージカル、ダンスなど）	美術（絵画、彫刻、工芸など）	演芸（落語、漫才など）	文芸（小説、漫画、詩など）	その他	興味のあるものは無い	無回答	回答者数	回答数（個）
男	40%	14%	51%	14%	11%	2%	18%	6%	100%	524
女	43%	23%	53%	9%	11%	1%	10%	8%	100%	625
不明	33%	0%	50%	17%	33%	0%	17%	17%	100%	10
計	41%	19%	52%	11%	12%	2%	14%	7%	100%	1159
16～19歳	39%	17%	33%	17%	33%	6%	11%	0%	100%	28
20～29歳	40%	24%	60%	16%	20%	0%	16%	4%	100%	81
30～39歳	40%	21%	51%	4%	12%	0%	23%	1%	100%	117
40～49歳	45%	20%	61%	7%	14%	3%	14%	1%	100%	175
50～59歳	35%	15%	58%	12%	15%	1%	17%	4%	100%	178
60～69歳	43%	28%	49%	9%	8%	3%	13%	9%	100%	257
70～79歳	43%	13%	56%	17%	9%	1%	10%	10%	100%	244
80歳以上	41%	10%	24%	15%	3%	2%	12%	24%	100%	77
無回答	100%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	2
計	41%	19%	52%	11%	12%	2%	14%	7%	100%	1159

問 36 文化芸術活動を共に行うことを通じて、障がい者や高齢者、生活に困窮している方など社会的に孤立しがちな人との交流を深め、コミュニティを強くしていこうという考え方を知っているか

考え方を「知っている」が 22.5%、「知らない」が 77.5%であった。性別別でも年齢別でも、「知っている」は2割前後で、「知らない」が8割前後である。

全体(N=733)

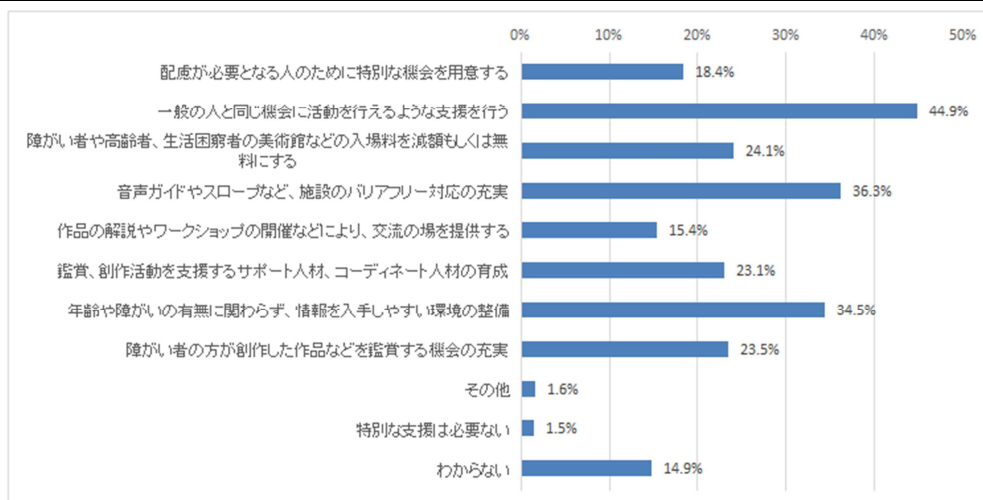


	知っている	知らない	計
男	28.1%	71.9%	100%
女	18.1%	81.9%	100%
不明	0.0%	100.0%	100%
計	22.5%	77.5%	100%
16～19歳	22.2%	77.8%	100%
20～29歳	17.8%	82.2%	100%
30～39歳	20.8%	79.2%	100%
40～49歳	19.6%	80.4%	100%
50～59歳	19.5%	80.5%	100%
60～69歳	25.6%	74.4%	100%
70～79歳	24.2%	75.8%	100%
80歳以上	27.1%	72.9%	100%
計	22.5%	77.5%	100%

問 37 文化芸術活動を通じて、障がい者や高齢者、生活に困窮している方など社会的に孤立しがちな人との交流を深め、コミュニティを強くしていくためにどんな取り組みが必要か〔複数回答可〕

「施設のバリアフリー化」(36.3%)や「情報の入手しやすい環境」(34.5%)を整えることで、「一般の人と同じ機会に活動を行えるような支援を行う」(44.9%)が必要だと考えられている。

全体(N=733)



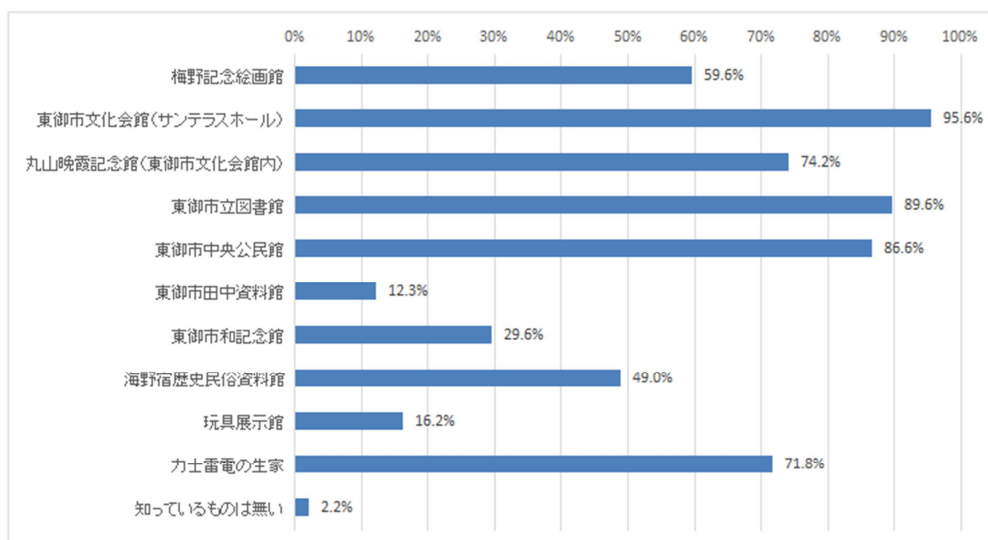
	配慮が必要となる人のために特別な機会を用意する	一般の人と同じ機会に活動を行えるような支援を行う	障がい者や高齢者、生活困窮者の美術館などの入場料を減額もしくは無料にする	音声ガイドやスロープなど、施設のバリアフリー対応の充実	作品の解説やワークショップの開催などにより、交流の場を提供する	鑑賞、創作活動を支援するサポート人材、コーディネート人材の育成	年齢や障がいの有無に関わらず、情報を入手しやすい環境の整備	障がい者の方が創作した作品などを鑑賞する機会の充実	その他	特別な支援は必要ない	わからない	回答者数	回答数(個)
男	19%	45%	20%	31%	16%	20%	34%	24%	3%	2%	17%	100%	773
女	18%	45%	28%	41%	15%	25%	35%	22%	1%	1%	13%	100%	958
不明	0%	33%	33%	33%	17%	33%	50%	33%	0%	0%	17%	100%	15
計	18%	45%	24%	36%	15%	23%	35%	23%	2%	2%	15%	100%	1746
16～19歳	22%	50%	22%	56%	22%	11%	33%	28%	0%	0%	28%	100%	49
20～29歳	22%	38%	16%	53%	27%	22%	38%	27%	2%	0%	11%	100%	115
30～39歳	21%	47%	16%	38%	14%	14%	34%	26%	0%	1%	14%	100%	173
40～49歳	26%	47%	25%	42%	19%	26%	34%	19%	0%	2%	7%	100%	264
50～59歳	17%	40%	22%	43%	17%	29%	32%	20%	4%	1%	16%	100%	272
60～69歳	15%	45%	28%	35%	14%	28%	36%	21%	3%	2%	14%	100%	385
70～79歳	15%	50%	29%	27%	14%	21%	42%	27%	1%	2%	14%	100%	371
80歳以上	19%	41%	20%	19%	5%	14%	19%	27%	2%	2%	31%	100%	116
無回答	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	1
計	18%	45%	24%	36%	15%	23%	35%	23%	2%	2%	15%	100%	1746

7 文化施設について

問 38 次の施設のうち、知っているものはどれか〔複数回答可〕

東御市文化会館は95.6%が知っているのに対して、館内の丸山晚霞記念館を知っているのは74.2%であった。東御市田中資料館や玩具展示館、東御市和記念館は認知度が3割に届かない一方で、梅野記念絵画館や雷電の生家は認知度が高く、市外からの訪問者も多い、

全体(N=733)

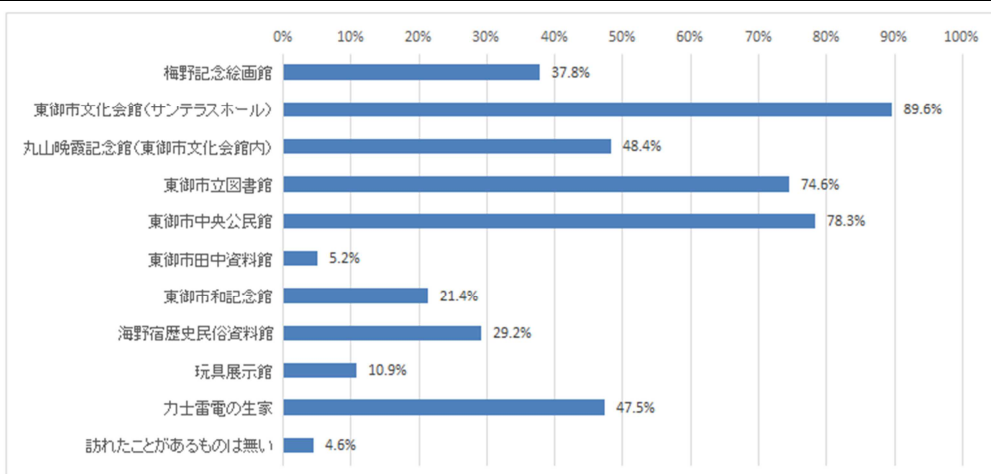


	梅野記念絵画館	東御市文化会館(サンテラスホール)	丸山晚霞記念館(東御市文化会館内)	東御市立図書館	東御市中央公民館	東御市田中資料館	東御市和記念館	海野宿歴史民俗資料館	玩具展示館	力士雷電の生家	知っているものは無い	回答者数	回答数(個)
男	58%	95%	75%	89%	84%	14%	31%	49%	18%	76%	2%	100%	1982
女	61%	96%	74%	90%	89%	10%	28%	48%	15%	68%	2%	100%	2282
不明	50%	100%	67%	83%	83%	17%	33%	67%	33%	83%	0%	100%	37
計	60%	96%	74%	90%	87%	12%	30%	49%	16%	72%	2%	100%	4301
16～19歳	39%	94%	61%	100%	89%	17%	22%	28%	11%	67%	0%	100%	95
20～29歳	29%	91%	53%	87%	82%	7%	13%	40%	4%	51%	2%	100%	207
30～39歳	34%	90%	53%	90%	68%	5%	19%	39%	18%	58%	1%	100%	366
40～49歳	49%	100%	70%	92%	86%	10%	30%	43%	16%	78%	0%	100%	613
50～59歳	60%	97%	74%	96%	92%	16%	26%	44%	15%	71%	1%	100%	669
60～69歳	68%	97%	83%	89%	91%	15%	32%	58%	19%	76%	2%	100%	1006
70～79歳	79%	97%	87%	92%	93%	14%	40%	60%	22%	76%	3%	100%	1015
80歳以上	69%	90%	73%	69%	75%	8%	32%	42%	5%	73%	8%	100%	322
無回答	100%	100%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	100%	100%	0%	100%	8
計	60%	96%	74%	90%	87%	12%	30%	49%	16%	72%	2%	100%	4301

問 39 次の施設のうち、訪れたことがあるものはどれか〔複数回答可〕

東御市文化会館は市や学校の行事でも利用されることが多いため利用経験も多く、認知度の低い東御市田中資料館や玩具展示館、東御市和記念館は利用経験も少ない。

全体(N=733)

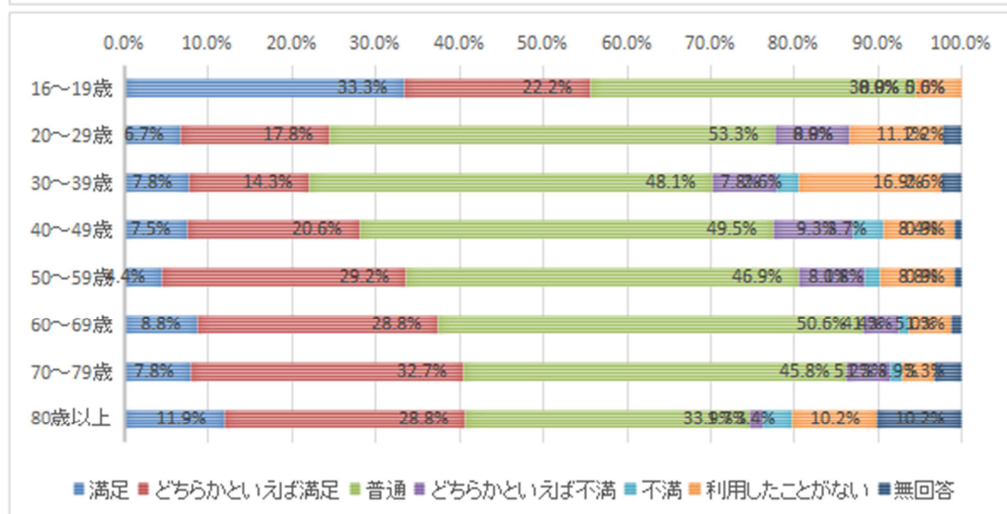
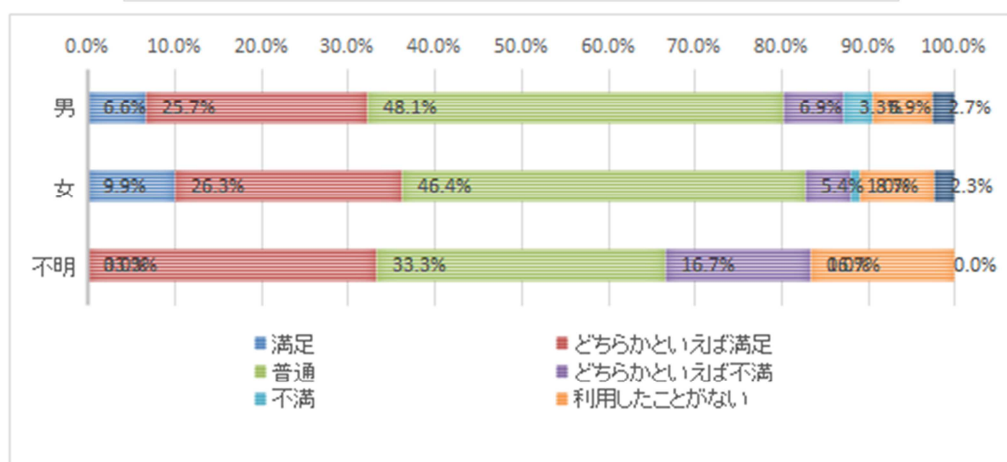
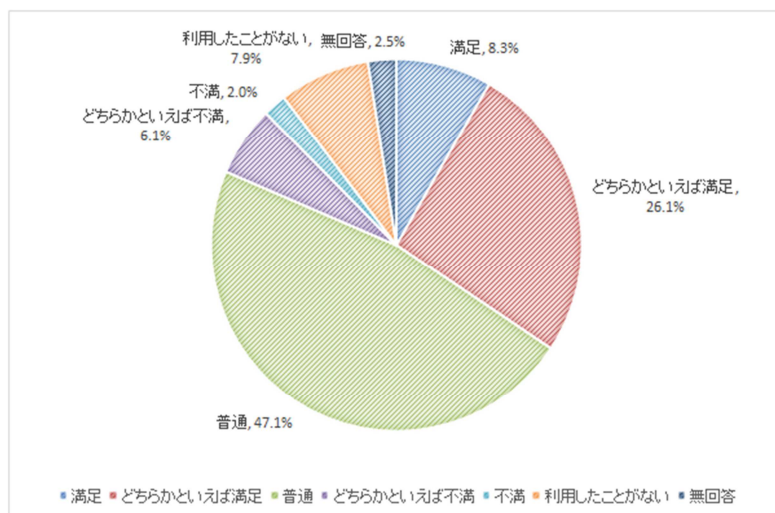


	梅野記念 絵画館	東御市文化 会館(サンテ ラスホール)	丸山晩霞記 念館(東御市 文化会館内)	東御市立 図書館	東御市中 央公民館	東御市田 中資料館	東御市和 記念館	海野宿歴史 民俗資料館	玩具展示 館	カス雷電 の生家	訪れたこと があるもの は無い	回答 者数	回答数 (個)
男	38%	88%	49%	73%	76%	7%	23%	28%	11%	52%	4%	100%	1507
女	38%	91%	48%	76%	81%	4%	20%	30%	11%	44%	5%	100%	1745
不明	50%	100%	50%	67%	67%	0%	33%	50%	17%	50%	0%	100%	29
計	38%	90%	48%	75%	78%	5%	21%	29%	11%	47%	5%	100%	3281
16～19歳	22%	94%	50%	94%	83%	11%	22%	22%	11%	44%	6%	100%	83
20～29歳	18%	82%	42%	73%	69%	2%	9%	27%	4%	38%	9%	100%	168
30～39歳	14%	70%	21%	71%	52%	1%	14%	19%	12%	34%	12%	100%	247
40～49歳	23%	93%	37%	79%	76%	4%	21%	21%	11%	39%	2%	100%	436
50～59歳	39%	94%	43%	84%	81%	6%	20%	19%	6%	40%	2%	100%	492
60～69歳	43%	95%	51%	78%	86%	5%	22%	36%	13%	53%	2%	100%	774
70～79歳	58%	93%	70%	73%	89%	8%	28%	42%	15%	58%	5%	100%	822
80歳以上	46%	83%	54%	44%	68%	5%	24%	27%	5%	63%	10%	100%	253
無回答	0%	100%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	100%	0%	0%	100%	6
計	38%	90%	48%	75%	78%	5%	21%	29%	11%	47%	5%	100%	3281

問 40 文化芸術活動の中心は、文化会館や中央公民館、美術館ですが、施設・設備を利用するの満足度はどうか[複数回答可]

「満足」と「どちらかといえば満足」で 34.4%、「どちらかといえば不満」と「不満」が 8.1%である。「普通」が 47.1%で最も多いが、経年劣化を考えると悪くない数字だ。文化会館と中央公民館はラウンジを開放しているため、主な利用層である 10 代の満足度が高い。

全体(N=733)

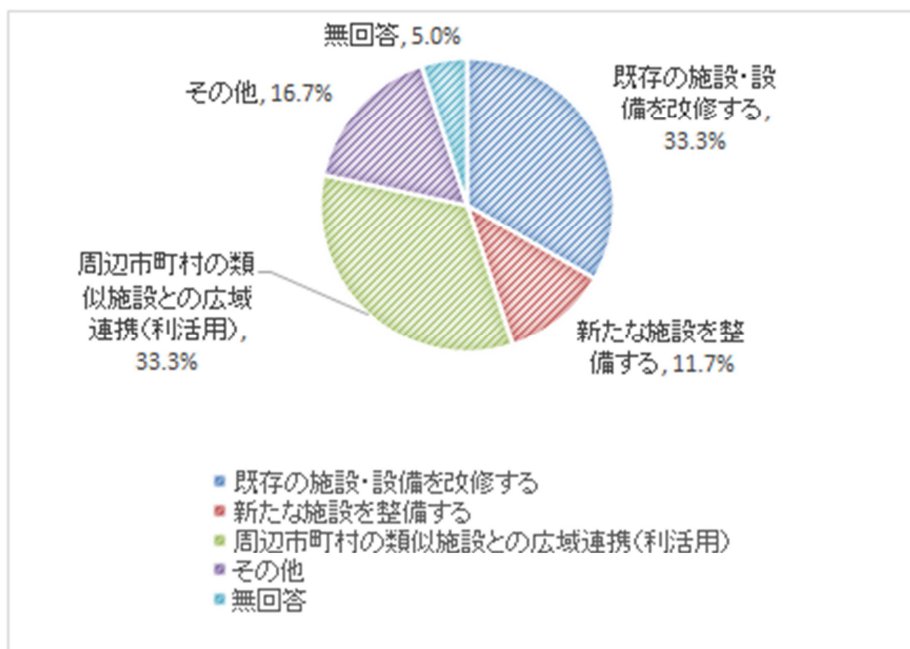


問 41 現在の施設・設備の利用満足度を上げるために何が必要だと思うか〔複数回答可〕

※ 問 40 で「どちらかといえば不満」「不満」に回答した方のみを対象とした設問です。

文化会館や中央公民館、美術館の施設・設備に対する改善点について、「新たな施設整備」は少なく、「改修」や「類似施設との広域連携」が多い。文化会館の改修など、必要に応じた改修によって満足度を維持する取組が求められている。

全体(N=60)



	既存の施設・設備を改修する	新たな施設を整備する	周辺市町村の類似施設との広域連携(利活用)	その他	無回答	計
男	35.3%	5.9%	41.2%	11.8%	5.9%	100%
女	32.0%	20.0%	24.0%	24.0%	0.0%	100%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
計	33.3%	11.7%	33.3%	16.7%	5.0%	100%
16～19歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100%
30～39歳	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	0.0%	100%
40～49歳	28.6%	21.4%	42.9%	7.1%	0.0%	100%
50～59歳	36.4%	18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	100%
60～69歳	22.2%	11.1%	55.6%	11.1%	0.0%	100%
70～79歳	40.0%	0.0%	10.0%	40.0%	10.0%	100%
80歳以上	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100%
計	33.3%	11.7%	33.3%	16.7%	5.0%	100%

問 42 どの施設、設備をどのように改修した方が良いと思うか

※ 問 41 で「既存の施設・設備を改修する」に回答した方のみを対象とした設問です。

具体的な施設・設備の改修希望については以下のとおりである。

- | | |
|--------|---|
| ① 施設名 | : 中央公民館の講堂・一部学習室 |
| 理由 | : 窓を開けてもあみ戸が無い。講堂の非常口の外の喫煙場から煙が入る、においがある。 |
| ② 施設名 | : 中央公民館 |
| どの様に | : 音楽のイベントで収容できる魅力ある場所に改装してほしい。 |
| ③ 施設名 | : 中央公民館 |
| 理由 | : デマンドバスの時間、交通の不便さ |
| どの様に | : 交通網の精査 |
| ④ 施設名 | : 施設がどこにあるのか知らない |
| どの様に | : 年に1度市報でお知らせする。 |
| ⑤ 施設名 | : 田中資料館、埋蔵文化財展示施設(北御牧支所内)展示スペース |
| 理由 | : 説明等が全く不足。 |
| どの様に | : 存在をもっと市民に PR すべき。市博物館的なものの新設が望ましい。 |
| ⑥ どの様に | : 施設に居る方の対応レベルを高める。 |
| ⑦ 施設名 | : 東御市文化会館 |
| 理由 | : コンサートに行った時、椅子の狭さを感じたのでそこを改善して欲しい。 |
| どの様に | : 広くゆったりと座れる様に。 |
| ⑧ 施設名 | : 雷電生家 |
| 理由 | : 駐車場がないため。 |
| どの様に | : 作って欲しい。 |
| ⑨ 施設名 | : 東御市文化会館 |
| どの様に | : カフェの充実。 |
| ⑩ 施設名 | : 全施設 |
| どの様に | : バリアフリー化とエレベーターが設置されている様にする。 |
| ⑪ 施設名 | : 中央公民館 |
| 理由 | : 中途半端な公園みたいなものはいらない |
| どの様に | : 駐車場を広くしてほしい。 |
| ⑫ 施設名 | : 東御市文化会館 |
| 理由 | : 階段の昇り下りが大変。 |
| どの様に | : エレベーターを設置してほしい。 |
| ⑬ 施設名 | : 全施設 |
| 理由 | : 駐車台数が少ない。アスファルトが痛んでいる。 |
| どの様に | : 駐車場の拡充。アスファルト舗装。 |

《団体向け》

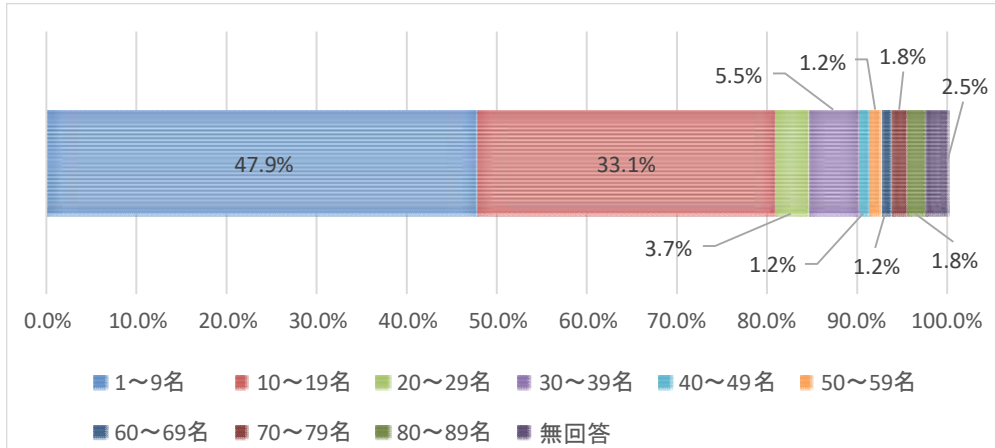
1 回答団体のことについて

問1・問2 会員（加入者）数と現会員（加入者）の平均年齢について

ほとんどの団体が19名以下の会員で構成されており、約半数の団体が「1～9名」の小規模な団体である。平均年齢を見ると「70～79歳」が40.5%、「60～69歳」が35.6%と続き、60代以上が大半を占めている。

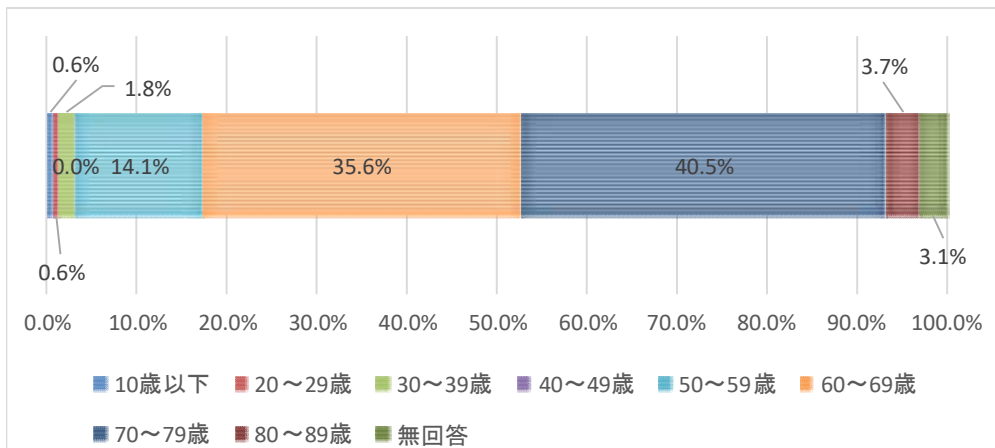
会員数

全体(N=163)



平均年齢

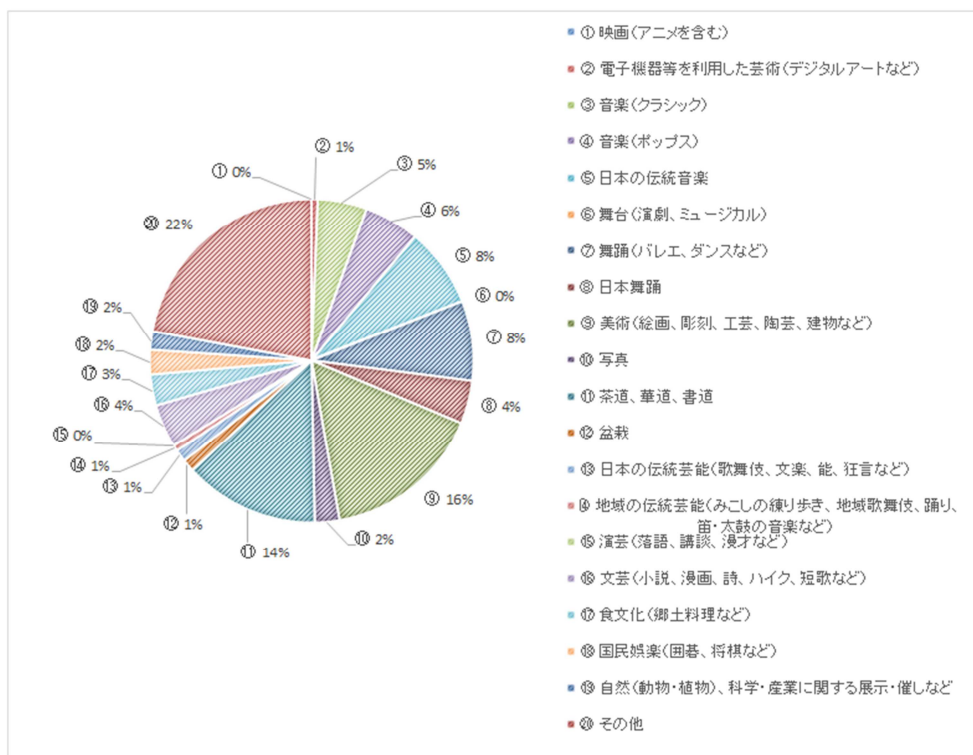
全体(N=163)



問3 主な文化芸術活動の分野について

主な活動分野は「その他」が 29.3%と一番多く、活動内容が多岐にわたっており、分類が難しい状況であることが分かる。次いで「⑨美術」が 16%、「⑪茶道、華道、書道」が 14%で多い。

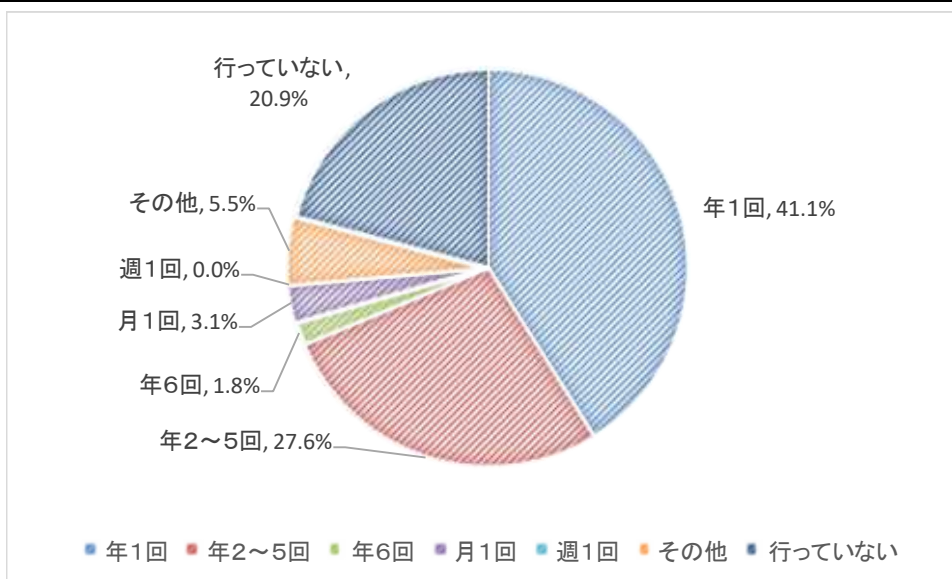
全体(N=163)



問4 活動成果の発表会や展示会等の頻度について

41.1%の団体が「年1回」、27.6%の団体が「年2～5回」の成果発表を行っている一方で、20.9%の団体は成果発表を「行っていない」と回答した。通常の活動とは別に成果発表の場を設けることが難しい団体が多いことが分かる。

全体(N=163)

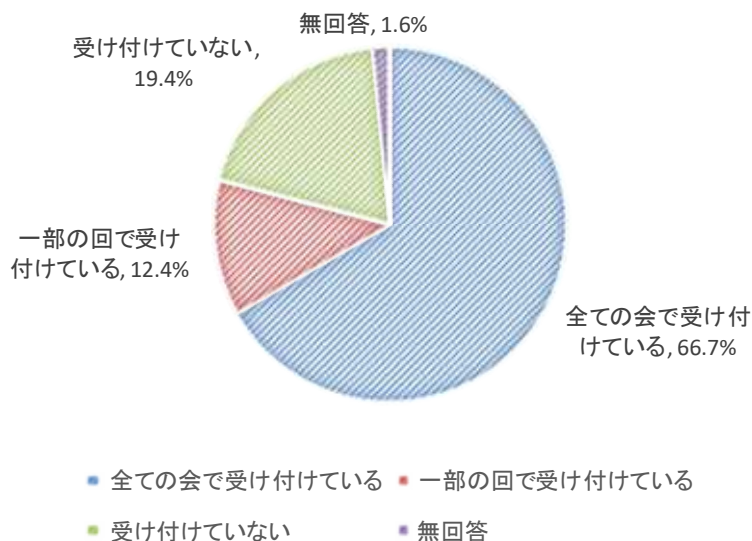


問5 成果の発表会や展示会への一般参加について

※ 問4で「行っていない」以外に回答した団体のみを対象とした設問です。

ほとんどの団体が「全て」または「一部」の成果の発表会や展示会等において一般参加を受け入れている。

全体(N=129)

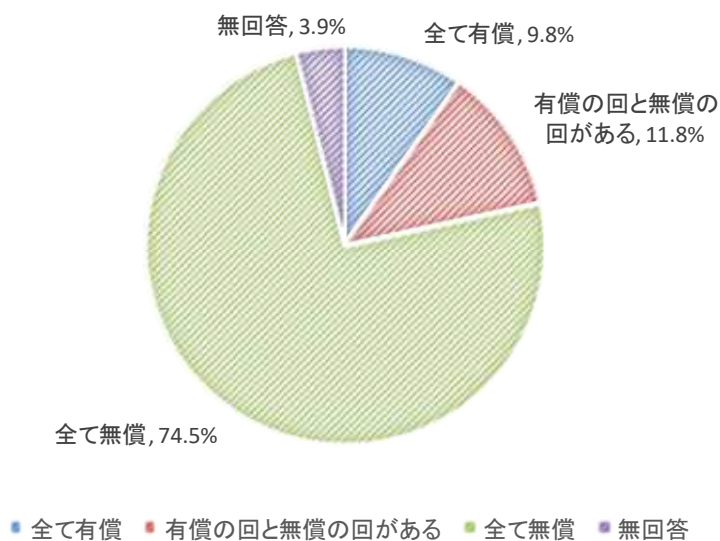


問6 成果の発表会や展示会等の一般参加にかかる負担について

※ 問5で「受け付けていない」以外に回答した団体のみを対象とした設問です。

成果の発表会や展示会等において、一般参加の場合も無償であることが多い。

全体(N=102)

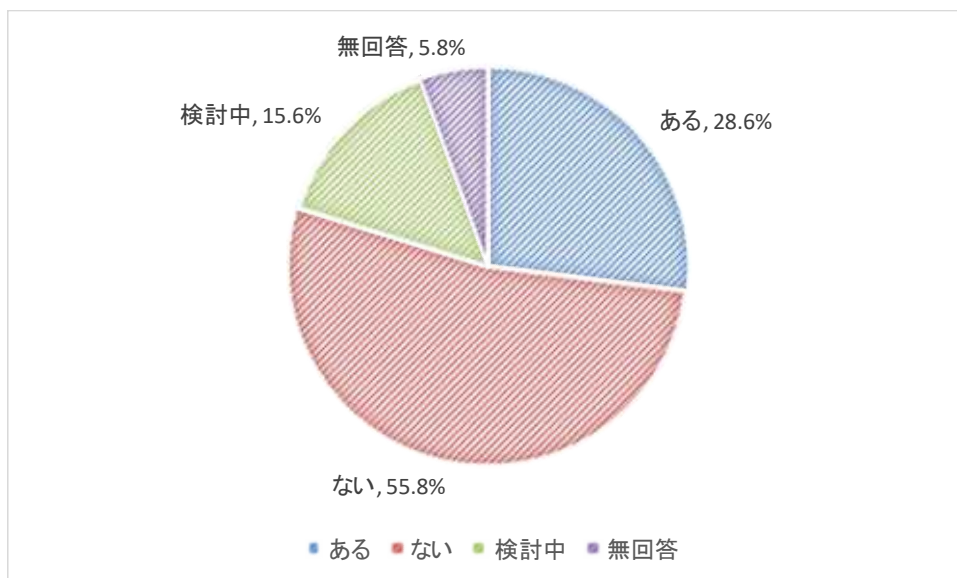


2 障がいのある方や未加入者への対応について

問7 成果の発表会や展示会等における障がいのある方への配慮はあるか。

障がいのある方への配慮が「ある」団体は 28.6%で、「検討中」の 15.6%を足しても「ない」の 55.8%に及ばない。

全体(N=163)



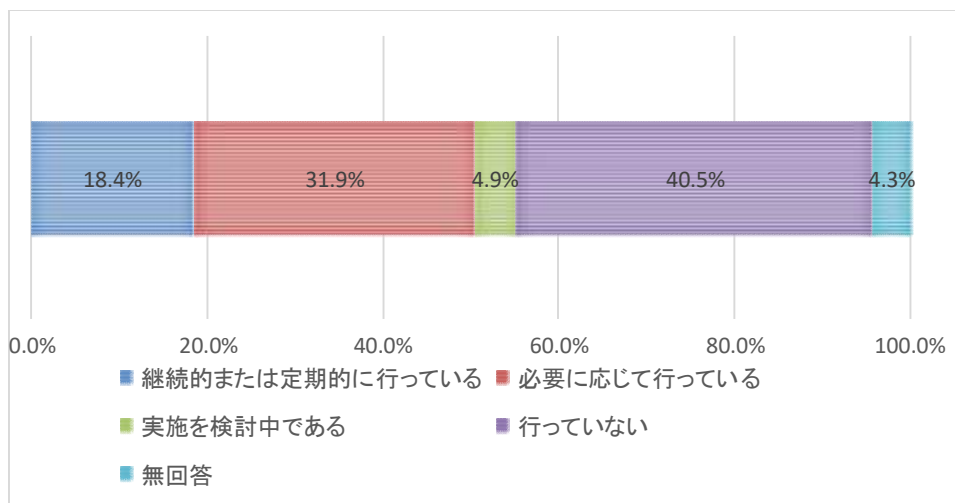
問8 障がいのある方への配慮の具体例

- ・車椅子を2脚用意。障がい者、福祉への招待状送付。
- ・負担にならない様な動き方で曲に合わせて踊っている。
- ・椅子にかけてできる動作、呼吸がある。
- ・エレベーターの設置、バリアフリー
- ・全員で障がい者入会を願っている
- ・楽しみ
- ・会員相互の助け合い
- ・本人の主体性を活かす
- ・椅子の用意
- ・障がいがある方に応じた楽器使用
- ・サポーターも同居。字の大きさ変更等(見やすく)。プロジェクター使用。平日、昼間に学習
- ・使用する会場がサンテラスや小諸の文化会館で公共施設を使用するので
- ・来場者へは手をさしのべる
- ・車椅子参加でも良し
- ・演奏会場に車椅子対応の席やスペースのある場所を選択。・障がい者施設への慰問合唱活動。
- ・その人に合った様に行っていく。
- ・椅子に座って行う
- ・車椅子の準備。手話を取り入れている。
- ・足の不自由な方には椅子を出したりしている。
- ・会員全員で展示する
- ・車椅子対応
- ・センターマイクのそばに杖の代役になるスタンドを立てる
- ・車椅子のコーナーを作っている。
- ・車椅子利用者に見学しやすい様に段差や階段のない会場展示をしている。
- ・障がい者も参加可能な会場を選択。
- ・聴覚障がい者の方は、社会福祉協議会に手話を頼んでいる。
- ・受付の人が待機している。
- ・使用する楽器の調整、楽譜、音量等の調節ができるよう考慮している。
- ・足が不自由な方は椅子席の用意、エレベーターの優先使用、ご案内を行う。
- ・中央公民館で展覧会として行っている。自由に観覧できる。
- ・会の活動において障がいの有無に関係なく行える。
- ・車椅子専用席への案内している。
- ・椅子に座っての参加可能としている。
- ・屋外の発表会はフラットな場所で開催。室内発表会では文化施設のスロープ等がある。
- ・会員を講習会へ参加させ対策を検討している。会員にも障がいのある方が2名いて毎回参加している。
- ・案内を出し、共に参加できる内容を組み込む。

問9 未活動者や未加入者向けの PR 活動について

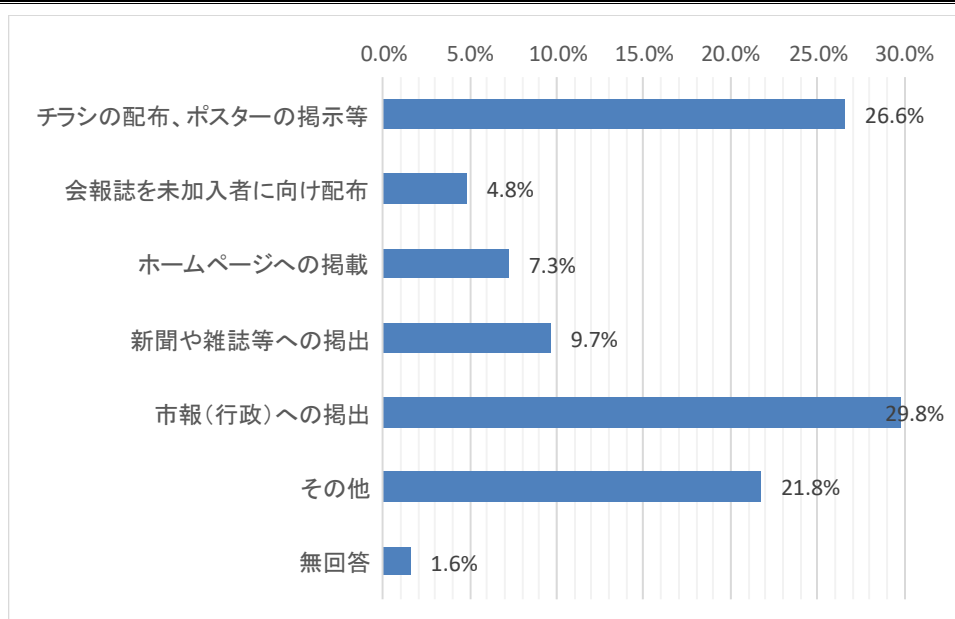
約半数の団体が PR 活動を「継続的または定期的に行っている」または「必要に応じて行っている」が、40.5%と多くの団体は PR 活動を「行っていない」と回答した。

全体(N=163)



問 10 PR 活動の具体例[複数回答可]

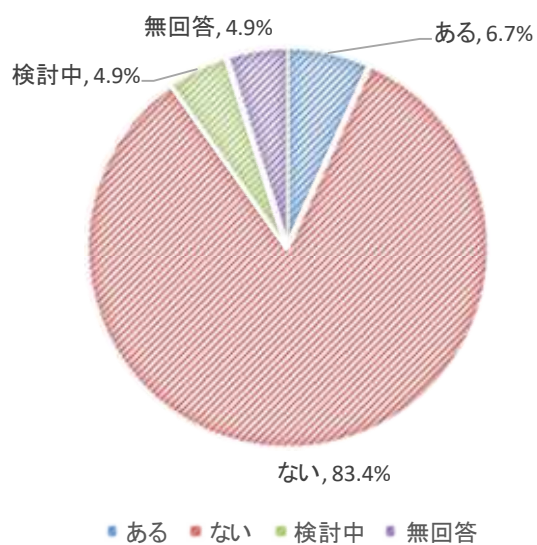
全体(N=124/90)



問 11 団体のホームページや SNS はあるか。

公式のホームページや SNS が「ある」団体はわずか 6.7%に留まり、電子媒体における広報活動ができていない団体がほとんどだ。活動紹介や勧誘において、素早い対応ができない可能性があるということが分かる。

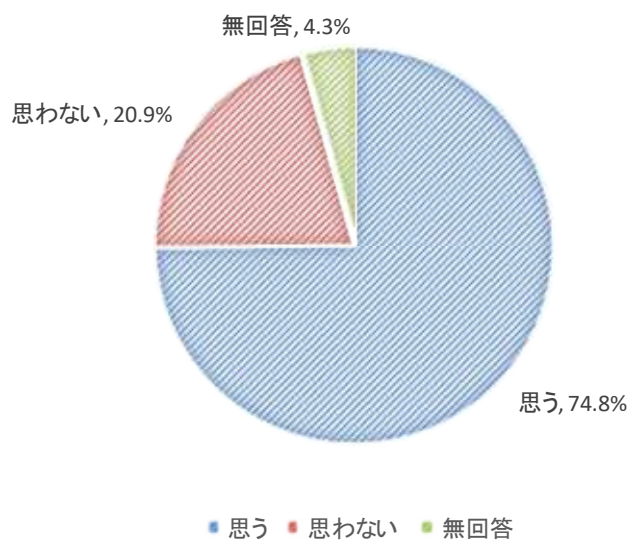
全体(N=163)



問 12 障がいのある方にも活動に参加してもらいたい(参加できる)か。

74.8%の団体が障がいのある方にも「参加してもらいたい」と回答したが、20.9%の団体は「思わない」と回答した。問7の結果を合わせて考えると、障がいのある方への体制が十分でないことが「思わない」と回答した理由だと考えられる。

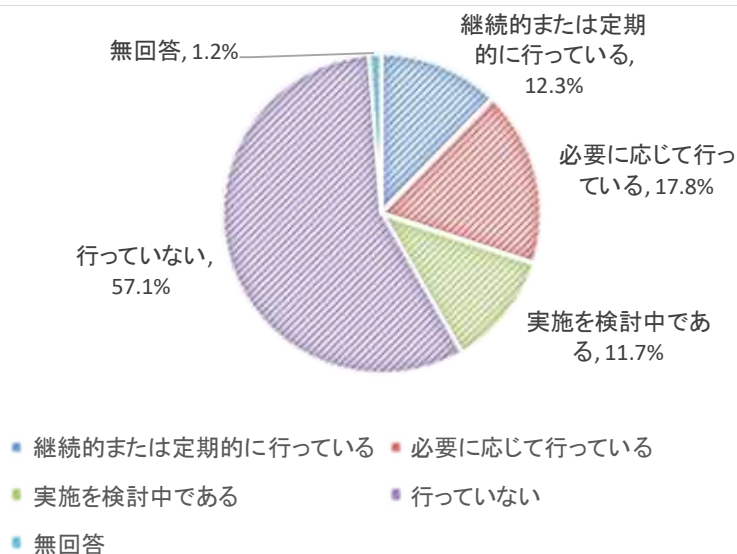
全体(N=163)



問 13 後継者育成のための事業や活動を行っているか。

問2の結果から各団体の平均年齢が高いことが分かるが、後継者育成のための事業や活動を行っている団体は少なく、「継続的または定期的に行っている」団体は 12.3%しかいない。

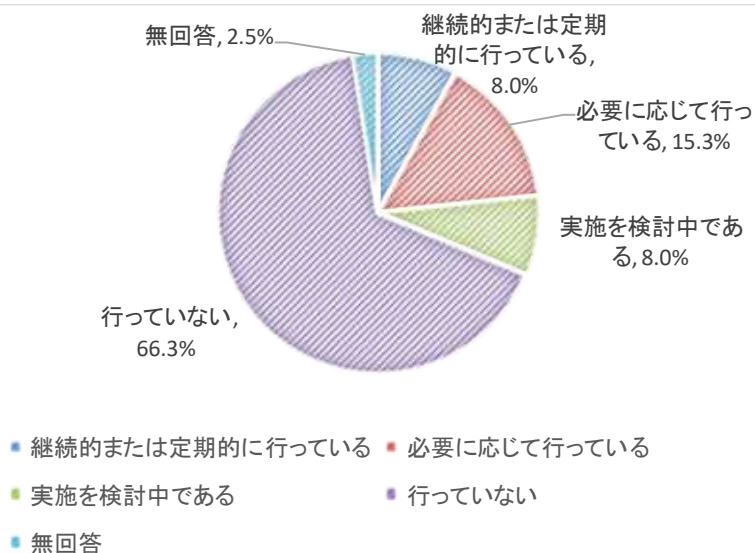
全体(N=163)



問 14 他ジャンルの文化芸術団体と交流(コラボレーションを含む)を行っているか。

他ジャンルの団体との交流を「継続的または定期的に行っている」団体は 8.0%、「必要に応じて行っている」団体は 15.3%であり、団体間の交流は盛んではない。成果の発表会や展示会等が少なく団体のホームページや SNS が無いので、他ジャンルの団体の存在や活動内容を把握できずに交流も少ないことが分かる。

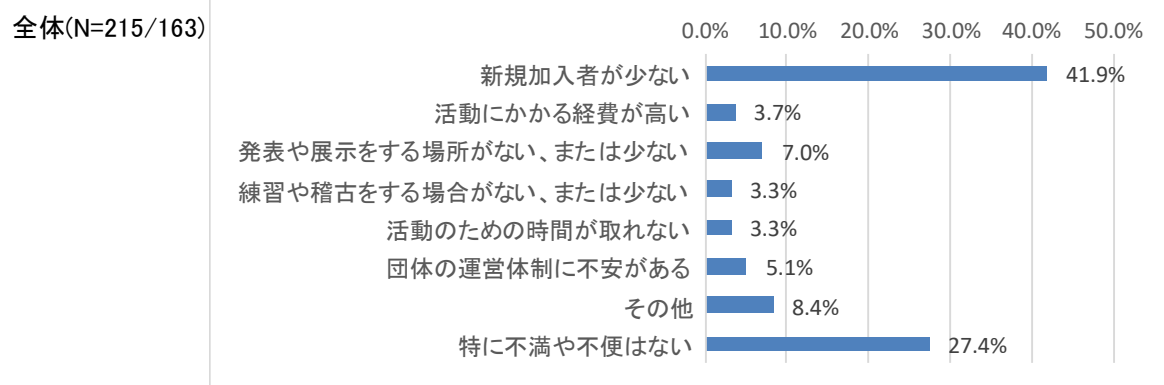
全体(N=163)



3 これからの文化芸術活動について

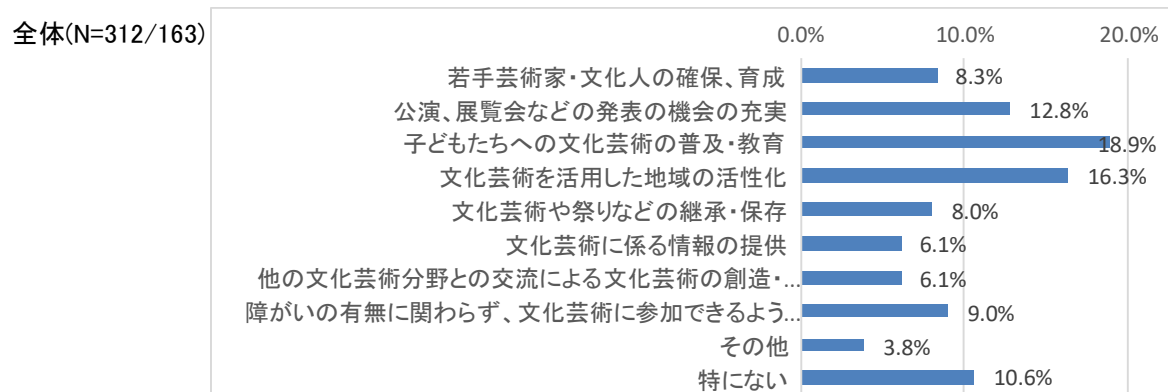
問 15 団体の事業や活動で不満や不便は何か。[複数回答可]

団体活動等における不満や不便の中で最も多いのが 41.9%の「新規加入者が少ない」で、その結果が会員数が少なく平均年齢が高い現状につながっている。一方で 27.4%が「特に不満や不便はない」と回答しており、現状や将来に対する考え方は団体によって差があることが分かる。



問 16 団体としてやっていきたいことや担っていきたい役割は何か。[複数回答可]

団体の役割として、「子どもたちへの文化芸術の普及・教育」が 18.9%、「文化芸術を活用した地域の活性化」が 16.3%、「公演、展覧会などの発表の機会の充実」が多く挙げられた。



問 17 団体としてやっていきたいことや担っていきたい役割に関して課題や悩みについて(自由記述)

団体の役割として、「子どもたちへの文化芸術の普及・教育」が 18.9%、「文化芸術を活用した地域の活性化」が 16.3%、「公演、展覧会などの発表の機会の充実」が多く挙げられた。

- ・新規加入者が少なく、加入希望者は高齢
- ・若い人たちへ関心を持ってもらい、子ども達が学校でも文化に触れる機会が増えると良い。気軽に参加できると良い。
- ・若い人が加入したがない(忙しいからか。)
- ・チームワークの仲の良さ重視で和やかな空間の中で集中した作品作りに励んでいます。個々のペースで気長に仕上げていっているので展示発表等を頻繁に行うことが難しく少し負担に感じます。
- ・健康づくりと暖かい絆づくりを願って活動しています。もっと指導者の学習が必要だと思います。
- ・団体活動の発表の機会が少ない。発表する会場が思うように取れない。(他の団体と重なる)発表会を告知する方法が少ない。市も発表会を広報に掲載するなどの協力してほしい。
- ・昔は、お正月に百人一首やかかるたをして自然に短詩型文学になじんでいたが、今はそういうこともなくなり、学校での学習も通り一遍の感があるので、趣味として深く学び、楽しもうという人が少なくなっている。
- ・会員が少ないこと
- ・生活の中で気軽に蕎麦を打ち、楽しめる生活をできるように努力したい。
- ・会員が高齢者が主なので若い方の入会を望んでいる。
- ・催事に参加しやすい情報が多く届くこと。団体相互の情報共有。
- ・現在、男性と女性が半々ですがもっと若い女性に興味を持っていただきたい
- ・若い人の関心が少ない
- ・会場確保が難しい。生涯学習優先順位にするのもわかるが何とか良い方法はないでしょうか。
- ・若い人の参加がない。年々減少している。
- ・人が集まらないことと、高齢化によって次世代への不安
- ・発表できる機会を多くしてほしい
- ・会員全員が高齢化しているので今までのような発表会、コンクール参加等も少なくして、集まって、楽しく行うレクリエーション的な会にしたい。
- ・地区内の人が少ない高齢化しているので、継続して次世代へつなげるにはどのようにしたら良いか。若い世代に良さをアピールする方法。
- ・未病を防ぐためのアロマセラピーや食の発信をしていきたい。広く伝えるためには公共の施設を活用し、皆が上手に時間を使えるようになればうれしい。継続していきたい。
- ・団体としてというより、子どもたちに自然の良さを伝えられたら良いと思っている。
- ・新たなメンバーの勧誘と発表の場の設定
- ・今やネットの時代、公民館活動でネット回線が利用できない。データ検索、共用、利用ができればと思う。
- ・若い人の参加が少ない。募集も大切。楽しく参加出来るよう活気がほしい。市の協力。
- ・今後、コロナウイルス感染症の影響で発表活動が大きく制約を受け続けることが悩み。
- ・若い方の育成確保が急務。
- ・参加者の日常の“潤い”が持てることまた、その機会をつくること。一人ひとりが「芸術」の心、目を持つことが大切なのではないか。
- ・会員の高齢化と新たな会員確保(退職が延長する程加入確保が困難)
- ・伝統芸術としてのお花を習いたいという若い人が全くいないのでこの先が心配。

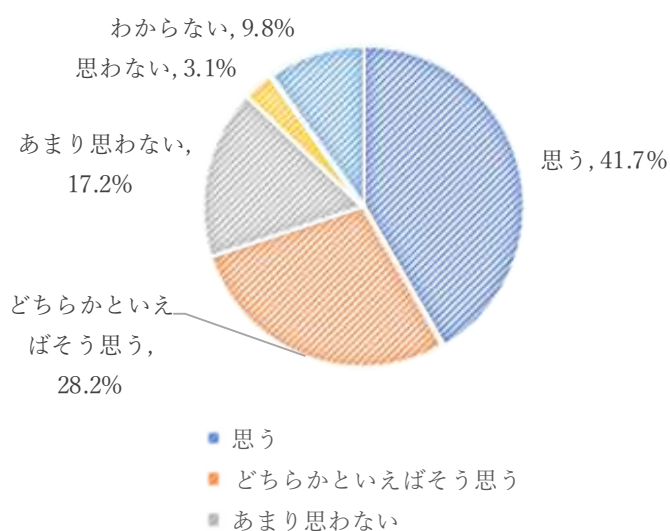
- ・担当係の方に協力いただいて感謝。特に練習の時、遅くまでありがとうございます。
- ・若い人や子ども達にも参加してほしい。
- ・活性化させようと思っても場所が取れないことがショック。
- ・皆と交流を持って楽しく過ごしていきたい。
- ・生きがいを感じ、できるだけ長い間、出席できるとうに楽しい人生を送りたい。
- ・大人から子どもまで参加出来ることなので、土、日曜日でもできるようになれば良い。保険関係をしっかりとっていただきたい。ある程度個人情報講師等に出しても良いのではないかなと思う。
- ・発表の場、舞台への出演、イベント出演が欲しい。活動していることをアピールする手段が少ない。
- ・継続して練習や稽古をしていきたいと思いますがコロナでなかなか活動が出来なかった。
- ・小・中・高生は忙しく、夏休みでの参加も困難な様子。教員も忙しく、文化芸術への関心は薄い様だ。地域文化は豊かなコミュニティを作るための精神的土壌を作ることに通じるので子ども達が参加出来ることが大切。教育現場と文化団体の意思の疎通が出来たら良いと考える。
- ・技術を身につけるためには長い月日が必要なため、若い人に入ってもらいたい。
- ・子ども達に学習する時間をあげたい。
- ・悩みは今のところない。
- ・高齢化が進み、いつまでも絵画続けられるかわからない。文化の継承や継承者の育成をしたくても・興味を持って始める人がいない。若いうちに文化芸術に接する機会をたくさんつくってほしい。
- ・道具が不揃い。良い道具が必要なので揃えて欲しい。
- ・若い方の加入が少ない
- ・会員を増やしていきたい。広報をどうすればよいか。
- ・小・中学生向けの講座開講により、早い段階から学習する機会をいただいている。日本文化継承の意識を自覚させることにより継承者としての意識も芽生えてくると感じる。技術的なことのみにこだわらず、心を落ち着かせゆったりとした時間を体感できることに受講者は気づいている。今後でもできる限り普及の役割を果たしていきたいが、小・中学生の土日は多忙で選択肢も多いので子ども自身より親にやらされている感の子もいる。
- ・会員が少なくなって運営が困難になる。文化芸術活動をする人が少ない。
- ・民謡部会としては若者の加入がなく、継続が難しくなりました。三味線を習いたい人もゼロに等しい状態です。
- ・文化芸術関係の受講者、指導者が著しく減少しています。まず、受講者の減少原因は定年が60から65歳に延長したことです。現職時代は精一杯働き、習い事など出来ない現状です。55歳になったら何か退職してからも続けられる団体に所属し基礎作りをしてほしい。指導者不足は、10年以上のベテランが高齢者で減少となりました。現在の受講者の思考は、お楽しみ思考50%、チャンピオン思考50%だと思われる。指導者は資格なし、学歴より長い経験から得た知識と最も大事な人間関係を教えていただきたい。こうした事業に対して行政は事業支援または補助をすべきです。誰が指導者を育てるかは、市文化協会で企画し実行してもらいたい。東御市の人づくりは、生涯学習が一番大事なことです。
- ・参加者同士のコミュニケーションが良くとれている。
- ・会員の高齢化、新規入会者の確保
- ・会員の増加、モデル代金の経費
- ・東御市民の文化レベルが低い(無料・有料にかかわらず)関心が薄い。
- ・少しずつ地域に発表の場を広げて、にぎやかに明るい地域になる様努めたい。
- ・年齢、体調、その他のことで講師は終わりにしますが、入会者は皆楽しんでいるので新しい講師を見つけて続けて欲しいと思う。

- ・会員の高齢化、新しい人が増えない、加入しない。
- ・高齢者主体の活動になってしまっており、若い人がなかなか増えずさらに高齢化が加速している。文化協会の動きが全体に趣味のグループがほとんどなので学究的なグループへの働き方や支援を早急に進めていただきたい。
- ・自分たちの楽しみや技術の向上のためにやっていますが、地域子ども達や皆さんにも興味を持って頂けたらうれしい。
- ・新規加入者(若手)が少ない。
- ・高齢化に伴う会員確保の苦慮
- ・若手への普及と子ども達の育成
- ・合唱団員の高齢化で参加者が減っている。チラシ等で募集をしても結果につながらない。
- ・市民が心身ともに健やかに過ごすことは文化芸術のベースになると思う。
- ・竹紙の工法、技術等を若い方に伝えていきたいがうまくいかない。このままでは20年以上やってきたことが途絶え無駄になってしまいます。
- ・施設への慰問を何回かしているが、継続性がなくもっと受入れてもらいたい。
- ・「文化の薫るまち」と市民憲章に謳っている割には文化活動団体に対する助成等が少ないと思う。それをさらに厳しくする気配もあり先行きが心配。
- ・リトミックは子どもだけのものでは無いと考えている。公民館活動に参加しているのは、同じ年齢のお子さんを持つ親同士が日頃の子育てについて、悩みやストレスを解消できる場として少しでも役にたてればと思い講座を開いている。それによって虐待などを防げたら良いなあと思っています。
- ・新規加入者が少なかったり、発表の場があまり多くないのが現状です。2024年パリオリンピックではブレイクダンスが正式種目になり、当団体の子ども達も目指すことになりました。もっとダンス人口が増えていけばより良い環境になると思います。良ければ小学校などでも無償で教えに行くことも可能なのでご検討ください。

問 18 東御市を「文化芸術活動が盛んなまち」だと思うか。

東御市を「文化芸術活動が盛んなまち」だと思「う」団体は41.7%、「どちらかといえばそう思う」団体は28.2%で「あまり思わない」と「思わない」の20.3%に比べて高い割合だが、肯定的な69.9%の中にも不満・不便が多くあるであろうことが前の設問の回答から分かる。

全体(N=163)



問 19 「とうみの文化」(東御市固有の文化、東御市らしさ)でイメージするものは何か。(自由記述)

- ・文化会館活動の充実。生涯学習の充実。地域行事(歌舞伎、神輿祭り)の充実。自然探索。
- ・文化を大切される。色々なことに協力的な市だと思う。
- ・巨峰の王国祭りが農協主体でなく市主体で色々な催しをしてもらいたい。
- ・「とうみの文化」などと特定する必要はないと思います。より生活が有意義になる、その人の文化を大切にはりあいのある生活になることが大切ではないでしょうか。
- ・文化芸術を活用した地域の活性化。作家水上勉氏指導による八重原「竹紙の里」の活性化。竹紙絵、竹紙書用に全国的に珍しい竹紙の制作者の育成及び活用普及活動を推進していただきたい。
- ・祢津の子ども歌舞伎、舞台歌舞伎
- ・歌舞伎の伝承に力を入れている。文化芸術活動が盛んである。
- ・祢津の歌舞伎
- ・「食」も立派な文化。市の特産品であるブドウ、ワイン、胡桃をもっと前広に全国に発信することが必要。
- ・東町歌舞伎、常田の道祖神、どんど焼き、金井の火祭り、白鳥神社の浦安の舞
- ・歌舞伎、祇園、御柱
- ・現在の会員は、6年目の方が多い。稽古そのものの楽しさと互いの親睦を楽しんでいる雰囲気の良いさに惹かれている方が多い。
- ・生涯学習に参加する方が多い。1人でいくつもやっている。
- ・各集落に古くから続いてきた、芸能の掘り起こしができたら良いと思う。
- ・人と人のつながり
- ・音楽活動の盛んな市。クラシック、ポップス、民謡、演歌、童謡などのサークル活動が盛んな市にしてほしい。イベント開催を多く企画する。オーケストラ結成、民謡祭、70歳以上カラオケ大会、童謡・唱歌、独唱コンサート、県童謡大会。
- ・サンテラスホールの活用がとても良い。各種コンサート、展示室、特にロビーを利用したコンサートが好き。もっとフル活動を希望する。
- ・古典和太鼓、相撲甚句、獅子舞
- ・素晴らしい景観を大切にし、この環境を市民が大切に守っていききたい。
- ・海野宿
- ・多種多様な文化の良さ
- ・広い公園が充実している。手入れも行き届いている。
- ・海野宿、湯の丸、歌舞伎
- ・文化活動の指導者の育成、若い皆さんの加入促進、文化活動のための予算を増やす、他市町村との文化的な交流を図る
- ・祭り。各地にある昔から伝わる行事を絶やさずに子ども、孫世代に伝えたい。東御市には古墳などがある。歴史のある所なので後世に残し大切にしていければ良い。古典芸能のススメ。相撲甚句。喧嘩みこし。火祭り。歌。文化。人々との関わりがある。団体活動も通し支え合いの精神も生まれ、いざという時それが役に立つ。日々の生活にも張り合いが持てる。
- ・伝統も大切にしながら新しい文化を育てることに力を入れていると思う。
- ・新規に転入された方々も参加した自由な文化活動。伝統を未来に伝えるための活動の充実。
- ・シニアが気軽に参加、楽しみ、余裕のある人生で外出ができるように交通の便が良く、東御市で良かったと思えること。

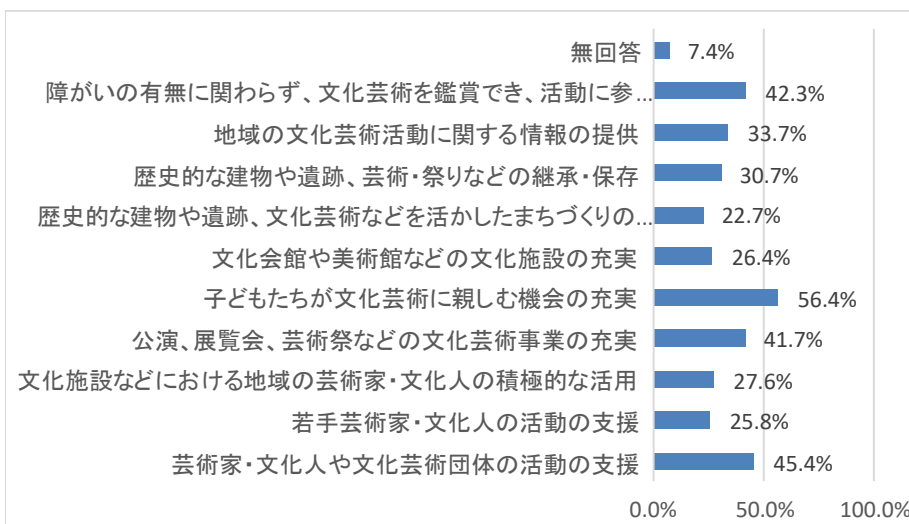
- ・雷電まつり
- ・自然に集まり談笑できる場が欲しい。他氏に比べて自由に行動でき新規の団体が作れる。
- ・東町及び西宮の歌舞伎、ワイン、ジャズ、胡桃
- ・自然、ワイン、胡桃、川(水)、相撲、海野宿
- ・公民館を通じて活動が活発に行われて市民参加が多いことは素晴らしいと思う。
- ・少し前までは歌(合唱)だと思っていたが、今は見えない。
- ・太陽に照らされた明るい住みやすい地域。自然に囲まれたやさしい町。
- ・発表、展示会に一般市民がもっと足を運んでいただきたい。
- ・東御市らしさが分からない。少しは市の予算が欲しい。定年が延長し、文化活動しにくいのではないか。
- ・各地域に色々な文化、言い伝えがあるので、広めていき皆に知ってもらうのが良いのでは。
- ・自分が住む町で好きなことを学び楽しい人生を送る所にしたい。大きなことでなく小さなことで良い。
- ・自然が多い所なので、有効活用することができる。
- ・サンテラスホールで定期的に夜会、ピアノのタベなどのコンサートやジャズフェス等の催しを楽しみにしている。
コロナでもユーチューブで配信していて素敵だと思う。
- ・柵津の歌舞伎。北御牧の火のアート。
- ・雷電、東御八景
- ・丸山晚霞から続いている水彩画の普及。梅野絵画記念館を通しての新しい絵画の発信。登り窯を活用した陶芸家の育成と陶芸への普及活動。
- ・「東御市」という名がきらい。
- ・文化学習等の展示。自然と共にできるもの。
- ・海野宿。柵津の歌舞伎。柵津の喧嘩神輿。地区ごとの文化の保存、継承がされていて素晴らしい。継続して欲しい。
- ・合唱が盛んなイメージ。サンテラスホールの催しものを頑張っている感じがする。
- ・明るい。晴れている日が多い。海野宿などの文化財も残っている。
- ・柵津地区に伝わる歌舞伎、子ども歌舞伎。学校も地域文化の活動に参加されている所が素晴らしい。「生涯学習の町」として活動を始めたころは皆が競って学びの場を求め一人ひとりが向上心を持って学習に向き合いすごい勢いを感じた。学んだことを自分だけのものにせず地域に還元することが大事と言われたが、そこが難しいと思います。
- ・文化芸術活動が盛んになっている東御市。文化に勤しむ市民の姿。
- ・東御市の文化芸術は東御市らしさが薄いと思われます。もっと教育面、観光面で現物を見学してもらい、習っていただきたい。それが人の交流につながり東御市の存在感となる。例えば、大田区との文化交流を他部門において継続的に行い、丸山晚霞の作品紹介、雷電の案内等、これも文化協会で行う仕事だと思います。
- ・柵津の回り舞台
- ・柵津東町の歌舞伎、芸大とのコラボによる火のアートフェスティバル、焼き物、天空の芸術祭、海野宿、田中宿、滋野宿、北国街道の歴史、八重原用水「黒沢嘉兵衛」の歴史の顕彰、ジオラマの製作をして郷土資料館に記念館を開設する。
- ・各地域の埋もれた遺跡、芸能の掘り起こし等。
- ・農業(ぶどう、胡桃、じゃがいも、とうもろこし)に密接な文化があると思います。巨峰まつり、湯の丸、烏帽子
- ・子育て中、この地を子どものふるさとにしようと思いました。それから50年、今は孫のふるさとにもなりました。学びたいもの(スポーツを含め)の選択肢が多く、また場所(施設)も近くて住みやすい所です。

- ・ぶどう、かしぐるみ、海野宿、雷電生誕の地
- ・東御市の文化の取り組みは素晴らしいので市民参加をどう増やすか検討をお願いします。
- ・東御市は生涯学習が充実していてその成果を発表できるのでとても「やりがい」「学びがい」がある市だと思う。
コロナが終息したら復活させたい。
- ・イメージするものがない。今後何か1つあれば良いと思う。
- ・生涯学習は盛んなまちだと思っていますが、若い人達の参加が少なく、団体の活動も高齢化とともに少なくなり、消滅する団体も出てきて淋しいことだと思います。with コロナの時代、オンラインで活発化できる方法はないものでしょうか？
- ・食文化がすぐに出てきます。文化祭各種のお祭りに参加しても飲食のテントが多いと思います。
- ・豊かな自然と共生する人々の暮らし。
- ・文化活動をしやすい場や伝統が根付いており、活動する人数はかなり多いと思うが若い人の参加が年々減っている。参加しやすい環境や受け皿作りが急務であると思う。そのためにも文化協会への行政の関りを深め、支援方法について公民館活動や文化財行政と連携して進めて欲しい。
- ・住みやすい、陽当たり、景色が良い。東御市の文化協会は素晴らしい。500円の会費で自由に会場を使えるのでありがたい。他の市町村では聞いたことがない。だいたい有料。今後もこの制度を続けて欲しい。
- ・自然豊かな所なので、芸術や地域の特産であるブドウ、胡桃、ワイン等、これからもっと発展していくと思う。
- ・お年寄りが元気。
- ・有識者、文化人等の招聘
- ・生涯学習塾が充実していて、市民が参加しやすい環境がある。
- ・公民館を通じての文化的な活動が活発で多彩であると思う。
- ・「北御牧村」時代は、芸術むら公園が芸術中心でしたが、経年とともに「やきもの道場」「竹紙工房」が影を潜め残念。やはり、利益の無い部分は切り捨てられてしまうのでしょうか。文化というものはお金に変えられない面があると思います。
- ・移住者が抱く「静かで明るく南面傾斜で永住の地として最高」こそ東御市らしさではないか。
- ・サンテラスホールで「夜会」「ピアノの夕べ」等のコンサート開催
- ・柰津の歌舞伎、文化会館の若手アーティストのロビーコンサートはとても良いと思う。
- ・現状では消極的なイメージ、東御 TOME のイメージしかない。

問 20 東御市の文化芸術を振興するために市が担う役割は何か。[複数回答可]

市に期待する役割として最も多かったのは「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」56.4%で、保育園や小中学校での授業、子どもを対象にした文化芸術的催しや文化施設の利用促進などに力を入れて取り組む必要がありそうだ。

全体(N=575/163)



問 21 その他、市が取り組む文化施策等に対してのご意見(自由記述)

- ・発表や普段からのスペース利用等、場所の提供、簡単・気軽に借りられる様に。
- ・積極的に取り組んでいると思います。
- ・中央公民館、各公民館、文化会館など市民が使いやすくなっていてとても良い。携わっている係の方もとても親切でありがたい。
- ・いつ、どこで、何の芸術活動を行うのか、文化芸術活動を幅広く告知してほしい。
- ・高齢者が係わっている活動が多いが、そういう団体より子どもたちがやっている活動に市は積極的に支援、応援していただきたい(文化、スポーツに限らず)。高齢者グループは、自分たちの楽しみでやっているので練習会場があれば良い。
- ・公民館が主催している各グループの応募を一段と市民にアピールすること。
- ・市民憲章の中でも文化について謳っていますが、残念ながら予算、人員等に関して縮小されていると感じる。スポーツ関連は長い目で見ても市の発展につなげたいという意図は理解できるがそちらばかりではないと思う。現在の生活形態の変化により若い方達の参加が少ないのは将来的にも不安がある。
- ・コロナで活動ができないので支援、活動団体への補助をしてほしい。
- ・施設をもっと活用できるようにした方が良い。
- ・施設、設備の定期的な修繕及び改修。
- ・シニアが気楽に楽しめる市に。
- ・行政指導による「生涯学習の推進」した時代から50年を迎え、大きな成果を感じ、一市民として改めて感謝しています。今や少子高齢化やニーズの多様化等によりこれからの市民ニーズにフィットさせる各種施策の提供が大変難しい時代ではないかと感じている。
- ・石造文化が多い、調査してもっと広く周知しキャッチフレーズにすると良い。常田の剣石仏など歴史があるものをもっ

と知って欲しい。湯の丸百体観音など。

- ・小中学校への工芸を楽しむ体制づくり。
- ・施設はもう充分。幼児から高齢者まで自分の感性を信じ持てるようにすること、その感性を養う機会をサポートする。
忙しい時代ですが、心にゆとりをもつことの大切さの啓発。生涯学習は、以前に比べ施策が内容に見える。
- ・文化、スポーツ、地域活動していることによる健康増進等のメリットを分析して具体的施策を洗い出し、施策のPDCAを回したと思います。
- ・東信中の高校、中学などの合同発表会の時など、入場者1,000人程度のホールがあればありがたい。サンテラスの音響効果が良いと好評だが入場キャパがもったいないとの声も聞いている。
- ・東御市は文化活動が充実していると思う。
- ・文化芸術の範囲があまりにも大きく捉えにくい。市の活動が目に見えずらく情報もわかりづらい。
- ・これからは人口も大幅に減少するので情操教育に力を注いで欲しい。文化施設の利用促進も。
- ・文化協会全体の発表の場、以前文化祭があった。いつの間にか無くなり残念。色々なジャンルの交流の場が欲しい。
文化協会制度をなくさないでください。
- ・文化活動に係る予算は真っ先に削られる傾向にある。文化の貧しさは、地域の発展に大きなダメージを生じさせる可能性が大きい。人間性豊かで明るい地域(コミュニティ)には人も集まってくる。目に見えないことへの投資を是非して欲しい。
- ・このような調査は必要か？変なところにお金を使っていませんか？
- ・小・中・高生の児童生徒の皆さんに本物の文化芸術に触れる機会を増やして欲しい。
- ・報道等に対し市は積極的な宣伝が必要。
- ・古いものを残し、伝えていくという若者の取組みに目を向けていく。生涯スポーツ、生涯芸術というずっと続けられるものを意識して育てていくよう奨励する。
- ・文化活動、コンサート費用を高齢者へ補助。文化協会の役員の表彰だけでなく、サークル指導など永年(30年〜とか)貢献した高齢者(75歳以上)を表彰することが必要。
- ・交通が不便、レッツ号をもう少し上手に誰でも乗れる様にしてもらいたい。
- ・今後も市の文化施設の使用料金は今までどおり無料をお願いします。
- ・フリースペースを提供して、自由な発表、展示(飲食、販売を目的としたものではなく)が行えないでしょうか。施設利用者に負担のかからない時、場所等をフリーにしていただけるとうれしい。
- ・文化施策は一旦方向性が定められると時代の変化についてこれなくなる傾向が強い。その課題に対応するため、施策の柔軟性を確保できるよう定期的な意見の見直しと外部関係団体との協力が継続されることを望みます。また、そこに係わる市職員の異動については、他の部署より長く担当できるようにお願いしたい。
- ・中央公民館の音響設備を良くしてもらいたい。音響が良くないために文化会館を使用しているが年齢層から中央公民館で行事、発表会を開催したい。中央公民館が使えれば参加する会員も増えると思う。
- ・中央公民館の講堂の音響設備が悪いので改善を希望します。
- ・担当の市職員の意識の高揚(掲示物の無断撤去があった)
- ・文化協会への補助金増額。文化会館の天井改修工事を早めに進めて欲しい。
- ・文化祭等のイベント開催、ステージ発表の場の充実。
- ・コロナの影響で多くのアーティストが相当なダメージを受けたと聞いている。そういった方々への支援策として何か良

い方法はないでしょうか？

・2024 年パリオリンピック ダンススポーツ ブレイキンより早く着目すべきだと思います。

計画策定経過

年 度	月 日	経 過
令和2年	10月28日～11月30日	市民・団体向けアンケート
令和3年	6月3日	第1回庁内検討会議（アンケート結果・スケジュール）
	7月20日	第2回庁内検討会議（スケジュール・委員案）
	3月25日	第3回庁内検討会議（スケジュール・委員案）
令和4年	5月17日	第4回庁内検討会議（骨子案）
	7月29日	第5回庁内検討会議（素案）
	8月1日	第1回有識者懇談会（素案）
	8月23日	定例庁議（概要・体系・スケジュール）
	9月1日	9月議会全員協議会（概要・体系・スケジュール）
	9月8日	まちづくり審議会（概要・体系・スケジュール）
	9月22日	第1回教育部会
	11月4日	第2回有識者懇談会（素案）
	11月18日	第6回庁内検討会議（素案）
	11月21日	定例庁議（素案・パブリックコメント）
	12月2日	12月議会全員協議会（素案・パブリックコメント）

東御市の文化芸術振興を考える有識者懇談会 委員

氏名	所属等
赤堀 峰晴	東御市文化協会
秋山 廣文	しげの里づくりの会
今井 美樹	二胡奏者
金井 勝	東町歌舞伎保存会
関 理	海野宿保存会
寺島 隆史	東御市文化財保護審議会
早川 一夫	(一社)信州とうみ観光協会
増田 敏	NPO 法人 Js 文化フォーラム
三澤 一実	武蔵野美術大学
宮下 聡	東御市立和小学校

東御市文化芸術推進計画

令和5年3月

東御市企画振興部文化・スポーツ振興課

〒389-0592

長野県東御市県 281-2

電話 0268-75-1455 FAX 0268-63-5431

